

わたしの^{せいしよ}聖書が^{いちばん}一番！^{かん}8巻

^{いど}井戸の^{おんな}そばの^{ひと}女～人^{ほうほう}をゆるす方法

～ヨハネによる^{ふくいんしょ}福音書^{しょう}4章 - マタイによる^{ふくいんしょ}福音書^{しょう}18章～





もくじ

だい しょう	い ど	おんな	第 1 章	井戸のそばの女	1
だい しょう		いの	第 2 章	このように祈りなさい	8
だい しょう	み	もうじん	第 3 章	見えるようになった盲人	16
だい しょう	さんじょう	すいくん	第 4 章	山上の垂訓	24
だい しょう		ぬし	第 5 章	すばらしいいやし主	32
だい しょう	じゃま	れいはい	第 6 章	邪魔された礼拝	40
だい しょう		よる	第 7 章	あわただしい夜	48
だい しょう	さま	なみ	第 8 章	イエス様の並はずれた能力	56
だい しょう	さいしょ	でんどうりょこう	第 9 章	最初の伝道旅行	64
だい しょう	みず	うえ	第 10 章	水の上を歩くペテロ	72
だい しょう	ひと	たい	第 11 章	すべての人に対するイエスの愛	80
だい しょう	てん	ほうもんしゃ	第 12 章	天からの訪問者	88
だい しょう	ひと	ほうほう	第 13 章	人をゆるす方法	96

だいしょう 第1章

いと おんな 井戸のそばの女

あんしょうせいく 暗唱聖句



子供のための日々の
聖書研究ガイド

「わたしの食物しょくもつというのは、わたしをつかわされたかたのみこ
ころおこなを行い、そのみわざをなし遂とげることである。」ヨハネ 4:34

にちようび 日曜日

イエス様と弟子たちは、疲れきっていました。朝早くにユダヤを出発して、ガリラヤを目指し、ひたすら歩きつづけていたからです。彼らが歩いていたその道は、サマリア人が住んでいる国をとおっていました。ヨハネ 4:3,4。



長いあいだ、サマリア人とユダヤ人の仲はよくありませんでした。ユダヤ人がサマリア人に話しかけるのは、せいぜい物を売り買いする時ぐらいで、サマリア人に助けを求めすることもめったにありませんでした。

サマリアをめぐる道は、スカルという町にも通じており、そこにはヤコブが何百年も前に掘った井戸がありました。スカルの町とその井戸は、美しい谷の手前にあり、イエス様と弟子たちがそこに着いたのは、ちょうどお昼どきでした。弟子たちが近くの町へ食べ

物ものを買いに行く間、イエス様は井戸のそばに腰かけて休んでいました。彼は空腹で、のどがかわき、とても疲れていました。

そこにすわりながら、イエス様はこの井戸の水のことを考えていました。水はすぐ見えるところにありますが、バケツとロープをもっていないために、水をくんで飲むことができません。イエス様は、海や湖や川をお造りになりました。

たし、また、どんな奇跡でも行うことができますが、今はひとりの人間でしかありません。ですから、人間として生きることを楽にするための奇跡は、決しておこないませんでした。イエス様は、井戸のそばにすわって、わたしたちと同じように、ただ待つしかありませんでした。

考えてみよう:もしイエス様ご自身がのために奇跡をおこなっていたら、わたしたちのようにふるまったと言えますか? サタンは、イエス様ご自身のために奇跡をおこなうよう

こた 答えてはいますが、おそらく彼女は別の
ほうこう み 方向を見ていたことでしょう。それでもイ
エス様は、ご自分がすでに彼女のことを
なにか し 何もかも知っておられることを、彼女にわ
からせたのでした。17,18 節。

おんな すこ こわ 女は少し恐くなり、震えだしました。
じぶん おか かずかず 自分の犯した数々のあやまちを、だれに
し も知られたくありませんでした。ところが
イエス様は、すべてをご存じだったので
す。そればかりか、すべてをご存じであ
るにもかかわらず、彼女のことを気づかっ
ておられるのが伝わってきました。それから
おんな いそ わだい か 女は、急いで話題を変えようとしてしました。
イエス様は、彼女のするまにさせました。

19,20 節。

おんな 女は、ユダヤ人とサマリア人が長いあ
い だ言い争ってきた、あることにふれま
した。しかしイエス様は、それが重要で
ないことを彼女に気づかせました。ユダ
ヤ人は神様から十戒を与えられた民族で
あることを、イエス様は女に思い出させ
ました。そして、ユダヤ人であろうとサマ
リア人であろうと、また他のだれであって
も、神様を心から愛し、信頼し、神様に
したがう喜びをする人々を
かみさま もと 神様は求めておられると、
かのじよ はな 彼女に話したのでした。

サマリア人たちは、い
つの日かメシヤが来ること
を信じていました。女は
イエス様に何と言いました
か？またイエス様の答えを
聞いて、女はどんな気持ち
になったと思いますか？



25,26 節。

かんが 考えてみよう：井戸には水があります。
イエス様は、すべての人への愛とゆるし
に満ちた、井戸のようなお方です。女には
それがわかったでしょうか？

すいようび 水曜日

井戸のそばで、イエス様はご自分が
メシヤであることを女に告げ、女
はそれを信じました。彼女はすでに、イエ
ス様について書かれた約束を読んでいて、
そのことをもっと深く知りたいと願って
いました。そして今、そのメシヤが彼女に話
しかけておられるのです！彼女は、イエス
様が本物のメシヤであると信じました。

そのうちに、弟子たちが食べ物を持っ
てもどってきました。イエス様がサマリア
人の女と話しているのを見て、彼らはたい
そうおどろきました。ヨハネ 4:27。

弟子たちは、この女が水の入ったかめ
を井戸のそばに置いたまま、あわてて町
へもどっていく様子を見ていました。彼ら

は、イエス様が空腹での
どがかわいておられるの
を知っていましたが、イエ
ス様はまるでそのことを気
にしていないようです。す
わって野原を見わたし、う
れしそうな表情をうかべて
います。弟子たちはしばらく
待ってから、食べ物と飲
み物を彼にすすめました。
イエス様の返事は、どうい

う意味でしたか？ 31-34 節。

あなたは今までに、自分のしていることに夢中になってしまい、おなかがすいていることも、食事の時間であることも忘れてしまったことはありませんか？その日のイエス様は、まさにそういう状態でした。また、女がイエス様をメシヤだと信じただけでなく、彼女のおかげで、他のたくさんの人々がそのことを信じるようになることもござりました。彼がうきうきしていたのも、無理はありません！

それからイエス様は、野原の向こう側の町々を指差しました。そして、何と言われましたか？ 35-38 節。

かんが **考えてみよう：** 世界中の人々が、イエス様について学び、イエス様を愛し、信頼し、イエス様にしたがうことを選んでいという話を聞いたら、あなたはどんな気持ちになりますか？あなたの家族によってみちびかれ、あなたの通っている教会でバプテスマを受けた人を見たことがありますか？

もくようび 木曜日

イエス様がメシヤであることを知ったサマリヤの女は、このことを早く他の人に伝えたくてたまりません。次から次へとふれまわったので、この知らせは、あっという間に広まりました。女の話聞いた人たちは、彼女がこのことを心から信じて話しているのがよく分かりました。そしてもちろん、彼らもイエス様に会いたい



とおも と思ったのです。ヨハネ 4:39。

おおぜいの人がやって来たとき、イエス様はまだ井戸のそばにすわっておられました。人々はイエス様のまわりに群がって集まり、次から次へと質問をして、自分たちがこれまで理解できなかった多くのことをイエス様が説明す

るのを聞きました。聞いているうちに、もっと聞く必要があることに気づきました。彼らは、イエス様に何をお願いしましたか？ 40 節。

イエス様は、とても喜ばれたことでしょう。神様にえらばれた民であるユダヤ人のほとんどが、イエス様がメシヤだと信じたくありませんでした。しかし、ユダヤ人が嫌っているこれらのサマリヤ人たちは、喜んでイエス様を受け入れ、心から彼を信じたのでした。 41,42 節。

食べ物を買って町からもどった弟子たちは、イエス様がサマリヤ人の女と話しているのを見てショックを受けました。そして、サマリヤ人たちが続々とやってきてイエス様のまわりに集まったときには、おそらく弟子たちは、彼らから離れたことでしょう。さらに、イエス様がサマリヤ人のところにあと2日とどまると言われたときには、そこで起こっていることが信じられなかったにちがいありません。ユダヤ人はサマリヤ人の好意を決して受けてはいけなと、教えられていたからです。ところが現実今、弟子たちはこれからサマリヤ人の家でサマリヤ人と食事をし、泊めてもらうの

です。彼らはきっと、自分たちの本当の気持ちを表に出さないように、必死でこらえていたことでしょう。弟子たちにとって、それがどんなに大変なことだったか、あなたにはわかりますか？

考えてみよう：サマリア人に対するイエス様の思いとは異なり、弟子たちのサマリア人に対する思いは、どのようなものでしたか？なぜイエス様が正しかったのでしょうか？

きんようび 金曜日

井戸のそばで、イエス様がサマリア人の女と話されたときの物語について、考えてみましょう。

ご自分が女性を尊重〔価値あるもの、尊いものとして大切に扱うこと〕なさっていることを、イエス様はどのように示しましたか？

自分たちと同じように考えず、行動もちがう人たちでも、愛し尊重すべきであることを、イエス様はどのように示しましたか？

この女は、どこへ行って礼拝すべきであるかについて、議論〔言い争うこと〕したがついていました。人々と言い争うのは賢いことだと、あなたは思いますか？イエス様は、そうなさいましたか？

サマリア人に対する弟子たちの考えは間違っていると言って、イエス様は彼らをお叱りになりましたか？自分たちとちがう人たちのことを、神様はどう思っておられるのかを示すために、イエス様は弟子たちに何をなさいましたか？

正しい生きかたをしてこなかった人たちをも、神様は愛しておられるということを、イエス様はどのように示しましたか？

ヨハネ 4:4 を読みましょう。サマリアにいた人々がイエス様を必要としていて、彼らがイエス様を信じるのを選びをするだろうということをイエス様はご存じで、サマリアの町を通る「必要があった」のだと思いますか？

この物語は、女性も伝道者になれるということ、どのように示していますか？

あなたの知っている人の中には、みんなから嫌われたり、不親切にされたりしている人はいませんか？そのような人たちに、イエス様が彼らを愛しておられることを、どのように示してあげることができそうですか？

今週とりあげた物語の中で、あなたはどの場面が1番好きですか？

まな もっと学ぼう！

★ヨハネ 4:1-42

★各時代の希望 19章



エラとお気に入りのかさ

エイミー・シェラード編

このお話に出てくるのは、ずっと昔、ホワイト夫人の時代に生きていた、あるひとりの女の子です。この子の名前がわからないので、「エラ」と呼ぶ

ことにしましょう。エラは6歳で、自分のことを世界でいちばん幸せな女の子だと思っていました。エラは長いあいだ、小さくてかわいらしいかさが欲しくてた



Little Folk Visuals

まりませんでした。そして、とうとうその願いがかないませんでした!しかも、それはエラが考えていた物よりも、はるかにすてきなかさでした。

エラは、そのかさが何かに傷つけられたり、こわされたりしてほしくありません。エラが、そのかさをぬらしたくないと言ったとき、お母さんはおかしくて笑ってしまいました。寝る時間になると、エラは、もっているお人形や、ぬいぐるみとではなくて、このかわいらしいかさといっしょに寝たいと言ひ、そうしたのでした。

家族でキャンプミーティングに行くときにも、もちろん、エラはそのかさを持っていきました。当時は、子供のクラスはなかったもので、エラはお母さんのそばに静かにすわり、がんばってお話を聞いてい

ました。エラのかさは、いつだってエラのすぐそばにありました。ホワイト夫人はその集会で、そんな幼いエラを見て、思わずにっこりしました。

ある日のこと、説教者が十戒の第1条を守ることがどれほど大切であるかを話しました。エラは、その戒めを暗唱していました。

「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」という戒めです。それは、自分たちが、異教の人々のように偶像を拝むべきではないという意味だと、エラは思っていました。ところがこの説教者は、わたしたちにとってイエス様よりも大好きで大切なものがあるなら、なんであってもそれは「偶像」である、と言ったのです。そして、わたしたちの偶像をイエス様にわたすべきだと言ひました。

ああ!イエス様のことは大好きだけれども、もしかしてわたしは、イエス様よりもこのかさが好きなのかしら?エラはそんなことを考え始めました。その大切なかさを手にもって、体の近くに引きよせると、エラの心臓の動きははやくなりまし「ああ、どうしよう。」説教者の話を聞

きながら、彼女は迷いました。それから、
心を決めました。まわりの人たちのこと
は、まったく気になりません。エラは、泣
きじゃくりながら祈りました。「イエス様、
わたしはこのかさよりも、もっと、あなた
のことを愛しています。ですからこのかさは、
あなたにおささげします。」ホワイト
夫人も他の多くの人たちも、若いエラのこと
を見ています。すると、エラのお母さん
が立ち上がり、エラにとってこのかさがど
れほど大切だったか、また、まだ幼いの
に、彼女が何よりもイエス様が1番大切
だと決心したことを話しました。エラのお
母さんがすわると、多く人は目に涙をう
かべていました。彼らも、イエス様にわた
す必要のある、自分自身の「偶像」のこ
とを考えていたからです。

集会が終わると、お母さんはエラに、「エ
ラがかさをイエス様にささげる決心ができた
ので、イエス様はきっと喜んでおられる
わよ」と言いました。また、「エラは自分
にとってイエス様が1番大切だということ
を言いあらわしたので、かさはそのまま
持っていてもいいのよ」と言ってくれまし
た。

その日、集会に出席した多くの人たち
が、自分自身にとって偶像となっていたも
のを、イエス様におささげしたのです。
ホワイト夫人は、エラのことをずっとおぼ
えていました。彼女もエラのおかげで、イ
エス様からするようにたのまれたことは何
であっても、他の何ものよりも重要である
と、あらためて確信したのです。

わたしたちを誘惑する偶像について、

何か思いあたるものはありますか？わたし
たちにとって良くないことがわかっている、
多くの見るものや聞くもの、食べ物などは
どうでしょう？どんなものがあるか、ひとつ
一つあげることができますか？

だい しょう 第2章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

いの このように祈りなさい

あんしょうせいく 暗唱聖句

「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが天におこなわれるとおり、地にも行われますように。わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしくください。わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。御国と力と栄光は、永遠にあなたのものであります。アーメン。」マタイ 6:9-13 (一部欽定訳)

にちようび 日曜日

世界のどの国でも、子供たちはお父さんのことを独特の呼び名で呼びますね。英語を話す国々でいちばんよく使われている呼び名は「ダッド」または「ダディ」です。ある子供たちは、お父さんのことを「パパ」と呼びますね。お父さんたちは、赤ちゃんが「ダディ」または「パパ」と言えるようになると、とてもうれしいのです。

ところで、わたしたち一人ひとりに、ふたりのお父さんがいるのを知っていますか？地上でのお父さんがひとり、そして天のお父さまがひとり、です。最初の人間であるアダムとエバがつくられたとき、神様が彼らのお父さんでした。神様は、アダムとエバと話すのが大好きで、彼らも神様とお話するのがとても好きでした。毎日夕方になると、神様はアダムとエバの所へ来



られました。彼らは、父であり、造り主であられる神様とお話するのが楽しみでした。その日にしたことをすべて話すのが大好きで、また質問があれば何でもたずねて、答えてもらうのでした。

アダムとエバが初めて神様の言いつけにそむいた日、それは本当に悲しい日でした。その後は、もう神様と会って自由に

話をすることができなくなってしまったのです。けれども彼らは、イエス様が彼らに代わって死に、罪をとりのぞいて下さるという約束が与えられたことを喜びました。だとしたら、いつの日かもういちど、天のお父様と顔を合わせることができるからです。

イエス様のおかげで、すべての男の子と女の子は、最もすばらしい、愛にあふれる天のお父様を、自分の父とすることができるのです。

考えてみよう: イエス様は、天のお父様と毎日お話ししました。あなたも、天のお父様とお話していますか？

げつようび 月曜日

「お祈り」って何でしょう？もしだれかにこう質問されたら、あなたはたとえおそらく、父なる神様とイエス様とお話すること、と答えるでしょうね。それは正しい答えです。お祈りは、この世界で1番のお友だちと話すよりも、はるかにいいものなのです。

イエス様は、父なる神様と話すことが大好きでした。とても忙しい日を終えて、他の人たちが眠っている間に、祈るために静かな場所へ行くことが何度もありました。時には、一晩中祈りつづけることもありました。そして祈った後にはいつも、安らぎを感じたのでした。

ユダヤ人たちは、祈りが大切であることを教えていましたが、イエス様は、多くのユダヤ人がしているような祈りかたをし

ませんでした。パリサイ人たちは、毎日決まった時間にお祈りしました。彼らはどこにいても、その時間になると立ち止まって大声で祈りました。ですから当然、他の人たちにもその祈りの声が聞こえました。

ある日、イエス様が祈っているのを聞いた弟子のひとりが、イエス様に何をしてほしいとお願いしましたか？ルカ 11:1。

イエス様は、喜んで彼らにお祈りを教えました。わたしたちは、かならずしも、決まったお祈りの言葉をとなえなくてはいけないわけではありませんが、どのように祈るかを学ぶべきです。そうすることで、お祈りするとき、神様とお話すべきことを思い出すことができるからです。もしあなたが、まだそれを知らないのであれば、その聖句を読んで覚え始めるとよいでしょう。マタイ 6:9-13。

考えてみよう: これらの聖句がどういう意味か、理解したいと思いませんか？今週は、これらの聖句〔主の祈り〕について考えていきます。

かようび 火曜日

「天にいます(われらの)父よ。」これは、イエス様が弟子たちに教えた、あの美しい祈りの1番はじめに出てくる言葉で、神様がわたしたちのお父様であられることを思い出させるものです。「われらの父」ということは、神様がひとりだけの父親ではないという意味ですよ。ですから、わたしたちは皆、兄弟、姉妹ということになります。わたしたちは、

かみさま だいかぞく いちいん かみさま
 神様の大家族の一員で、神様はそのわたし
 ひとりひとりを愛しておられるのです。
 かみさま
 神様は、「ひいき」をなさいません。わたし
 ぜんいん あい
 たち全員を愛しておられます。ですから、
 ほか ひと じぶん かし かんが
 他の人より自分のほうが価値があると考
 えるべきではないのです。

「御名があがめられますように。」わたし
 たちは、神様のお名前〔御名〕を聖なる
 ものとして、慎重な心がまえで神様を
 うやま
 敬わなくてはなりません。教会において、
 れいはい ととき いのとき けい たいど
 礼拝する時や祈る時にも、敬けんな態度
 でのぞむべきです。神様の御名をみだり
 かろ じょうだんはんぶん つか
 〔軽はずみ〕に、冗談半分で使うことは、
 ぜつたい
 絶対にしてはいけません。自分が神様の
 かぞく いちいん
 家族の一員であることをいつもおぼ
 かみさま に もの たす もと
 神様と似た者となるように助けを求める
 べきです。イエス様のように行動し、話す
 ことをわたしたちがえらぶならば、イエス様
 じしん わたし たす
 ご自身が私たちを助けてくださって、もっ
 かれ に もの
 ともっと彼に似た者となるのです。

「御国がきますように。」神様の御国が
 来るときには、敵の手から逃れて自由になり、
 じぶん のぞ す かね
 自分たちの望む好きなものやお金を
 て い
 すべて手に入れることができると、ほとん
 ひと かんが くれ ぎせい
 どの人が考えていました。彼らは、犠牲
 こひつじ こうい さま
 の小羊をささげる行為が、イエス様がわ
 て すく い み
 たしたちをサタンの手から救うことを意味
 わす
 しているのを忘れていました。イエス様が
 み が し くだ
 わたしたちの身代わりとなって死んで下さ
 らなければ、わたしたちは皆、サタンの
 とら びと えいえん し
 捕われ人となり、永遠に死ななくてはなら
 ないはずだったことを、人々は覚えていま
 せんでした。

ほとんどの人が、メシヤとメシヤが建て



ようとなさる王国について、数多くのま
 ちがったことを聞いていたために、イエス様
 がいだい おう きせき
 が偉大な王として、奇跡をおこなってロー
 びと お だ
 マ人を追い出さなかったことにながかりし
 たのでした。

しかし、イエス様がわたしたちのため
 し くだ
 に死んで下さったおかげで、わたしたち
 えいえん い
 は永遠に生きることができるのです。な
 んとありがたいことでしょう!そして、イエ
 さま てん どうさま しんらい
 ス様が天のお父様に信頼したように、わ
 てん どうさま しんらい
 たしたちが天のお父様に信頼するならば、
 じっかい まも
 わたしたちも十戒を守ることができること
 くれ しょうめい ほか
 を、彼は証明してくださったのです。他の
 ひとびと さま つた
 人々にイエス様のことを伝えるとき、また、
 せかいじゅう でんどうしゃ かね
 世界中にいる伝道者たちのためにお金を
 ささげるとき、わたしたちは、御国をきた
 らせるためのお手伝いをしていることにな
 ります。マタイ 24:14。

かんが 考えてみよう: あなたは、きょうまな 今日学んだ
 しゅ いの ことば い
 『主の祈り』の言葉を言えますか?その
 ことば
 言葉がどんな意味なのか、話すことができ
 あす しゅ いの
 ますか?明日、『主の祈り』についてさら

まな
に学んでいきましょう。

すいようび 水曜日

「み」^{てん}こころが天におこなわれるとお
^ちり、^{おこな}地にも行われますように。」
これは、イエス様^{さま}が弟子^{でし}たちに教え^{おし}られ
た美しい^{うつく}祈り^{いの}の中^{なか}の、次^{つぎ}の言葉^{ことば}です。私^{わたし}
たち^{たい}に対する^{かみさま}神様の「みこころ」というの
は、素晴らしい^{じっかい}十戒^{じっかい}にしたがう^{えら}ことを選^{えら}ぶ
ことです。

これまで、わたしたちはいつでも、神様^{かみさま}
とサタンのどちらかに従^{したが}っていることを学
んできました。天国^{てんごく}とすべての他^た世界^{せかい}で
は、みんなが幸^{しあわ}せです。なぜなら、みんな
が喜^{よろこ}んで十戒^{じっかい}にしたがっているからで
す。そして、みこころ^{おこな}を行^{かみさま}えるように神様^{かみさま}
の助け^{たす}を求めるとき、私^{わたし}たちは、天国^{てんごく}で
天使^{てんし}たちがしているように、地上^{ちじょう}で神様^{かみさま}の
みこころ^{おこな}を行^{おこな}っていることになります。

『主^{しゅ}の祈^{いの}り』の中^{なか}で、次^{つぎ}に出^でてくる言葉^{ことば}
は何^{なん}ですか？**マタイ 6:11**。

しばしば人^{ひと}は、新鮮^{しんせん}な空気^{くうき}や日光^{にっこう}や雨^{あめ}
がなければ、食物^{しょくもつ}を得^えることができなく
なるという事^{じじつ}実^{じじつ}を忘^{わす}れています。私^{わたし}たち
を丈夫^{じょうぶ}で健康^{けんこう}にしてくれる良^よい食物^{しょくもつ}を育^{そだ}
てることができるように、神様^{かみさま}は、空気^{くうき}や
日光^{にっこう}や雨^{あめ}などをお造^{つく}りになりました。サ
タンは、神様^{かみさま}がお造^{つく}りになった「良^よ
い食物^{しょくもつ}」を「栄^{えい}養^{よう}のない悪^{わる}い食物^{しょくもつ}」に変^か
える方^{ほう}法^{ぽう}をいくつも知^しっています。わたした
ちを丈夫^{じょうぶ}で健康^{けんこう}にするために、神様^{かみさま}が良^よ
い食物^{しょくもつ}を下^{くだ}さることをいつも心^{こころ}にとめてい
るならば、わたしたちはいつでも「良^よい

食物^{しょくもつ}」を選^{えら}ぶと思^{おも}いませんか？そしておそ
らく、今^{いま}よりもさら^{けい}に敬^{こころ}けんな心^{かんしや}と感謝^{かんしゃ}の
心^{こころ}をもつて祝福^{しゅくふく}を求め^{もと}めることでしょう。

ここでは、わたしたちが自己^{じごちゆうしん}中心^{ちゆうしん}でいて
はいけないことと、自分^{じぶん}たちの祝福^{しゅくふく}よりも、
より多^{おほ}く他^{ほか}の人^{ひと}の祝福^{しゅくふく}を求め^{もと}めるべきことが
教え^{おし}られています。食物^{しょくもつ}に不自由^{ふじゆう}している
人^{ひと}たちにわたしたちの分^{ぶん}をわけてあげること
で、神様^{かみさま}がこの祈^{いの}りにこたえ^{てだす}る手^{たす}助け^{たす}
をするのです。

「今日^{きょう}も」と「日^ひごとの」という言葉^{ことば}にも、
心^{こころ}をとめておくべきです。神様^{かみさま}は、わたし
たちが一生^{いっしやう}けん命^{めい}はたらき、十分^{じゆうぶん}な食物^{しょくもつ}
を手^てにするために最^{さい}善^{ぜん}をつくし、毎日^{まいにち}その
こと^{かんしや}を感謝^{かんしゃ}するように、また、食物^{しょくもつ}が足り
なくなることを心^{しんぱい}配^{ぱい}しないようにと教え^{おし}て
おられます。**25 節**。

しかし、わたしたちが毎日^{まいにちひつよう}必要^{ひつよう}とする、
別^{べつ}の種^{しゅるい}類^{たいせつ}の大^{だい}切^{せつ}な「食物^{しょくもつ}」があります。
それが何^{なん}だかわかりますか？**ヨハネ 6:48,**
58。

毎日^{まいにち}、イエス様^{さま}について、またイエス
様のすばらしい十戒^{じっかい}を学^{まな}ぶことによって、
わたしたちは強^{つよ}められ、サタンの誘^{ゆう}惑^{わく}に
対^{たい}して、「ノー」とはっきり言^いえるようにな
ります。毎日^{まいにち}、祈^{いの}りと礼^{れい}拜^{はい}の時^じ間^{かん}をもつこ
とは、毎日^{まいにち}食^たべるのと同じように大^{だい}切^{せつ}なこ
となのです。

かんが **考えてみよう：** 今日^{きょう}学^{まな}んだ祈^{いの}りの部^ぶ分^{ぶん}
を、見^みないで言^いえますか？また、そこをほ
かの人^{ひと}に説^{せつ}明^{めい}することができ^かりますか？あな
たは毎日^{まいにち}、自分^{じぶん}だけ^{れい}の礼^{れい}拜^{はい}の時^じ間^{かん}をもつ
習^{しゅう}慣^{かん}を身^みにつけていますか？

もくようび 木曜日

わたしたちが学んでいるこの美しい祈りの各部分と同じように、次に出てくる部分もとても重要です。それを決して忘れてはいけません。マタイ 6:12。

わたしたちがまちがったことをした時に、神様にゆるしてもらう必要があるでしょうか？もちろん、それは必要です。では、神様はわたしたちをよろこんでゆるして下さるでしょうか？はい、喜んでゆるしてくださいませ。『主の祈り』のこの部分で、わたしたちは神様に、罪〔負い目―借金のようなもの〕をゆるしてくださいさるようお願いします。ただし、神様がゆるして下さるのは、わたしたちが他の人の罪をよろこんでゆるす時だけです。わたしたちが他の人をゆるすのと同じように、神様もわたしたちをゆるして下さいませ。

時々わたしたちは、「あなたをゆるします」と言いながら、心の中では、人からされたいやなことをいつまでも覚えて、恨みをいただいています。神様は私たちを、恨みをいただいたまま天国につれて行くことはおできになりません。恨みは、わたしたちの幸せも、他の人々の幸せも、だめにしてしまいます。神様は、恨みをとりぞいで下さるよう、わたしたちが願うことを望んでおられます。そうすれば、他の人を心からゆるすことができるようになる

からです。14,15 節。

ある時イエス様は、他人をゆるそうとしなかった、ある男の話をなさいました。物語の最後に、イエス様は何とおっしゃいましたか？マタイ 18:34,35。

自分にいじわるな人や、自分を傷つけた人を心からゆるすのは、たやすいことでしょうか？いいえ、決して簡単ではありません。大人でさえも、だれかが自分に対してしたことを時々思い出して、心からゆるす選りびをしないことがあります。それは、とても悲しいことです！神様は、わたしたちが「ゆるせない心」を取りのぞいてもらう決心をすることを望んでおられます。そうしてこそ、わたしたちは天国に行く準備ができるのです。

考えてみよう：これまでに意地悪な気持ちになったことがあれば、今すぐ神様にゆるしていただきましょう。「いつも心から人をゆるすことができるように助けて下さい」と神様にお願ひしましょう。神様は、心からわたしたちのことをゆるして下さいませし、同じようにわたしたちが他の人をゆるすことを願っておられます。それは、イエス様に似た者となる選りびをしていることとなります。

きんようび 金曜日

美しい祈りの次の部分は、こう祈るようおしえてあります。「わたしたち



を^{こころ}試み〔誘惑〕に^あ会わせ^あないで、^あ悪^あしき^あもの^あから^あお救^あい^あく^あだ^あさい。」**マタイ 6:13**。

神^{かみさま}様^{さま}なくしては、わたしたちはごく自然^{しぜん}に^{しぜん}まち^{しぜん}が^{しぜん}った^{しぜん}悪^あい^あことを^あして^あしま^あい、いと^{いと}も^もかん^{かん}たん^{たん}に^にサ^さタ^たンの^の誘^{ゆう}惑^{わく}に^に耳^{みみ}を^をか^かた^たむ^むけて^てしま^まいます。ですから、数^{かず}々^ずの^の誘^{ゆう}惑^{わく}か^から^らわた^たした^しち^ちを^を遠^とざ^ざけて^て下^{くだ}さ^さる^るよ^よう^うに^にと^と祈^{いの}る^るの^のです。たとえ^{たとえ}ど^どん^んな^な気^き持^もち^ちに^にお^おそ^そわ^われ^れても、また^{また}サ^さタ^たンの^の誘^{ゆう}惑^{わく}が^がど^どれ^れだ^だけ^け激^げしく^くとも、イ^いエ^えス^す様^{さま}に^にな^なら^らい^いつ^つづ^づけ^ける^るこ^こと^とが^がで^できる^るよ^よう^うに、神^{かみさま}様^{さま}の^の助^{たす}け^けを^を祈^{いの}り^り求^{もと}める^るの^のです。

誘^{ゆう}惑^{わく}は、本^{ほん}当^{とう}に^にや^やっ^つて^てく^くる^るで^でし^しょう^うか^か?
もち^{もち}ろ^ろん^んです。わた^{わた}した^しち^ちを^を誘^{ゆう}惑^{わく}す^する^るの^のを、
サ^さタ^たン^んが^がや^やめ^める^るこ^こと^とは^はあ^あり^りま^ませ^せん。し^しか^かし、
だ^だか^から^らと^とい^いっ^つて、わた^{わた}した^しち^ちは^はサ^さタ^たン^んに^に従^{したが}
わ^わな^なく^くて^ては^はい^いけ^けま^ませ^せん^んか^か?い^いい^いえ。も^もし^しわ^わ
た^たした^しち^ちが^が神^{かみさま}様^{さま}に^に信^{しん}頼^{らい}し^して^てお^お願^{ねが}い^いす^する^るな^な
ら^らば、必^{ひつ}要^{よう}な^な時^{とき}に^には^はい^いつ^つで^でも、サ^さタ^たン^んに^に
対^{たい}して「^いノー^ち」と^あ言^あえ^ある^る力^{ちから}が^あ与^あえ^あら^られる^るの^の
です。

この^{この}こ^こと^とを、神^{かみさま}様^{さま}は^は約^{やく}束^{そく}し^して^て下^{くだ}さ^さい^いま^まし^した^た。
そ^そし^して、神^{かみさま}様^{さま}は^は約^{やく}束^{そく}を^をい^いつ^つで^でも^も守^{まも}っ^つ
て^て下^{くだ}さ^さい^いま^ます。**1コ^こリ^りント 10:13**。

さて、い^いよ^よい^いよ**マ^まタイ 6:13**に^に書^かか^かれ^れ
て^てい^いる^る祈^{いの}り^りの^の最^{さい}後^ごの^の部^ぶ分^{ぶん}を^を読^よん^んで^でい^いき^きま^まし^しよ^う
う。

これ^{これ}ら^らの^の言^{こと}葉^ばは、わた^{わた}した^しち^ちに^にと^とつ^つて^て
す^すば^ばら^らしい、愛^{あい}なる^る天^{てん}の^のお^お父^{とう}様^{さま}が、力^{ちから}
の^のあ^ある^るお^お方^{かた}で^であ^ある^るこ^こと^とを^を思^{おも}い^い出^ださ^させ^せて^てく^く
れ^れま^ます。天^{てん}の^のお^お父^{とう}様^{さま}は、す^すて^てき^きな^な美^{うつく}し^し
い、完^{かん}全^{ぜん}な^な場^ば所^{しょ}を、わた^{わた}した^しち^ちの^のた^ため^めに^に
用^{よう}意^いし^して^て下^{くだ}さ^さっ^つて^てい^いま^ます。そ^そし^して、サ^さタ^たン^ん
は^は永^{えい}遠^{えん}に^に消^きえ^え去^さり^りま^ます!も^もは^はや、誘^{ゆう}惑^{わく}さ^され

る^るこ^こと^とは^はあ^あり^りま^ませ^せん!悲^{かな}し^しみ^みも^もあ^あり^りま^ませ^せん!
失^{しつ}望^{ぼう}す^する^るこ^こと^とも^もあ^あり^りま^ませ^せん!そ^そし^して、痛^{いた}み^みも^も
あ^あり^りま^ませ^せん!わた^{わた}した^しち^ちは^はす^すっ^つか^かり^り健^{けん}康^{こう}で^で
幸^{しあ}せ^せに^にな^なり、サ^さタ^たン^んの^の手^てか^から^ら永^{えい}遠^{えん}に^に解^{かい}放^{ほう}
さ^される^るの^のです。

かんが考^{かん}え^えて^てみ^みよ^よう^う:^{みな}お^おそ^そら^らく^く皆^{みな}さん^{さん}は、^{これ}こ^これ^れ
か^から^ら何^{なん}度^ども、^{この}こ^この^の美^{うつく}し^しい^い祈^{いの}り^りを^をさ^ささ^さげ^げる^るこ^こ
と^とが^があ^ある^るで^でし^しょう。時^{とき}に^には、^{ひとり}ひ^ひと^とり^りで^でこ^この^の
お^お祈^{いの}り^りを^をゆ^ゆっ^つく^くり^りと^とな^なえ^えて、^{ひとつ}ひ^ひと^とつ^つ一^{いつ}つ^つの^の
言^{こと}葉^ばの^の意^い味^みを^を考^{かん}え^えて^てみ^みて^てく^くだ^ださ^さい。よ^よく、
他^{ほか}の^の人^{ひと}た^たち^ちと^とい^いっ^つし^しょ^よに^にこ^この^のお^お祈^{いの}り^りを^をす^す
る^るこ^こと^とが^があ^ある^るお^{おも}い^いま^ます。決^{けつ}して、^{ひとつ}ひ^ひと^とつ^つ一^{いつ}
つ^つの^の言^{こと}葉^ばの^の意^い味^みを^を考^{かん}え^えず^ずに、^{ただ}た^ただ^だ口^{くち}先^{さき}
だ^だけ^けで^でと^とな^なえ^えて^ては^はい^いけ^けま^ませ^せん。ぜん^{ぜん}ぶ^ぶ覚^{おぼ}え^えた^た
ら、^{けい}敬^{けい}けん^{けん}な^な思^{おも}い^いで^でと^とな^なえ^えて^てく^くだ^ださ^さい。さ^さあ、
や^やっ^つて^てみ^みま^まし^しょう!

まな もっと学ぼう!

★マタイ 6:1-13

★ルカ 11:1-4

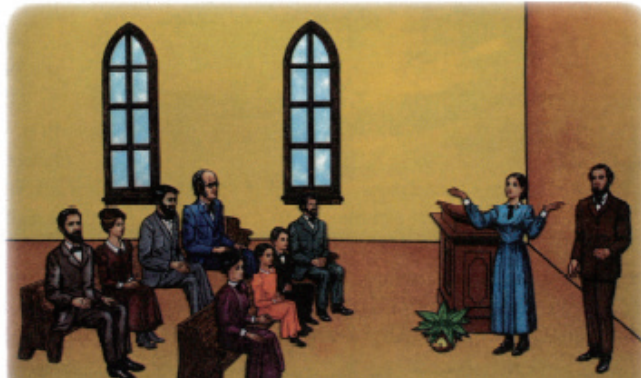
★祝福の山 p. 127-152



おそ せんそう ほんとう お
恐ろしい戦争が本当に起こるの？

エイミー・シェラード編

エレンがまだ少女だったころから、イエス様は彼女をご自分の特別な使者として選んでおられました。イエス様から示される数々の幻や夢をとおして、エレンは人々に、聖書を勉強してイエス様のご再臨に備えることがどれほど重要であるかを知らせることになっていました。サタンは人々に、イエス様のご再臨に備えさせたくなかったので、聖書を憎んでいました。



Little Folk Visuals

ある時ジョン・ラフボローが、ミシガンで再臨信徒の安息日集会について話しました。そこにはジェームスとエレンもいましたし、霊媒師〔サタンのために働いている人〕であるブラウン博士という人物もいました。ブラウン博士は、イエス様がエレンにお示しになる幻を信じておらず、もしエレンが幻を見る場所に自分がいたら、1分もたたないうちに幻を止めることができる、と言いました。

その集会の間にエレンに幻が与えられ、ブラウン博士はそれを止めることができずして、「ここから出してくれ!」彼はそう言うと、あわてて部屋を飛び出しました。

幻が終わってから、エレンはイエス様が見せて下さったことを人々に話しました。「アメリカ合衆国で、恐ろしい戦争が起こるでしょう」と、彼女は言いました。それから、ゆっくりと部屋の中をみまわしました。そして、「この家に集まった人たちのうち、ある方々は、この戦争で息子さんを亡くすことになるでしょう」と言ったのでした。

裁判官と、ある有名な実業家〔ビジネスマン〕が、エレンの近くにすわっていました。彼らは互いに顔を見合わせ、首を横にふりました。戦争が起こるなどまるで信じられないことで、彼らは自分の息子たちのことを心配しませんでした。ところが、それからたった数週間後に、あの恐ろしい戦争が始まったのです。

戦争が始まってから、ジョン・ラフボローはふたたびその家にやって来て、彼は信者たちにエレンの幻のことを思い起こさせました。彼が話していると、あの裁判官と実業家がハンカチを取り出し、顔をおさえました。彼らは泣いていたのです。彼らのうちの一人は、ひとり息子を戦争で亡くしてしまいました。もうひとりの

男性の息子は敵につかまり、牢屋にいれられてしまいました。他にも、6、7人の人が、この戦争で息子を亡くしたのです。もはや、教会のだれも、エレンの幻がイエス様からきたものかどうかを疑う人はいませんでした。

戦争の最中であったにもかかわらず、ジョン・ラフボローともうひとりの牧師は、テント集会をつづけることを決心しました。 Wisconsin 州のある村の中心にテントを設置しましたが、そのすぐ近くでは、陸軍大尉が部下の訓練をしていました。ジョンがテントの前方に高いポールを立てて、そこに国旗をかかげると、大尉が訓練を止めて、その様子を見ていました。それからジョンのところへやってきて、こう話しかけました。「あなたがたのテントは、わたしたちがお守りいたします。」それから大尉は、ジョンにこうも言いました。「アメリカ合衆国の国旗がかかげられているところでは、そのすべての財産を守るように、リンカーン大統領からお達し〔命令〕がありました。」

はたして集会が始まると、ふたりの兵隊がテントの正面を前後に行進し、警護してくれました。

太陽が強く照りつける日など、兵士たちが外に立たずにすむように、ジョンが許可を与えて、彼らをテントの中に入れてあげました。大尉がジョンに、集会の始めに兵士たちのために祈ってほしいとお願いしたので、ジョンは喜んで祈りました。「どうか、わたしたちの国の自由を守れるよう、わたしたちを助けて下さい。そして、命を

かけて戦っている兵士たちを祝福して下さい。」

だい しょう 第3章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

み 見えるようになった盲人 もうじん

あんしょうせいく 暗唱聖句

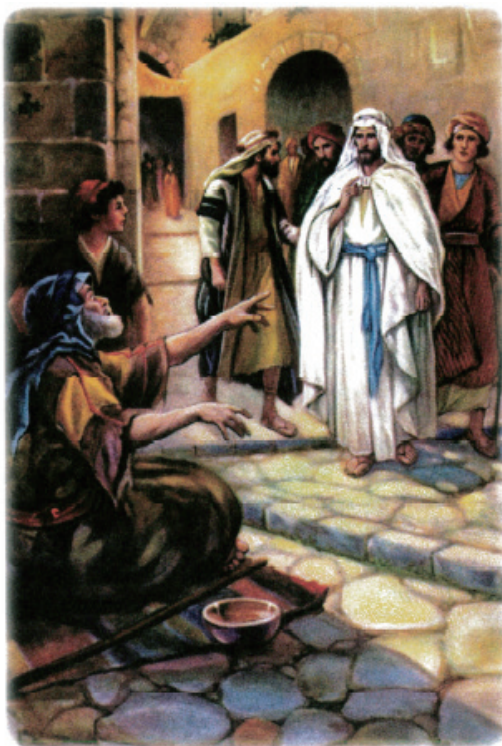
ひつじかい
「わたしはよい羊飼である。
ひつじかい ひつじ いのち す
よい羊飼は、羊のために命を捨てる。」

ヨハネ 10:11

にちようび 日曜日

き そく だいじ
規 則 [きまり、ルール] は大事だと、
あなたを思いますか？ 神様が与え
て下さった十戒は完全であることを、わた
したちは知っています。それは、非のうち
どころがなく、すばらしいものです。ところ
が、イエス様がこの世界に来られる前に、
すでに教会の指導者たち
が、人々にしたがわせる
ための余計な規則を
たくさん作り上げてし
まっていました。これら
の規則は、神様が与え
ませんでした。それどこ
ろか、これらの余計な
規則は、神様を意地悪
で冷たいおかたである
かのように思わせるもの
でした。

こういった多くの



きそく なか あんそくにち まも
規則の中から、安息日の守りかたについ
て、いくつか見てみましょう。まず、火を
おこしてはいけませんでした。安息日には、
ろうそくに火をつけることすら禁じら
れていました。また、物を運ぶことも禁じ
られていました。ハンカチ1枚でもだめ
です。風邪をひいてハンカチが必要など
きは、服にハンカチを留めつけなくては
いけませんでした。ひもを結ぶのも、ほど
くのもだめでした。書
くことも禁じられていま
した。また、1マイル
以上歩いてもいけませ
んでした。もしもめん
どりが安息日に卵を産
んだら、それを使うの
は禁じられていたので、
異邦人 [ユダヤ人でな
い人] に売るか、捨て
なくてはいけませんでした。
安息日には病人を
助けることもゆるされま
せんし、鏡を見てもい

けませんでした。

イエス様は、まちがっている規則にしたがうことを拒みました。彼は、かえって安息日に人々を助けたり、いやしたりして、神様がどんなおかたかを示されました。ですから当然、祭司や指導者たちはイエス様のことを嫌いました。イエス様が、彼らの作った規則にしたがわなかったからです。

考えてみよう: 人間が作る規則〔きまり〕、すべてがよいものですか? 人間の作った規則にしたがうために、神様の規則をやぶらなくてはならないことになったら、わたしたちはどうするべきでしょうか? **使徒 5:29。**

げつようび 月曜日

イエス様の弟子たちでも、だれかが病気になるたり、何か悪いことが起こったりすると、それは神様からの罰だと考えていました。ところが、ある安息日、弟子たちが生まれつき目の見えない男のことをたずねると、イエス様は何とお答えになりましたか? **ヨハネ 9:1-3。**

イエス様は、この目の見えない男をかわいそうに思いました。そして彼は、ある変わった行動をとられたのでした。それは、どのようなものでしたか? **6,7 節。**

男が池で顔を洗ってもどってきたときには、イエス様はいらっしゃいませんでした。男の近所の人たちや、彼を知っている人たちはそこに何人かいました。男の顔つきが、まるで変わっているではありませんか。

せんか。目が見えるようになったのです。目は明るく輝き、恐れと不安の表情は消え、うれしくてにこにこしています。知り合いの人たちでさえ、彼が本当にあの目の見えなかった男なのか自信がなくなるほどでした。 **8,9 節。**

男は、泥を洗い落とすまで何も見えなかったわけですから、当然、イエス様のお姿も見えていませんでした。彼が知っていたのは、「イエス」という名前だけでした。 **10-12 節。**

安息日にいやしがおこなわれたために、イエス様のことをパリサイ人に言いつけたがる人たちがいました。そして、それをしたために、大論争へとふくれあがっていったのです。「安息日に人をいやしたイエスは罪人である」と言う人たちもいれば、「神がイエスをとおしてすばらしい奇跡をおこなわれたのだから、彼が罪びとであるはずがない」と言う人たちもいました。

13-16 節。
とうとう人々は目の見えなかった男に、イエス様のことをどう思うかとたずねました。 **17 節。**

イエス様のことを罪人だと思っている人たちは、それでも信じたくありません。そこで彼らは、次に何をしましたか? **18-21 節。**

男の両親は、なぜこのように答えたのでしょうか? **22 節。**

そのころのユダヤ人にとって、会堂〔教会〕から追い出されることは、何よりも恐ろしいことでした。男の両親は、何と言いましたか? **23 節。**

かんが
考えてみよう:もしあなたが、
 この目の見えない男だったとし
 たら、これらすべての出来事を
 経験して、どんな気持ちになっ
 ていたと思いますか？



かようび
火曜日

男の両親は、目の見え
 なかった息子になされたイエス様
 の奇跡について語ることを恐れたので、パ
 リサイ人たちは、本人であるこの男とも
 ういちど話をすることにしました。ヨハネ
 9:24,25。

パリサイ人たちは、男がイエス様を信じ
 ることのないように、彼を混乱させようと
 しました。ところが、男はパリサイ人たち
 に、イエス様の弟子になりたくて、彼のこ
 とをもっと知ろうとしているのかとたずね
 ました。26,27 節。

けれどもパリサイ人たちは、イエス様
 の弟子にはなりたくありませんでした。
 28,29 節。

イエス様は神様からつかわされたお方
 にちがいないと男が話すと、パリサイ人た
 ちは怒りだしました。そして、男に触れた
 くもないといったそぶりで、彼から去って
 いきました。立ち去るときには、靴のほこ
 りをはらい落として、男とはもう関わらな
 いという態度を示しました。こうして、男
 を会堂から追い出したのです。両親はこ
 うなることを恐れていましたが、とうとう
 自分の息子の身に、それが起こってしま
 いました。30-34 節。

この次第を一部始終見
 ていた人々には、パリサイ
 人の正体がよくわかりました。
 男とイエス様について彼らが
 言っていることは、身勝手な
 悪口に過ぎないことが明らか
 なのに、どうして彼らを尊敬
 できるでしょう？

イエス様は、そのあいだ起
 こっていたことを、すべてご存知でした。
 また、サタンがあらゆる手をつくして、パ
 リサイ人々をますます頑固にしているこ
 とも知っておられました。しかしそこには、
 力強い聖天使たちもいて、男を勇気づけ
 ていました。男が会堂から追い出された
 後、イエス様は何をなさいましたか？ 35
 節。

生まれて初めて、男はやさしいイエス
 様のお顔を自分の目で見つめました。そ
 して、熱心にイエス様の質問に答えまし
 た。36-38 節。

かんが
考えてみよう:これまでずっと目の見えな
 かった男にとって、その日はどんなに忘れ
 られない、喜ばしい日となったことでしょう！
 あなたがこの男だったとしたら、イエス様
 に何と言ったでしょうか？

すいようび
水曜日

イエス様が生まれつき目の見えな
 かった男と話しておられるとき
 に、何人かのパリサイ人たちはすぐ近くに
 立っていて、イエス様が次に言ったことを
 聞いていました。イエス様は、どのような

意味でそうおっしゃったのでしょうか？ヨハネ 9:39-41。

だれかが「話のすじが見える」とか「ああ、何が言いたいか見えてきた」というのを聞いたことがありますか？こういう人たちは、実際に目で何かを見たのでしょうか？いいえ、ちがいます。それは、「意味が分かった」または「理解できた」ということです。イエス様を信じないことを選ぶ人たちは、自分たちのすべきことを理解したくないと考えているのです。何と悲しいことでしょう！

あなたは今までに、両親が良くないと思っている場所に行ってみたい、または悪いことをしてみたい、と思ったことはありませんか？「それが悪いこととは思えない」と言ったことはありませんか？

イエス様は、神様とその律法のことを理解できない人たちを助けるために、自分はこの世界にやってきたと言っておられたのです。イエス様は、このような人たちが「見える〔理解できる〕」ように助けてくださいます。ただし、パリサイ人のように高慢で、自分たちはもう完璧でも知っている、という人たちを助けることはできません。このような人たちは、「見えている」と思っている、実際は「盲人」なのです。そして、イエス様を信じないことを選ぶならば、ますます見えなくなってしまうのです。

考えてみよう：39-41 節をも
ういちど読んでみましょう。前



に読んだ時よりもよくわかりますか？神様は、人々が「見える」ようになることを選ぶように、強制なさいますか？イエス様は、高慢なパリサイ人たちのことをどう思っておられたのでしょうか？イエス様は、彼らを愛しておられましたか？

もくようび 木曜日

アダムとエバの時から、神様は、わたしたちを邪悪なサタンから救い出すための、素晴らしいご計画を人々に理解させようと、あらゆる方法を用いておられました。たとえば、美しい聖所にあるすべての物は、イエス様のことを思い起こさせるためでした。

犠牲としてささげる小羊は、いつの日かイエス様が来られて、わたしたちのために死んで下さることを思い起こさせるものでした。祭司が入って行く入口の垂れ幕は、わたしたちが父なる神様のもとへ行くには、イエス様を通してしか行けないことを教えていました。そして、わたしたちの暗闇の世界では、イエス様だけが光であることを、聖所の光輝くともしびは表していました。イエス様だけが、神様がどれほどわたしたちのことを愛しておられるかを示すことができ、また、天国への道を示すことができました。イエス様は、わたしたちが毎日飲むべき命の水でもあります。そして、今聖書を読んでいるあなたは、イエ

「^{さま}様のみ^{ことば}言葉を「^た食べて」
「^の飲んで」いるのです。

イエス様が地上で生活して
おられたころの人々は皆、
羊や羊飼について知って
いました。ある日、羊飼いと
羊についてお話なさった
イエス様は、ご自分のことを
羊飼、そして人間のことを
弱くてすぐに道に迷い、
けがをしてしまう羊のような



ものだと語られました。それぞれの羊には
名前がつけられており、よい羊飼いに
したがう羊は安全でいられますが、悪い
羊飼いにしたがう羊は道に迷ってしまいま
す。

羊小屋は、羊が安全に休めるところで
す。その小屋にはひとつだけ扉〔ドア〕
がありますが、イエス様は、彼がその扉
であると言われました。また彼は、よい
羊飼いであります。聖所の中にある
すべての物と同じように、イエス様は、わ
たしたちが必要とするすべてなのです。イ
エス様に信頼し、したがうことによつての
み、わたしたちは安全であることができます。

イエス様は、羊を盗んだり傷つけたり
するどろぼうや強盗についてお話しなさい
ましたが、実はパリサイ人のことを言っ
ておられたのです。彼らはイエス様のことを
嫌い、イエス様が神様の子であることを、
あの目の見えなかった男が信じないよう
に努めました。しかし、真の羊飼いであら
れるイエス様の声を聞いたあの男は、た

とえ会堂から追い出される
ことになっても、イエス様に
したがう決心をしていま
した。

その日に、イエス様が
言われたことを、聖書から
読んでみましょう。ヨハネ
10:9-11,14,15。

かんが 考えてみよう：ダビデが

どれほど注意深く、羊の
世話をしていたかを覚えて
いますか？また、ライオンや熊が羊を盗も
うとしたとき、彼はどれほど勇敢だったで
しょう？羊をおそう獣と戦うことで、ダビデ
は命を落としてもおかしくありませんでした。
イエス様は本当に命を落とされましたが、
わたしたちが選びさえすれば、サタン
から安全に守られるように、道をひらいて
くださったのです。

きんようび 金曜日

イエス様は、やさしく愛情深く、そ
して勇敢なわたしたちの羊飼いで
す。一方で、サタンを信じることを選ぶす
べての人たち、また他の人にサタンを信
じさせようとする人たちは、羊のことを気
にかけずに、賃金をもらうためだけに羊飼
いの仕事をしているようなものです。ヨハ
ネ 10:1,12,13。

もしわたしたちが、イエス様と十戒にし
たがっていない人たちの言うことに耳をか
たむけていたら、安全でいられるでしょ
うか？

わたしたちの羊飼いは、一人ひとりの名前を知っていますか？この羊飼いは、わたしたちが安全についていくことができるようにと、先頭に立ってすすんでくれますか？ **3,4 節。**

イエス様は、わたしたちが経験するすべての誘惑と困難を知っておられます。わたしたちのすべてをご存知で、決してわたしたちを置き去りにすることはありません。ですから、どんなことがあってもイエス様を信頼することができるのです。

よい羊飼いは、ひじょうに注意深く、自分の羊が食べる草が毒草でないかどうか、また飲ませる水がにごりのない、きれいな水かどうかを確かめます。あなたが今しているように、みことばを食べるとき、それが絶対に安全な食物であるという確信をもつことができます。聖書は、神様ご自身からわたしたちへの真実のメッセージですので、わたしたちは、聖書に完全に信頼することができるのです。

この世界には、まだイエス様のことを知らない人たちがたくさんいます。イエス様は、そのような人たちのことも気にかけておられますか？ **16 節。**

わたしたちは、いろいろな方法で、イエス様と十戒のことを伝えることができます。イエス様とサタンのどちらに従うかを選ぶ機会がすべての人に与えられたら、それからどうなるのでしょうか？ **マタイ 24:14,31。**

かんが **考えてみよう：** 夕方**ゆうがた**の**かていらいはい**家庭礼拝で、ヨハネ 10:1-18 と 25-30 節を**よ**読んでみませんか？そして、イエス様がそのようなすば

らしい羊飼いでいて下さることに感謝しましょう。

まな もっと学ぼう！

★ヨハネ 9, 10 章

★各時代の希望中巻 p. 262-271



きゅうか し 休暇と死んだオオカミ その1

エイミー・シェラード編

「さあて、出かけるでしょうか! いいよいよだな!」ジェームスとエレン・ホワイトは、うなずき合いました。「ウィリーもいっしょに来てくれることだし、コロラドの美しい山にある小屋ですごすのは、私たちににとって有意義な時間になりそうですね。」

幾年にもわたる旅行や講演、手紙や記事を書くことなどの日々をすごしてきたジェームスとエレンは、自分たちに休暇が必要なことをわかっていました。

そこで、コロラドに住むエレンの姪に、この夏、自分たちの山小屋でしばらくすごさないかと誘われたので、ジェームスとエレンは行くことに決めました。彼らはそこで、読書や執筆、ハイキング、それもちろん、新鮮な空気や太陽の光、動物たちや美しい景色を楽しむのです。

必要な荷物をまとめて、コロラドに到着すると、エレンの姪の夫であるウォリングさんが、居心地のよい山小屋で落ち着けるように、いろいろと手伝ってくれました。何もかも最高でした。彼らはハイキングをし、野イチゴをつみ、川の速い流れに耳をかたむけ、美しい日の出や日の入りの

光景をながめました。

ある日のこと、ウォリングさんは彼らに、もう少し上の方にあるきれいな湖のある場所へ行き、そこにテントをはって2週間ほどすごさないかと提案しました。もちろん、彼らはその話にのったのでした。2週間分の服や食料を準備し、当然あかり

も必要ですので、ろうそくも何本か持って行きました。日曜の朝、2台の荷馬車に荷物をつんで出かけました。目的地までは2日かかるため、途中で一泊しました。翌朝、ジェームスとエレンとウィリーは馬に乗って、荷馬車より少し先をすすんでいました。

ウォリングさんの呼びとめる声が聞こえたので、3人はふりかえりました。「荷馬車の車軸が、ひとつこわれてしまいました」と彼は言いました。「わたしが家で車軸を修理してもどってくるまでの間、みなさんに2、3日ここですごしてもらうしかありません。」

ところが、2、3日のはずが一週間になってしまいました。修理された車軸はウォリングさんの使用人がとどけてくれて、



Little Folk Visuals

かれ みずうみ つ
彼らは湖までたどり着くことができました。
しょうにん たきぎ
使用人はテントをたてて、たくさんの薪を
あつ かれ
集めてくれました。それから彼は、ウォリ
ングさんのけいえい せいざいじよ
ングさんの経営する製材所へともどって
きました。

け にん だいしぜん なか しず
ホワイト家の3人は、大自然の中で静
かにくつろげるこのキャンプを、どれだけ
たの
楽しんだことでしょう!ボートをこいだり、
ハイキングをしたり、そしてたくさんの
しつぷつ
執筆もしました。

しゅうめ け
1週目のおわりになって、ホワイト家の
にん すこ しんぱい かれ
3人は少し心配になってきました。彼らが
も き しょくりよう しゅうかんぶん
持って来た食料はたったの2週間分
た。しゃじく しゅうり ま
た。車軸の修理を待たなくてはいけな
たため、しょくりよう へ
たため、食料がかなり減っていたのです。
ウォリングさんは、だれかにしょくりよう とど
せるとやくそく
せると約束してくれましたが、まだだれも
き
来ていません。そしてジェームスは、いんさつ
のためきじつ までおく しょるい
のため期日までに送るべき書類があり
ましたが、ここではまっただ
全くと、なすすべがありません。

ひ
そんなある日、ハイキングをしていた
ジェームスとウィリーは、死んだオオカミ
のそばをとおりました。「きっと、自分よりも
とお じぶん
大きな動物に殺されたんだろう。いや、も
おお どうぶつ ころ
しかすると飢え死にしたのかもしれない。」
う し
ハイキングをつづけながら、かれ はな
彼らはそう話
しました。この死んだオオカミが、ジェー
ムスのきじつ まも
ムスの期日を守らせてくれることになるな
ど、ふたりはゆめ おも
ど、ふたりは夢にも思いませんでした。

(つづく)

だい しょう 第4章

さんじょう すいくん 山上の垂訓



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである。
彼らは神の子と呼ばれるであろう。」

マタイ 5:9



にちようび
日曜日

サタンは神様の十戒が大嫌いです。
彼は、わたしたちがそれに従うと
幸せになることを知っているの、人々
に十戒が大切でないものだと思わせたり、
人間がそれに従うのはむずかしすぎると
思わせたりします。しかし、神様に助けを
求めれば、十戒にしたがうことができるこ
とを、イエス様は示してくださいました。

ある朝早く、イエス様は 12 弟子といっ

しよに、ガリラヤ湖のほとりにおられました。
彼は、どうすれば御国に入れるのか、
弟子たちにもっとくわしく教えたいと考え
ておられました。イエス様のおっしゃる幸
せというのは、ローマ人の支配から解放
されて裕福になるというようなものではな
いことを、弟子たちは知る必要がありまし
た。その幸福は、ただ心をつくして神様
を愛すること、また「自分を愛するように
隣人を愛する」という黄金律に従うことに
よってもたらされるものです。

しばらくすると、イエス様の話を聞こう
と、次から次へと人々がやってきました。
そしてまもなく、岸部は人でいっぱい
になり、場所が足りないほどでした。そこ
で、イエス様はどうなさいましたか？**マ
タイ 5:1。**

イエス様は草の上にすわり、弟子たち
がそのまわりにすわり、そのほかの人た
ちがさらにそのまわりを囲んで、イエス様
の話に耳をかたむけました。わたしたち
も、イエス様の語られた言葉を讀みなが
ら、その場の光景を想像してみましよう。

これから、9つの「祝福の
お言葉」を聞いていきます。
日本語の聖書は「さいわい」
となっていますが、英語の
聖書は「祝福」となってい
ます。どちらも同じ意味と考
えてください。では、最初
の節を読んで下さい。3節。



「心の貧しい」状態が、ど
うして幸いだというのでしょ
う? いったい、これはどういう意味なので
しょう?

イエス様はこのことをわたしたちに理解
させるために、いちど、ある物語を話され
ました。それは、あるパリサイ人と取税人
が、祈りをささげるために神殿に行くお話
です。ルカ 18:9-13 をひらいて読んでみま
しょう。

考えてみよう: 自分が罪人で、助けが
必要なのを知っていたのは、どちらのほう
でしたか? 自分はすでに完全だと思ってい
たのは、どちらのほうでしたか? すべての
人を愛されるイエス様は、このふたりのど
ちらも愛しておられました。しかし、イエ
ス様が助けることのできたのは、どちらの
ほうでしょう? わたしたちは絶えずイエス様
が必要であることを、いつも覚えているべ
きではないでしょうか? そしてそのような人
が、「心の貧しい人」なのです。

げつようび 月曜日

「心の貧しい」状態とはどのような
ものか、覚えていますか? それ

は、わたしたちが、どんな
時もまったくイエス様に頼
る必要があることを覚える
ことです。わたしたちはみ
な罪人で、ただイエス様の
おかげで罪がゆるされてい
ます。イエス様がわたした
ちの中に住んでくださると
きのみ、彼に似る者となる
ことができます。そしてイエ

ス様を知れば知るほど、イエス様をどれ
だけ必要としているかに気づかされるので
す。自分の力でサタンの攻撃から安全で
いられることは、絶対にありません。ど
れだけ努力をしたとしても、自分自身を
天国に入るにふさわしい者となるようにつ
くりかえることは、決してできません。

イエス様が決していただかない思いを
いだき、イエス様が決してなさらないこ
とをしてしまったとき、そのことを後悔し
て悲しむでしょうか? まちがった行為は、
最終的にわたしたちを傷つけ、イエス様
までも傷つけます。しかし、ずっと悲しん
でばかりいる必要はありません。イエス様
はいつでもよるこんでゆるして下さいまし
(第1ヨハネ 1:19)、わたしたちをなぐさ
め、もういちど立ち直れるように助けて下
さいます。マタイ 5:4。

もしわたしたちが自分を完全だと思っ
ているとしたら、イエス様のことも、イエス
様がいかに完全なお方であられるかも分
かっていないということです。それでは、
昨日学んだあの高慢なパリサイ人と同じ
です。すべての人は、自分自身の生涯の
代わりに、イエス様の完全な生涯を選ぶ

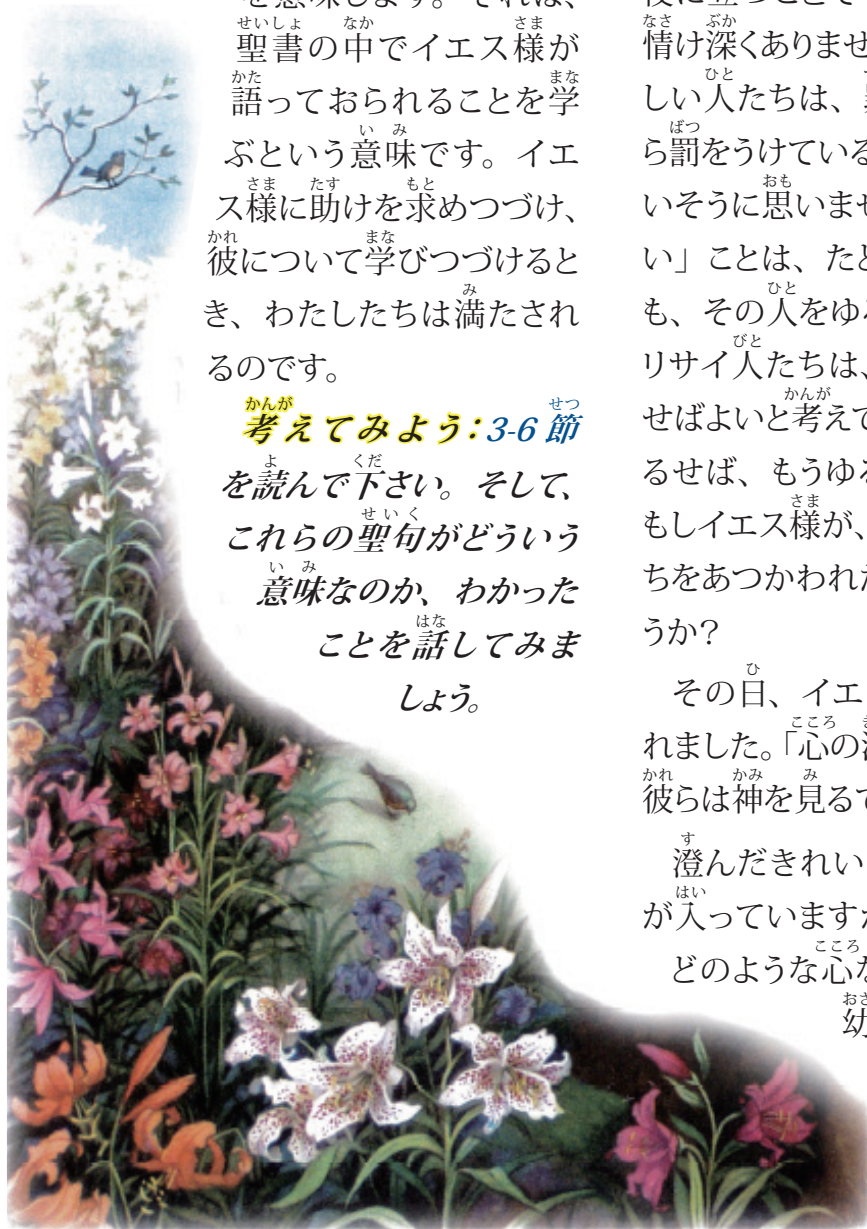
ことによって天国へ行くことができるので
す。自分が何かすばらしいことをしたから
天国に入れる、という人はだれもいませ
ん。

イエス様の物語に出てきた取税人の
ように、柔和〔従順〕な人たちだけが、
天国に入ることができます。5節。

次にイエス様は、「飢え渴いている」
状態について話されました。6節。

義に飢え渴いているというのは、イエ
ス様のようになりたいと真心から願うこと
を意味します。それは、
聖書の中でイエス様が
語っておられることを学
ぶという意味です。イエ
ス様に助けを求めつづけ、
彼について学びつづける
とき、わたしたちは満たされる
のです。

考えてみよう: 3-6節
を読んで下さい。そして、
これらの聖句がどうい
う意味なのか、わかった
ことを話してみま
しょう。



かようび 火曜日

ガリラヤ湖近くの山の上で、イエス
様は幸せになる〔祝福をうける〕
ためのいくつかの方法について語られまし
た。次の聖句は、あわれみ深いことにつ
いて述べられています。マタイ 5:7。

「あわれみ〔情け〕深い」というのは、
イエス様のように親切で、寛大〔思いや
りがあり、むやみに人を責めない〕で、
役に立つことです。多くのパリサイ人は、
情け深くありませんでした。病気の人や貧
しい人たちは、罪を犯したために神様か
ら罰をうけていると考えていたので、かわ
いそうに思いませんでした。「あわれみ深
い」ことは、たとえ相手があやまらなくて
も、その人をゆるすことでもあります。パ
リサイ人たちは、決められた数だけゆる
せばよいと考えていました。その分だけゆる
せば、もうゆるすことをやめるのです。
もしイエス様が、パリサイ人のように私
たちをあつかわれたとしたら、どうなるでし
ょうか？

その日、イエス様はつづけてこう言わ
れました。「心の清い人たちは幸いです。
彼らは神を見るであろう。」8節。

澄んだきれいな水には、ばい菌やゴミ
が入っていますか？いいえ。清い心とは、
どのような心なのでしょう？イエス様は
幼いころ、どうして澄んだ
きれいな心でいられた
のでしょうか？

イエス様は、あな

たやわたしにもできるような方法で、ご自分の心を清くしたもたれました。イエス様は、意地悪で自分勝手な考えをすることを選ばないように、毎日神様からの助けを求めました。また、下品な冗談や不純〔純粹でない〕な話には絶対に耳をかたむけない決心をしておられました。イエス様が反抗したり、ぐちをこぼしたり、人からかかったり、おろかな言葉を口にしたと思いませんか？もし、イエス様の家にラジオやテレビがあったとしたら、あなたがするのと同じように、それらを見たり聞いたりしたと思いませんか？

考えてみよう: あわれみ深く清い心をもつために、あなたはどのような学びをしていますか？

すいようび 水曜日

平和をつくりだす人は、ふつうみんなから好かれます。もしかしたら、あなたもそんな人になりたいと思っているかもしれません。そのような人たちについて、イエス様は何と言われましたか？ **マタイ 5:9**。

アダムとエバが罪を犯して以来、わたしたちは、自然と〔生まれつき〕サタンにしたがう者になっています。争いや怒り、嫉妬、憎しみが世界に、また多くの家庭にまで広がっています。それは、イエス様だけがわたしたちの心を平和と愛とで満たして下さるといふ事実を、わたしたちが知ったり思い出したりしないようにと、サタンができるかぎりの手をつくしている

からです。

アダムとエバが初めてサタンにしたがってすぐに、ふたりはお互いを責め始めましたね？彼らの息子のひとりは、兄弟を殺してしまいました。しかし、もしわたしたちがイエス様の近くにいることを選ぶならば、イエス様が他の人を大事にしたように、わたしたちも他の人を大事にすることができるようになります。そうしてはじめて、わたしたちは「平和をつくり出す人」となれるのです。そうすると、何ものもわたしたちの思いを乱したり、落ちこませたりすることはできません。心は平安〔平和〕にみちいて、他の人とも平和を分かち合わずにはいられなくなります。**ローマ 12:18** は、何をするように教えてくださいませんか？

こんどは、**マタイ 5:10,11** を読んでみましょう。他の人からばかにされたり、だまされたり、傷つけられたりしてもなお、わたしたちは喜んでいられるでしょうか？正しいことをしようと決心し、イエス様に忠実であることを選んだために、人々から嫌なことをされたとしたらどうでしょう？だれに何を言われても、また何をされても、本当に喜んでいられるのでしょうか？はい！イエス様はそうなさいました。そして彼は、わたしたちも同じようにできる力を与えてくださるのです。**ヨハネ 16:33**。

たしかに、この世ではかならず悩みや苦しみにあいます。しかしイエス様は、1分たりともわたしたちから離れることはありません。何よりもうれしいのは、イエス様がおいでになって、わたしたちを天国へ

つれて行って下さるときに、すべての問題が完全になくなることです。マタイ 5:12。

考えてみよう: こんどは、3-12 節にもどって読んでみましょう。幸せになることについて、それぞれの節は何と言っていますか？

もくようび 木曜日

あ あなたは今までに、お母さんが塩を入れ忘れて作った料理を食べたことがありますか？それを食べたとき、おそらく「お母さん、塩を入れるの忘れたでしょ?!」と言ったでしょうね。

「幸いな人々」について話されたあと、彼を愛することを選ぶ人々は、食べ物と混ぜてその味を良くする「塩」に似ていると、イエス様は言われました。「塩」は「愛」のようなものです。食べ物に入っている塩のように、わたしたちが言うことやすることのすべてには、愛が入っていないはいけません。

愛は、イエス様からくるものです。わたしたちの心に愛があれば、すべての人がそれに気づきます。あなたはこれまでに、したがいたい気持ちからではなく、し



たがわなくてはいけないからという義務感から、従ったことがありますか？そのような人たちのことを、イエス様は「本来の味をなくした塩」に似ていると言われました。マタイ

5:13。またイエス様は、暗闇に輝く光となることについても話されました。14-16 節。

たとえ幼い子供であっても、イエス様のための輝く光となることができます。イエス様のようになることを選ぶとき、わたしたちは彼の光を受けて輝くのです。いつも明るく、喜びの表情をたたえ、やさしく、人を助け、そして両親のいうことにすぐに従うことなどのすべては、わたしたちの光をイエス様のために輝かせていることになります。他の人たちを幸福にし、わたしたち自身も幸せになります。そして何よりも、イエス様に喜んでいただくことになります。

考えてみよう: 愛についての歌や、光を輝かせることについての歌を知っていますか？思い出したら、ぜひ歌ってみてください。



きんようび 金曜日

山 のそばにすわって話を聞いている群衆をご覧になったイエス様は、彼らの多くが失望しているのがわかりました。彼らは、イエス様が話しておられる国とはちがう国を期待していました。彼らのことを愛しておられたイエス様は、サタンの国がどんなにひどいものかを知っておられたので、彼らに幸福な神の国を味わってもらいたかったのです。今語られているこの大切な真理を彼らが信じて選ぶことを、イエス様はどんなに願っておられたことでしょうか！しかし、彼らのまちがった

かんが か けつ かんたん
考えを変えるのは決して簡単ではないこ
とも、知^しっておられました。

イエス^{さま}様が山^{やま}の上^{うえ}のほう^めに目^めをやると、
かたい岩^{いわ}の上^{うえ}に建て^たられた家^{いえ}々^{いえ}が何軒^{なんげん}か
ありました。それらの家^{いえ}々^{いえ}が、何百年^{なんびやくねん}も
の間^{あいだ}、ずっとそこ^{そこ}にた^たっているの^のを人^{ひと}々は
知^しっていました。風^{かぜ}や雨^{あめ}、そして洪水^{こうずい}でさ
えも、これら^{これら}の家^{いえ}を害^{がい}することはできませ
んでした。これら^{これら}の家^{いえ}を建て^たてるのは、大変^{たいへん}
な重労働^{じゅうろうどう}でした。家^{いえ}を建て^たてるための材料^{ざいりょう}
を運^{はこ}ぶのにも、けわしい場所^{ばしよ}を登^{のぼ}らなく
てはなりません^でした。しかし、これら^{これら}の
重労働^{じゅうろうどう}も、すべて価値^{かち}のあるものでした。
かれ^{かれ}のた^たてた家^{いえ}々^{いえ}は、長年^{ながねん}にわたり頑丈^{がんじょう}
で安全^{あんぜん}だったからです。

それからイエス^{さま}様は、海^{うみ}や川^{かわ}や湖^{みづうみ}の近^{ちか}
くに家^{いえ}を建て^たてた人^{ひと}たちのことを考え^{かんが}ました。
そういった場所^{ばしよ}に家^{いえ}を建て^たてるのは、それ
ほど大変^{たいへん}な仕事^{しごと}ではありません^でした。
どだい^{どだい}と地面^{じめん}は、山^{やま}にある家^{いえ}々^{いえ}のよう
なかたい岩^{いわ}ではな^なかったにもか^かかわらず、
それでも大丈夫^{だいじょうぶ}、安全^{あんぜん}だろうと^{かんが}えたので
した。ところが雨^{あめ}がふり、川^{かわ}の水^{みづ}が山^{やま}から
ものすごい勢^{いきお}いで流^{なが}れてきて、時^{とき}にはこ
れら^{これら}の家^{いえ}のた^たっている場所^{ばしよ}が洪水^{こうずい}になっ
たこともあり^ありました。ひとたび洪水^{こうずい}が起^お
ると、かれ^{かれ}の家^{いえ}々^{いえ}は破^は壊^{かい}され、すっかり流^{なが}
されてしま^まいました。イエス^{さま}様は、人^{ひと}々^{ひと}を
かえ^{かえ}るま^{まえ}に、岩^{いわ}の上^{うえ}に家^{いえ}を建て^たてたか^かしい
ひと^{ひと}と、砂^{すな}の上^{うえ}に家^{いえ}を建て^たてたお^おろかな^{ろかな}人^{ひと}の
もの^{もの}がた^{たり}はな^{はな}物語^{ものがたり}を話^{はな}されました。マタイ 7:24-27。

ひとびと いえ かえ みち かんが
人^{ひと}々は家^{いえ}へ帰^{かえ}る道^{みち}すがら、考え^{かんが}ることが
たくさんあり^ありました。まちが^{まちが}った悪^{わる}い習^{しゅう}慣^{かん}
を改^{あらた}めることは簡単^{かんたん}ではないけれど、



かれ ひと
彼^{かれ}らは、あ^あのか^かしい人^{ひと}のようにな^なろうと
する^するで^でしょうか?本^{ほん}当^{とう}の幸^{しあわ}せを^て手^てに入^いれる
には、その道^{みち}〔方^{ほう}法^{ほう}〕し^しか^かないの^のです。
28,29 節。

かんが
考えてみよう:あなた自身^{じしん}はどうですか?
イエス^{さま}様^{さま}のようにな^なることを選^{えら}ぶのは、い
つでも簡単^{かんたん}なこと^{こと}ですか?いいえ、そう^{そう}で
はあり^ありませ^せんね。でもこの選^{えら}びを^をする^するとき
に、わたしたち^{わたしたち}は、も^もっ^もと^とうれ^{うれ}しい気^き持^もち
にな^なれますか?他^{ほか}にだ^だれ^れが、このこと^{こと}を喜^{よろこ}
んで^でくれる^るで^でしょうか?あ^あなた^{なた}がイエス^{さま}様^{さま}に
か^かえ^えて^てもら^らいた^{たい}い^いことは何^{なん}です^すか?

まな
もっと学ぼう!

★マタイ 5-7 章

★ルカ 6:20-49

★祝福^{しゅくふく}の山^{やま} p. 7-55



きゅうか し 休暇と死んだオオカミ その2

エイミー・シェラード編

ジェームスとエレン・ホワイト、また彼らの息子のウィリーは、コロラドにある湖のそばでキャンプをしていました。持ってきた食料はもうすぐ底をつきそうで、ろうそくはすべて使いはたしてしまいました。それに加えてジェームスは、印刷してもらわないといけない大切な資料を、期限までに送る手段がまったくありませんでした。



Little Folk Visuals

ジェームスとウィリーがハイキングをしたその日のことです。ふたりは、魚をひきとって売りに出すというある男の人が、その日の夜に到着し、次の朝早くに帰ることを知りました。ジェームスが印刷の期日間に合わせると約束したあの資料を、彼に持って行ってもらえるはずでした。

ジェームスはただちに、原稿を完成させようと机に向かいました。書きながら、彼は太陽に目をやりました。もうすぐ暗くなるというのに、手持ちのろうそくは使いはたしてしまっています。それでも、原稿を仕上げなくてはなりません。暗闇の中で、

どうやって書くことができるのでしょうか？

すると不意に、ジェームスはあることを思いつきました。「ウィリー、ウィリー！来てくれないか！原稿を何がなんでも完成さ

せるために、どうしても明かりが必要なんだよ。僕たちが通った道で見た、あの死んだオオカミを覚えているかい？」ウィリーは思い出しました。「あれを見つけてこ

れるかな？」ジェームスはたずねました。ウィリーは、見つけれられると思いました。「なら、ナイフと鍋を持ってあのオオカミの死体のところへ行って、とれるかぎりの脂肪の部分を持ち帰ってほしいんだ。」ウィリーが出かけようとするとき、ジェームスはつけ加えました。「念のため、猟銃をもって行きなさい。あの辺りに、暗くなったら熊がうろうろしているだろうからね。」

猟銃とナイフと鍋を肩にかついで、ウィリーはあの死んだオオカミを探しに出かけました。「まだコヨーテにとられてなければいいが…」と思いました。いよいよそ

の場所にやってくると、死体はまだそこに
ありました。ウィリーは死体のそばにひざ
まずき、注意深く、とれるだけの脂肪の
部分を切り取りました。最後にはそれが、
1 カップ半ほどの量になりました。

キャンプにもどると、ジェームスはこの
脂肪をコンロの上で溶かし、お皿のはし
の方へ注ぎました。それから、しっかりと
ねじったぼろきれを溶かした油〔脂肪〕
に入れました。火をつけてみると…つくで
はありませんか。ついに明かりを手に入
れたのです！

ジェームスは、急いで仕事にとりかかり
ました。10時、11時・・・お皿にはま
だ、溶かした油が残っています。12時に
なりました。とうとうジェームスは原稿を
完成させました。お皿にはまだ、いくら
油が残っていました。彼は明かりを消し、
眠りにつきました。朝がくると、男の人
は、この大事な書類をうけとり、馬に乗っ
て去って行きました。ジェームスは、書類
が出版社へ期日どおりに届くことがわかっ
て、胸をなでおろしたのです。

そのおよそ一週間後、やっとうオリング
さんが来てくれました。キャンプをしてい
た3人は、ウォリングさんと彼が持って来
てくれた食糧やその他の必需品を見て、
どんなに喜んだことでしょう！ウォリングさ
んは、製材所で問題が起きたことを話し
ました。しかも彼は、ホワイト家の人々の
食糧がなくなりそうだったことに気づい
ていなかったのです。しかし今では、す
べてがまたうまくいっています。そして、
湖への旅を実現できたことをみんなで喜

びました。また、ジェームスの手紙の期日
を守らせてくれたあのオオカミのことも、
忘れられない経験となりました。

(おわり)

だい しょう 第5章



すばらしいやし主ぬし

子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「神にはなんでもできないことはありません。」

ルカ 1:37

にちようび 日曜日

今週は、ふたつのすばらしい物語をお勉強します。最初に出てくる物語は、ローマの軍隊の、ある偉い役人のお話です。彼は100人の兵隊を率いていたので「百卒長」と呼ばれていました。本当の名前はわかりませんが、この役人がイエス様のことを知っていて、信じたことはたしかです。

ローマ人は偶像を礼拝し、またローマの皇帝をも拝んでいました。しかし、この役人は真の神様について学び、その神様を信じていました。彼はユダヤ人に親切で、また友好的で、ユダヤ人のために会堂まで建ててあげました。イエス様の教えや活動を耳にした彼は、これこそ神様からつかわされたお方にちがいないと思いました。



ところが、あることがこの百卒長をひじょうに悩ませていました。それは何でしたか？ルカ 7:1,2。

イエス様がカペナウムにもどって来られることを知った百卒長は、彼のしもべをイエス様にいやしていただきたいと思いました。自らイエス様のところへ出かけて行って、しもべをいやして下さるようにお願いすることもできたはずですが、そうはしませんでした。自分がイエス様と話をするのに、ふさわしくない人間だと考えていたからです。そこで百卒長は、ユダヤ人の長老たちに何をお願いしましたか？3節。

長老たちはイエス様のところへと急ぎました。百卒長がユダヤ人のために会堂まで建ててくれたので、彼らは喜んで百卒長を助けました。彼らは、イエス様に何と言いましたか？4,5節。

考えてみよう：イエス様は、この百卒長がカペナウムにいるユダヤ人にとっても親切なこ

とを喜ばれましたが、それが理由でこの百卒長を助けたと思いますか？わたしたちが「良い人間」であるときだけ、わたしたちを愛し、祝福して下さるのですか？それとも、イエス様はずっと、どんな時もわたしたちを愛して下さいますか？「悪人」に神様がお与えになっている祝福には、どんなものがありますか？



う信じているかを説明しました。しもべをいやしてもらうのに必要なのは、イエス様のお言葉だけだったからです。

このローマのえらい役人の言葉を聞いて、イエス様の心は喜びでいっぱいだったことでしょう。マタイ 8:8,9。

それは、百卒長が自分の兵士やしもべに対して命令を

下すと、彼らがかんがはず命令にしたがうことと似ていました。彼らにしたがうのは、ローマ帝国が強い権力をもって、百卒長がローマの役人だったからです。しかし、イエス様は神としての力をもっておられたので、ローマよりもはるかに力のあるお方でした。神様は全能の神です。この役人は、イエス様がただお言葉を下さるだけで十分であることと、イエス様が命令なされると必ずそのとおりになることを知っていました。

イエス様は、このローマの役人に何と言われましたか？彼らが話している間に、百卒長の家では何が起きていましたか？

13節。

かんが **考えてみよう** : 13節の中に、イエス様**さま**が百卒長のしもべをいやすことができました**りゆう**が、ひとつの**ことば**であらわされています。その**ことば**とは何ですか？

げつようび 月曜日

イエス様は、重い病気のしもべがいる百卒長をよろこんで助けようと思われました。そして、ただちに百卒長の家へと歩き始めました。

百卒長はまさか、イエス様が実際に自分の家まで来て、しもべをいやして下さいなど考えもしませんでした。イエス様がただお言葉を下されば、しもべはいやされるとかたく信じていたのです。

イエス様が自分の家に向かっていることを聞いた百卒長は、すぐに友人たちにたのんでイエス様のところへ行ってもらい、家まで来ていただく必要はないことを伝えさせました。ところがイエス様は、それでもまっすぐ百卒長の家へ向かって歩きつづけます。

それを知った百卒長は、もう自分がなんとかするしかないと思い、イエス様に会いに行きました。彼はイエス様に、わざわざ来てもらう必要はないことと、なぜ自分がそ

かようび 火曜日

むすこ **息**子が病気で死にかけていたとき、カペナウムからカナの町まで

イエス様に会いに行き、助けを求めた、ユダヤの役人のお話を覚えていますか？イエス様に会ったとき、彼はびっくりしました。そして、もし息子がいやされたら、イエス様を信じようと決めました。その態度は、百卒長の信仰とどうちがっていましたか？

百卒長の話を聞いたイエス様は、たいへん驚かれました。イエス様の親族や友人、またはこれまでに話をしてきた何千人もの人々の中に、百卒長のような信仰をあらわした人はひとりもいなかったからです。まわりにいる群衆をふりかえって、イエス様は何とおっしゃいましたか？**マタイ 8:10。**

ユダヤ人たちは、自分たちはアブラハム、イサク、ヤコブの子孫なので、かならず天国へ行けると信じきっていました。ところが、イエス様が話されたことは、おそらく彼らが考えもしなかったことでした。世界中のさまざまな国の人たちが、アブラハムやイサクやヤコブとともに天国にいるだろうと彼は言われましたが、自分が入れるとばかり思っていた人たちの多くが、逆に入れられないだろうということです。彼らを救うことのできる唯一のおかたを拒みつつけていたからです。**11,12 節。**

アブラハムとイサクとヤコブが天国に入るのは、彼らが神様を愛し、信頼し、十戒にしたがうことを選んだからです。彼らは、いつの日か神様ご自身が真の小羊



となられることを知っていました。わたしたちをサタンから自由にするために、彼はわたしたちのために死んでくださるのです。しかし、ほとんどの人はイエス様を拒むこととなります。彼らは、ちがうメシヤを期待していました。つまり、自分たちを罪からではなく、ローマ人から自由にしてくれる救い主を望んでい

たのです。

考えてみよう：いよいよイエス様がおいでになるとき、自分は救われるという確信を、どうやったらもつことができますか？

すいようび 水曜日

百卒長のしもべをおいやしになつた次の日、イエス様は弟子たちといっしょに、ナインと呼ばれる村へ行きました。途中、多くの人々をおいやしになりました。ナインの近くへ来たころには、よろこびにあふれた大勢の男と女、少年少女たちがイエス様についてきていました。**ルカ 7:11。**

ところが、いよいよ村へ入ろうとするときに、人々はしずまりかえりました。別のグループの人たちが、悲しそうな様子でこちらへ向かってきます。よく見ると、ほとんどの人が泣いています。それは葬式のいちだんし、わかもの、はか、はこ一団で、死んでしまった若者をお墓に運

んでいるところでした。遺体はふたのあいた棺おけ〔ひつぎ〕のような物に入れられて運ばれ、死んだ青年の母親がその後ろを歩いています。彼女はやもめ〔夫を亡くした女〕で、この青年は彼女のひとり息子でした。

12 節。

かわいそうな母親は、胸もはりさけんばかりに泣いていました。イエス様も、いっしょについて来た人々も立ち止まりました。みんな、彼女のことを気の毒に思いました。イエス様も、この母親をあわれに思い、すすり泣きながら歩く彼女に近づかれました。イエス様が語りかけたとき、やもめの女は、そのやさしい声を聞きましたが、彼女の目は涙でいっぱいだったので、それが自分に話かけているのかはわかりませんでした。13 節。

イエス様は彼女に、泣かないようにとおっしゃいました。しかし当然、泣かずにいられるわけがありません。夫を亡くし、こんどは大事なひとり息子も亡くしたのです。そのさびしさと悲しみは、はかり知れないほどのものでした。やさしく語りかける声の主がだれなのかも、今まさに起ころうとしているすばらしいことについても、彼女はまだ知りません。目には、まだ涙があふれていました。

考えてみよう: イエス様は今でも、だれかが死ぬと悲しまれるでしょうか? もちろんです。イエス様は、すべての人を愛して



おられます。今にも死にそう
な人たちも、愛する人を亡く
して悲しんでいる人たちもみ
な、愛しておられます。聖霊
をとおして、今にも息を引き
とろうとしている人たちのそ
ばにすることができます。ま
た、悲しみにくれている人た
ちのそばにすることもできる
のです。

もくようび 木曜日

イエス様が棺おけに〔ひつぎ〕ふれ
ると、それを運んでいた男たちは
立ち止まりました。人々は、何が起ころう
としているのかと思って、注目したことで
しょう。悲しんでいる母親は、涙をぬぐっ
て、棺おけを運んでいた男たちをふしぎそ
うに見たことでしょう。

イエス様についてきた人たちも、墓に
向かっていた人たちも、あいた棺おけの
まわりに集まりました。みんなしずまり
返っています。すると、はっきりした力強
いイエス様の声が聞こえてきました。ルカ
7:14。

なんとイエス様は、死んだ人に向かっ
て、目を覚ますようにと語られたのです。
人々は、イエス様が数々の力ある奇跡を
行ってきたことを知っていましたが、はた
してイエス様は、死よりも強い力を持って
おられるのでしょうか?

次の瞬間、何が起こったか想像できま
すか? なんと、棺おけの中の青年が起き

あ
上がったのです。もしかしたら、あたりを
みまわして「いったい、どうなってるんだ？
あれ、どうして僕が棺おけの中に？」といっ
たような質問をしたかもしれません。

かん はこ おとこ せいねん
棺おけを運んでいた男たちは、青年
つつ めの かん
を包んでいた布をはずして、彼を棺おけ
からおろしてあげたことでしょう。愛する
ははおや りょうて ひろ た
母親が、そばで両手を広げて立っています。
かのじよ な だ
彼女は、ふたたび泣き出したかもし
れません。ただし、こんどは喜びの涙です。
イエス様は彼の手をとって、母親にこう言
われたことでしょう。「あなたの息子さんは
生きていますよ」と。ふたりは、すぐに抱
き合ったことでしょう。15節。

かんが
考えてみよう: イエス様は神様であり、
にんげん
人間でもあられました。しかし、神様とし
ての力を使ったのは他の人を助けるとき
だけで、ご自身を助けるためにその力を
つか けつ
使うことは、決してありませんでした。やも
めの子を生き返らせたことは、イエス様
かみさま ほんとう むすこ
が神様の本当の息子であることを人々が
し
知るのに、どう役立ちましたか？イエス様
がなされたことは、サタンにもできますか？
イエス様がナインで行われたのと同じよう
な奇跡を行える者が、人間の中にいます
か？

きんようび 金曜日

きのうは、イエス様が死んだ人を
い かせ ものがたり まな
生き返らせた物語を学びました。
ば ひと
その場にいた人たちはみな、しばらくの
あいだひとこと
間、一言もしやべらずに、ただぼうぜん
と立ちつくしていました。まるで、目の前の

できごと しん かお
出来事が信じられないような顔をしていま
した。それでも彼らは、それがげんじつ
であることがわかりました。イエス様は本当に、
し にんげん い かせ
死んだ人間を生き返らせたのです。彼ら
はなんといいましたか？ルカ 7:16。

この知らせは、あつという間に広まった
おも
と思いますか？17節。

イエス様がなされたことを喜んでいな
かったのはだれでしょう？サタンは、うれし
くありませんでした。また、祭司や指導者
たちも喜んでいませんでした。彼らは、イ
エス様が真のメシヤであると信じることを
こぼ
拒みつづけていました。サタンにしたがう
ことを選びつづけてきた彼らにとって、イ
エス様を信じることを拒むのは、それほど
むずかしくはありませんでした。

よみがえらされたせいねん
青年も、そこにいたす
べての人も、今はもう死んでいますね。し
かし、イエス様に信頼したがる選びを
したならば、もうじきイエス様が来られる
ときに、ふたたび命が与えられるのです。
イエス様の天のお父様は、わたしたちの
お父様でもあられます。ですから父なる
かみさま
神様は、わたしたちを救って、天の御国
い
に入れることがおできになるのです。コロ
サイ 1:13,14 を読みましょう。

イエス様が喜んで、人間であるわたし
たちの兄弟となって下さったのは、わたし
きようだい くだ
たち一人ひとりのことを愛しておられたか
らだということを、いつも思い出して下さ
い。イエス様が生きて、また死んで下さ
ったおかげで、わたしたちは救われたので
す。たとえもし、イエス様が来られる前に
わたしたちが死んでしまったとしても、ふ

たたび生き返らせて、いっしょに天国へと連れて行って下さいます。

もちろん、愛するだれかが亡くなったときには、悲しまずにはられません。しかしわたしたちは、神様を知らない人たちのように悲しまなくてよいのです。希望を失わなくてもよいのです。イエス様を愛し、信頼することを選んだ人々を起こして天国へ連れていくために、彼がもどって来られることをわたしたちは知っているからです。第1テサロニケ4:16-18に書かれている、神様が下さったすばらしい約束を讀んでみましょう。

考えてみよう：死ぬとはどういうことか、人々に教えることができますか？わたしたちは、死ぬことを恐れなくてはなりませんか？

もっとまな学ぼう！

★マタイ 8:5-13

★ルカ 7:1-17

★各時代の希望 第32章



ジョンとアンドレー、ホワイト夫人に会う その1

エイミー・シェラード編

と お はな さいしょ
遠く離れたスイスでの、最初のセブ
ンスデー・アドベンチスト信者は、
ロス家の人たちでした。ロス家は、彼ら
が住んでいる町では有名でした。父親と
上のふたりの息子は大きな百貨店〔デパー

ト〕を経営していま
した。彼らは礼儀正
しくて正直だったの
で、町の人たちから
好かれていました。

「それにしても、どう
して彼らは日曜日で
はなく土曜日に礼拝
するのだろうか？」人々はふしぎに思いまし
た。ロス家の人たちがすばらしいクリスチャ
ンであることも、土曜日に礼拝しているこ
とも、みんなが知っていました。

そんなある日、すばらしい知らせがロス
家にとどきました。ヨーロッパにおられる
ホワイト夫人が、彼らをたずねて来てくれ
るというのです。

金曜日の午後、下のふたりの息子ジョ
ンとアンドレーは、ホワイト夫人をおむか
えする準備を手伝っていました。

「ねえ、ホワイト夫人は、僕たちみたい
な子供にも話しかけてくれるかな？」客間
にある家具を忙しそうにみがきながら、

ジョンは弟にたずねました。

「彼女が僕たちに話しかけても話しかけ
なくても、僕は気にしないよ」とアンドレー
は答えながら、次の日、家族用の聖書をおく
ことになっているテーブルをゴシゴシ

とふいていました。
「とにかく僕は、イ
エス様や天使と話が
できる人に会えるの
が楽しみでしかたが
ないんだ。」

ジョンも同感でし
た。そして部屋をみ

まわし、自分たちのできるかぎり、部屋
をきれいにできたと思いました。「アンド
レー、こんどは安息日用の服がきちんと
用意できているか見にいこうよ。あとから
だと、時間がないだろうから。」ジョンは
そう言って、弟をうながしました。それか
らまもなくして、ホワイト夫人とその一行
が到着しました。

ジョンとアンドレーは、礼儀正しくホワ
イト夫人と握手をしたときに、彼女のほほ
笑みとやさしそうなまなざしを見て、きつ
とこの人は自分たちのお友だちになってく
れるにちがいないと思いました。

その夜、お客様の話を聞こうと、11



Little Folk Visuals

にん ゆうじん け あつ よくあさ
人の友人がロス家に集まり、翌朝もホワイ
ふじん はなし き あんそくにちがっこう
ト夫人の話を聞くために、安息日学校と
れいはい さんか ちゆうしよく あか
礼拝に参加しました。昼食のあとには証
かい ふじん
し会があり、みんなが、ホワイト夫人をつ
かわして じぶんたちと す
かわして自分たちと過ごさせてくださった
さま かんしゃ
イエス様に感謝をささげました。

にちようび ちようしよく い
日曜日の朝食のあと、ロスさんが言いま
した。「子どもたち、今から古い修道院を
こ いま ふる しゅうどういん
見にいってくるよ。お客様たちは、美しい
み きやくさま うつく
山の景色を楽しんでくれるだろうからね。
やま けしき たの
いっしょに行くかい？」

ふたりは、お父さんたちといっしょに出
とう で
かけたかったでしょうか？ええ、もちろん
ですとも。そこですぐに全員が、ロス家の
ぜんいん け
大きな馬車に乗りこみました。馬車が走
おお ばしゃ の ばしゃ はし
る間、彼らはまわりの美しい景色に見入っ
あいだ かれ うつく けしき み い
ていました。

ところが、それほど遠くへ行かないうち
とお い
に、とつぜん山は嵐になりました。もくも
くも 雲が集まり、稲妻がひらめき、雷がと
くも あつ いなずま かみなり
どろき、そのうちヒッコリーの木の实ほど
ひょう (ひょう) が激しく降り始めました。
うし うま ひつじ にわとり きょうふ じゅう
牛や馬、羊、鶏たちは、恐怖でそこら中
をかけまわり、隠れ場をさがすのに必死
かく ぼ ひっし
です。ロスさんとお客たちも、避難する
きやく ひなん
場所が必要です。彼はすばやく、近くの
ばしよ ひつよう かれ ちか
農家へつながる道へ馬車をまわしました。
のうか みち ばしや

(つづく)

だい しょう 第 6 章

じゃま れいはい 邪魔された礼拝



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

ひと じぶん
「人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。」

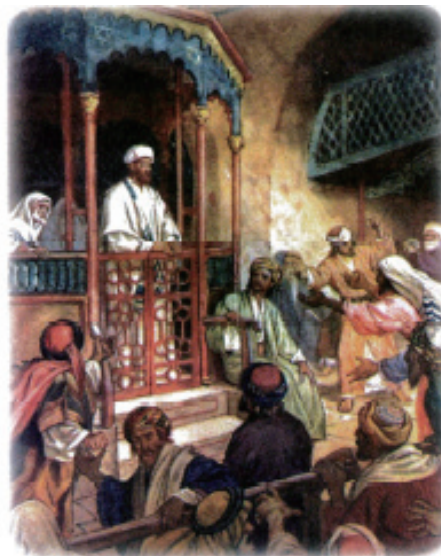
ガラテヤ 6:7

にちようび 日曜日

わ たしたちが教会へ行くときには、
天使もそこにいますか？それは良
い天使でしょうか、それとも悪い天使で
しょうか？またはどちらの天使も教会にい
ると思いますか？どちらの天使もいる、と
いう答えが正解です。

ある安息日に、イエス様は会堂で話を
しておられました。話を聞いている人たち
の顔を見るだけで、イエ
ス様には、彼らの考えてい
ることが手にとるようにわ
かりました。ルカ 4:31,32。

ある人たちは、イエス
様の話を注意深く聞いて
いました。何人かが神様
の国について理解し、そ
こに入る者になりたいと願
うのをごらんになり、イエ
ス様はお喜びになりまし



た。ところが、どんな人が神様の国に入
れるかをイエス様がお話なさると、別の
ある人たちは不愉快そうに見えました。彼
らが、自分たちの悪い行いやまちがった
考えを変えたくないと思っているのが、イ
エス様にはよくわかりました。彼らはただ、
ローマ人の支配から解放されることだけ
を望んでいたからです。

サタンから解放されることについてイエ
ス様が話しておられると、人々はしずかに
聞き聞いていましたが、とつぜん、恐ろし

い叫び声が聞こえてきまし
た。気の狂った男が、す
わっていた場所から飛び
上がり、礼拝している人
たちの間をつき進んで、
イエス様のほうへとまっす
ぐ向かっていくではありま
せんか。そのあいだ、男
はずっと叫びつづけてい
ました。33,34 節。

その場にいた人たちは、

みんな恐れおののきましたが、イエス様だけはちがいました。イエス様は、この男がサタンの計画でここに連れて来られたことをご存じでした。イエス様が話したことを忘れさせようと、サタンはこの気の狂った男を使ったのでした。

考えてみよう：安息日に牧師先生の話
を聞こうと教会にやってきた人たちの注意
をそらすために、今日でもサタンは、いろ
いろな人たち、特に子供を用いることがあ
るでしょうか？あなたも、大事な集まりの
邪魔をしたことがありますか？どんなことを
しましたか？

げつようび 月曜日

イエス様は、サタンよりもはるかに多くのことを知っておられます。もちろん、この気が狂った男のこともすべてご存じでした。男は、少しずつサタンにしたがうことを選ぶようになり、しまいには自分で自分を止められなくなってしまったのでした。しかしその日、会堂でお話を聞いているうちに、イエス様なら自分を助けることができるかもしれない、と思うようになりました。もしかしたら、サタンから逃れることができるかもしれない、との希望がわいてきました。ところが、いざ本当に言いたことを口に出そうとしても、できません。そして彼は、恐れあまり叫んだのでした。イエス様は何をなさいましたか？ルカ 4:35。

ふたたび、イエス様はサタンと顔を合わせました。まさにあの荒野で、サタンが

イエス様を誘惑したときと同じように。そしてふたたび、サタンに出て行くようにお命じになると、悪魔はそれに従うしかありませんでした。この時も、イエス様のほうが強いことを証明なさいました。

男は、完全に変えられました！自由の身になったのです。そしてサタンは、彼の王国で捕えられていた捕虜をひとり失ったのでした。男が心から神様を賛美しているのを見て、人々は互いに顔を見合わせました。全員が、今日の前で起こっていることが奇跡であることを認めました。サタンの計画は失敗におわり、これまで以上に、さらに多くの人々がイエス様のことを聞きました。36,37 節。

人々がまだ会堂で話をしている間に、イエス様はしずかにその場を去って、ペテロの家へ休みに行かれました。ところがペテロの家に着いたら、そこはどうなっていましたか？イエス様は何をなさいましたか？38,39 節。

日が沈んだあとも、さらに多くの人々が助けを求めてやってきました。40 節。

やっとイエス様が休むことができたのは、夜おそくのことでしたが、次の朝早くには、い

つものよう
な力をとり
もどし、新
たな忙しい
1日の仕事
にとりかか
る用意が
できていま



した。イエス様が天のお父様
とお話する静かなひときは、
彼にとって、眠るよりも大切な
時間だったのです。

かんが
考えてみよう：あなたは毎朝、
わすれずに天のお父様とお話して
いますか？何の話をしますか？
天のお父様は、いつでもあなた
の話を聞き、助けたいと思っ
ておられます。



が収穫する穀物を集めるよ
うに、すべての人を集めま
す。それは、大収穫の時
となるでしょう。わたした
ち一人ひとりがよい穀物と
なっているならば、集めら
れて倉の中へ入れられ、も
し雑草のように育ったなら
ば、火の中に入れられ焼
かれてしまうでしょう。

わたしたちの心は、農夫がまいた種が
ちらばって落ちる、いろいろな土地のよ
うなものであることを、イエス様はお話なさ
いました。そのお話には、4つの異なる
土地が出てきます。3-8節。

聞いていた人たちの多くは、イエス様の
お話の意味がわかりませんでした。彼らが
帰ったあと、弟子たちや、もっと知りたい
人たちは、お話の意味を説明して下さるよ
うイエス様にお願いしました。10,11節。

かんが
考えてみよう：イエス様が彼らにお話し
たことは、わたしたちにとってもきわめて
重要なので、ぜひとも理解する必要があり
ます。明日は、これらの4つの土地につ
いてお勉強しましょう。

かようび 火曜日

ある日、イエス様が美しいガリラヤ
湖のそばで教えておられると、い
つものように大勢の人が話を聞きにやっ
てきました。岸边はあつという間に人でい
っぱいになったので、イエス様は漁師にたの
んで、湖にうかんでいる船にすわって、そ
こから人々に向かって話をすることにしま
した。マルコ 4:1。

イエス様に向かって立っている人々の
うしろには、平らな土地と丘の斜面があ
り、農夫たちが働いているのが見えました。
ある農夫たちは穀物の収穫をしてお
り、別の農夫たちは次の収穫のために種
をまいていました。そこでイエス様は、種
まきの話をすることにしました。彼の話
を聞いて、それをどう受けとめるかがとても
大事であることを、人々に知ってもらいた
いと思われたのです。そのことが、彼らを
神様の国に入らせるか、それともサタンの
国に入らせるかを決定するからです。

イエス様がおいでになる時には、農夫

すいようび 水曜日

こくもつ はなばな きぎ しょくぶつ
穀物や花々、木々などの植物は、す
べて種から成長します。小さな種
がどうやって成長し、美しい花を咲かせ、
おいしい実を結ぶことができるのでしょうか？
イエス様の話された物語にでてくる「良い
種」とは、何のことでしたか？ルカ 8:11。

「神の言葉」とは何でしょう？もちろん、それは聖書の事です。聖書には、神様の思いが言葉で示されています。みことばを読んで学ぶとき、そこにあらわされている思いが心に入っていきます。それはちょうど、まかれた種が地面の中に入っていくのに似ています。もしわたしたちが神の言葉にしたがうことを選び、イエス様に助けを求めるなら、みことばはわたしたちを変えることができるのです。ヨハネ 17:17。

ひとつ、忘れてはいけません。大切なことがあります。神の言葉が私たちを変えらるうかは、わたしたち自身の選びにかかっています。種が心のど土地に落ちるか、わたしたちが決めるのです。

イエス様の言葉は、わたしたちが想像している以上に強力です。覚えていますか？私たちの世界をおつくりになったとき、彼がなされたのは、言葉を発せられただけでした。サタンを追い払うときも、言葉を発するだけで十分でした。

もしあなたが、家の前の歩道に何かの種をおいたとしたら、それは芽を出しますか？なぜ芽を出さないのでしょうか？なぜなら、そこには種が成長するための土がないからです。きっとすぐに鳥がやってきて、種を見つけて食べてしまうことでは



う。イエス様が話された物語では、歩道のようにかたい地面に落ちた種がありました。マルコ 4:14,15。

あなたの両親や先生たちは、ぜひあなたに聞かせたい話をするまえに「注意して聞きなさい」と言いませんか？あなたがしっかり聞かないと、後で思い出せないことを、彼らは知っているのです。礼拝の間や安息日学校で、わたしたちが注意をはらって聞かないなら、それは道ばたに種をまいていることになりま

す。そして、もしわたしたちが他の人の注意もそらしていたら、他の人たちの心もかたいた地面のようにしていることになるのです。それは、重大なことではありませ

んか？そんなことをしたら、イエス様も悲しまれることでしょう。

考えてみよう：大事なこと

が話されている間は、しずかに聞く子供になってほしいと、両親や先生たちが思うのはなぜですか？彼らはあなたのことが大好きで、イエス様のお役に立つ人になってほしいと望んでいますか？

**もくようび
木曜日**

も しも、種を石だらけの土地にばらまいたらどうなるでしょう？種はう

まく成長すると思いませんか？根っこは、土
の中にしっかりと根づくでしょうか？心が
石だらけの土地のような人たちについて、
イエス様は何とおっしゃいましたか？マル
コ 4:16,17。

時には、イエス様を初めて知ってうれし
くなり、イエス様についていきたいと思う
人たちがいます。彼らは、聖書が正しい
ことを知っています。ところが誘惑にあう
と、イエス様にしたがうどころか、いとも
かんたんにサタンの言うことに耳をかたむ
けてしまうのです。または、毎日イエス様
と話して、イエス様に助けていただくこと
をすっかり忘れてしまっているのかもしれ
ません。いい人でいようと努力しますが、
イエス様にたよろうとしないために、悪い
習慣を変えることはとてもむずかしいので
す。その悪い習慣が自分を幸せにしてく
れると思っているので、自分のやりたいこ
とを選びつづけるのです。自分がサタン
の誘惑に耳をかたむけて、その道を選ん
でいる人のおわりは、決して幸せではあり
ません。

石だらけの土地のような心に落ちた種
は、しっかりと根をはることができないので、
植物として良い成長をとげることができま
せん。ですからわたしたちは、イエス様
にその「石」をとりのぞいていただく必要
があります。そうすれば、聖書のよい思想
がわたしたちの心の中で育ち、イエス様
に似た者となることが出来ます。

いばらと雑草の間に落ちた種は、どうな
るのでしょうか？ 18,19 節。

子供には、大人がかかえているような

問題はありませんね？大人はよく、忙し
すぎてとてもつかれてしまったり、または
心配しすぎたりしてしまいます。子供には
また別の問題があります。退屈してしまう
のです。また、他の子供たちとの問題が
あったり、悪いくせを直さずそのままにし
ていたり、自分のやりたい放題のことをす
る子供もいます。他に、子供たちの心の
中で、神様の言葉が成長するのを邪魔す
る「とげ」を何か思いつきますか？

多くの子供たちがかかえる深刻な問題
のひとつは、子供たちがいつも、いつで
も「楽しいこと」をしたいと思っている
ことです。その「楽しいこと」がないと、
退屈してしまうのです。ビデオゲームやテ
レビは、この問題を解決する助けにはなっ
ていませんね。サタンは、子供たちがそ
ういった「楽しいこと」をすればするほど、
もっとしたくなることを知っているのです。

考えてみよう：子供たちの中であって、
良い種の成長を邪魔する「石」や「とげ」
について、もういちど読んでみましょう。あ
なたにも、そんな「石」や「とげ」があり
ますか？どうすれば、それらをとりのぞくこ
とができますか？

きんようび 金曜日

あなたの心の土地は、どんな状態
ですか？よい種であるイエス様
のみことばを聞いたなら、どうするでしょ
うか？熱心に聞こうとしますか？また、こ
れらのみことばについて思いめぐらします
か？もしそうなら、良い土地だと言えます。

それとも、みことばに注意をはらわないでいますか？いつも、別のことを考えていますか？他のことに目をやったり、他のことに熱中したりしていませんか？

お母さんがあなたに何かを話しているとき、まっすぐにお母さんを見ていながら、他のことを考えていたために、話をきちんと聞かなかったことはありますか？礼拝の間や教会にいるときでも、または聖書を読んでいる間にも、注意をはらわないことがあります。牧師の先生がお話している間、先生のほうを向いていながら、本当は全く話を聞いていないこともありますね。

心が良い土地のような状態になることについて、イエス様は何とおっしゃいましたか？マルコ 4:20。

わたしたちは、イエス様に似ることを学ぶことによって、よい実をみのらせるのです。地上におられたときのイエス様のように話し、行動し、考えることができるように、イエス様はわたしたちを助けて下さいます。そして、それを毎日経験する必要があります。

イエス様は他にも、種にまつわる大切なお話をなさいました。ひとつは、よい土地により種をまいた男の話です。しかし、夜に敵がやってきて、その土地に雑草の種をまいたのです。種が成長し始めると、何が起こったのかが一目でわか



りました。召使いは雑草をぬいてしまいましたか？男はそうしないようにと言いました。なぜなら、雑草といっしょに良い植物までぬいてしまふかもしれないからです。今夕の礼拝で、この興味深いお話を読みたいですね。このお話は、マ

タイ 13:24-30 に書かれています。今は最後の 30 節だけを読みましょう。

かんがえてみよう：イエス様の他にはだれも、わたしたちの心を知る人はいません。たとえ他の人が、わたしたちの目から見て正しくないと思うことをしていても、彼らが「雑草」だと決めつけてはいけません。イエス様だけが、そのことをご存じです。わたしたちは彼らを愛し、できるかぎりすべてのことにおいて、彼らを助けなくてはなりません。

まな もっと学ぼう！

★マタイ 13:1-30

★マルコ 4:1-20

★ルカ 4:31-41； 8:4-15；

★キリストの実物教訓第 2 章



ジョンとアンドレー、ホワイト夫人に会う その2

エイミー・シェラード編

とつぜん降ってきた雹から逃れる場所をさがすため、ロスさんが急いで、ある農家へと向かったとき、ホワイト夫人、ジョンとアンドレーは、他の人たちといっしょに馬車に乗っていました。

ロスさんが来るのを見た農場主は、馬車をひいた馬がまっすぐ駆け込めるように、大きな納屋の扉をあけてくれました。ジョンとアンドレーは、ホワイト夫人



Little Folk Visuals

を見つめていました。彼女は怖がるどころか、目を輝かせてほほえんでいます。雹が納屋の屋根にあたって大きな音を出しても、地面を雹がおおっても、彼女は少しもこわがりませんでした。

農場に住む人たちが出て来ていました。「どうぞ、家にお入り下さい。」彼らは熱心にすすめます。「ぜひ温かいものを飲み、食事もなさってください」と。

ホワイト夫人はにこにこしてふりかえり、「ありがたいですが、けっこうです」と断りました。「どうしても、このきれいな景色を見逃したくないんですよ。」それから彼女は、ジョンとアンドレーといっしょに馬車をおりました。彼らは急いで外に出て

いき、空から降って来たばかりの雹を手のひら一杯ひろい、走って納屋にもどりました。それから馬車にすわって、嵐の空が降らせてくれた氷のおもてなしを楽しんだのでした。

農場主は馬の装具を外して、馬を仕切られた部屋へつなぎ、穀物を与えてから、また装具をとりつけました。嵐はもうすぐおさまりそうで、ロスたちは、まだ修道院へ行く途中だったからです。

ジョンとアンドレーには、ホワイト夫人がこの古い建物を楽しんでいるのがわかりましたが、家へもどる時にとおった松の木の本の森は、さらに彼女を喜ばせました。色彩ゆたかなキラキラと輝く美しい山々を見て、ホワイト夫人は何度もなんども歓喜の声をあげました。しかしジョンとアンドレーは、雹を集めて食べたあの最高のひと時を、ホワイト夫人はきっと忘れないだろうと思いました。

ホワイト夫人が帰った後、ロスさんは、りっぱな教会を建てることにしました。完成したとき、神様に教会をおさげするため、ふたたびホワイト夫人を招待しまし

た。町の多くの人^{まち おお ひと}が出席^{しゅつせき}し、大い^{おお}に感銘^{かんめい}を受けたバプテスト教会^{きょうかい}の役員^{やくいん}たちは、次の日曜日^{つぎ にちようび}の午後^{ごご}に彼ら^{かれ}の教会^{きょうかい}で話をしてくるようホワイト夫人^{ふじん}にお願い^{ねが}しました。

バプテスト教会^{きょうかい}の牧師^{ぼくし}は、自分^{じぶん}の教会^{きょうかい}でホワイト夫人^{ふじん}に話^{はな}してほしくありませんでした。「彼女^{かのじよ}はきっと人々^{ひとびと}に、安息日^{あんそくにち}を清く守^{きよ}るよう^{まも}にと話^{はな}す^すんだらう。」彼は、不満^{ふまん}をこぼ^{こぼ}しました。「その集会^{しゅうかい}のことは発表^{はつぴょう}しないからな。」ところが、結局^{けっきょく} 300人^{にん}もの人が集^{あつ}まり、ホワイト夫人^{ふじん}は安息日^{あんそくにち}のことにはふれず、神様^{かみさま}がどれほどわたしたちの世界^{せかい}を愛^{あい}しておられるかということ^{こと}を話^{はな}しました。

「ホワイト夫人^{ふじん}は、素晴らしいクリスチャン^{こうえん}ですよ。」講演^{のち}の後に、バプテスト教会^{きょうかい}のメンバー^{ぼくし}は牧師^いに言^いいました。「先生^{せんせい}、彼女^{かのじよ}が講演^{こうえん}することを発表^{はつぴょう}するべきだったんじゃないですか。もっとたくさん^{ひと}の人が聞^ききに來^きたでしように。」

牧師^{ぼくし}は自分^{じぶん}がまちがっていたこと^{こと}に気づ^きき、2度^ど目にホワイト夫人^{ふじん}がトラメランを訪^{おとず}れたときに、そのこと^{こと}を謝^{あやま}りました。そして、節制^{せつせい}について^{おお}の大きな集会^{しゅうかい}で、ホワイト夫人^{ふじん}に話^{はな}をしてくれるようお願い^{ねが}しました。彼女^{かのじよ}はよろこんで引^ひき受^うけました。牧師^{ぼくし}が全員^{ぜんいん}にそのこと^{こと}を知ら^しせたので、大勢^{おおぜい}の人^{ひと}が集会^{しゅうかい}に出^{しゅつせき}席^{せき}できました。

ホワイト夫人^{ふじん}のおかげ^{おかげ}で、トラメランのあた^{あた}ら新しいセブンスデー・アドベンチスト教会^{きょうかい}を支持^{しじ}する人^{ひと}はますます多^{おほ}くなりました。その中^{なか}のふたりは、ジョンとアンドレーでいまかれらは、イエス様^{さま}の特別^{とくべつ}で大切^{たいせつ}

な使者^{ししや}が、まじめすぎる暗^{くら}い人^{ひと}でないことがわかりました。彼女^{かのじよ}は子供^{こども}が大好き^{だいす}きで、子供^{こども}たちとの楽^{たの}しい過^すごしかたも心得^{こころえ}ていましたから。

(おわり)

だい しょう 第7章

あわただしい夜よる



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「このかたは**どう**いう**ひと**なのだろう。
かぜも**うみ**も**したが**は。」マタイ 8:27

にちようび 日曜日

その日の忙しいことといたら！イエス様は、食事をするひまもほとんどないくらいです。朝早くからずっと、湖のそばで人々を教えて、彼らの病気をいやして、もう夕方になってしまいました。

イエス様は、神様の国についてわかりやすく理解させるために、次から次へといろいろなお話をなさり、人々は熱心に聞き入っていました。もちろんパリサイ人たちもそこにいて、イエス様の話に何かまちがいがいか、あらさがしをするために聞き入っていました。ですから、イエス様はもうすっかり疲れきっていました。彼は人間であられたので、わたした



ちと同じように休みが必要でした。

夕方になって、イエス様は、湖の向こう岸にひっそりとした場所があることを思い出し、そこへわたって、しばらくの間休もうと考えました。イエス様は弟子たちに、何と言われましたか？マルコ 4:35。

近くには、他にも漁をしていた舟がいくつかありました。イエス様の行動を見て、人々は次々と他の舟に乗れるだけ乗りこみ、イエス様の乗った舟についてきました。36節。

岸から離れるとすぐ、イエス様は舟の後ろのほうで横になり、すぐに眠ってしまいました。

しずかな夕暮れ時でした。弟子たちが向こう岸に向かって舟をこぎだしたとき、湖はおだやかでした。ところが間もなくして、とつぜん

すべてが変わってしまいました。黒い雲が、空にもくもくと広がってきました。ほんの数分の間に、風はひじょうに強くふきはじめ、大きな波が舟に打ちつけ、舟の中にも入ってくるほどでした。稲妻が光り、雷が鳴りわたり、風は吹き荒れています。もうすぐ太陽がしずんで、あたりは真っ暗になるでしょう。弟子たちはこれまでに多くの嵐を経験していましたが、ただちに、今までしてきたように、この状況ですべきことはすべて、やりつくしました。しかし彼らはすぐに、自分たちのしていることが、まるで役に立たないことをさとります。

37 節

考えてみよう：もしあなたがその夜、その舟に乗っていたとしたら、どんな気持ちだったと思いますか？

げつようび 月曜日

イエス様と弟子たちを乗せた舟に、水がどんどん入ってきます。大波が舟を大きくゆらし、舟におおいかぶさることもありました。弟子たちは、舟が沈んで全員がおぼれて死んでしまうのではないかと恐れていました。

弟子の何人かはたくましい漁師で、湖の上で育ったような人たちでした。彼らは数々の嵐を経験し、それに慣れていました。ところが、この嵐はこれまでに経験したどの嵐とも、まるでちがうのです。どれだけ手をつくしたとしても、この船を沈むのを止めることができないのがわかりました。助かる見込みはありません。皆、ここでおぼれ死ぬのは明らかでした。

しかし、忘れていたことがありました。嵐から助かろうと必死だったので、イエス様のことを忘れていたのです。彼らは急に、そのことを思い出しました。しかし暗くて、イエス様のお姿は見えませんでした。いったいどこにおられるのでしょうか？イエス様が湖の向こう岸へ行くようにと言われたとき、彼らはそのお言葉にしたがいました。ところが今は、湖の底に沈むことを怖がってばかりいます。このよくなるときこそ、イエス様が必要でした。「せんせーい！」と、声のかぎりをつくして叫びました。けれども返事はなく、ビュービュー吹きつける風の音と、はげしくうちつける波の音が聞こえるだけでした。

「先生！…せんせーい!!」もういちど叫びました。それでも返事はありません。イエス様はどこにおられるのでしょうか？弟子たちを置き去りにして、どこかへ行ってしまわれたのでしょうか？舟は沈みかけています。たのみの綱は、イエス様だけです。弟子たちは、死に物狂いで叫びつづけました。

またも、目をくらませるほどの稲妻がひらめき、その光によってイエス様が一瞬だけ見えました。なんと、舟の後ろのほうで眠っておられたのです。ルカ 8:23。

考えてみよう：風がほえたけり、波がはげしく打ちつけ、舟が今にもひっくり返されそうにゆれている中で、イエス様が眠ることができたのはなぜでしょう？

かようび 火曜日

あなたが舟の上で眠っているときに、もしだれかが「起きろ！沈没

するぞ!みんなおぼれてしまおう!と叫ぶ声で目をさましたとしたら、落ち着いていられますか?それとも、心臓をドキドキさせながら飛び起きるでしょうか?



今にも舟が沈みそうなきに、イエス様がすやすやと眠っておられたので、弟子たちはおそらくイエス様をゆすり、大声で叫んで起こしたことでしょう。するとようやくイエス様は、眠たそうな目をあけました。すぐに、何が起きているかがわかりました。けれども稲妻のひらめきの中で見えたイエス様のお顔は、恐れどころか、平安と信頼とあわれみの表情をうかべておられました。マルコ 4:38。

舟を沈めないために、弟子たちがふたたびオールをにぎったとき、イエス様が立ち上がりました。風はほえたけり、波ははげしく打ちつけています。舟は上下左右にゆれています。大嵐の中、弟子たちは、イエス様が手をあげてこう言われるのを聞きました。「しずまれ、だまれ!」

するとすぐに、風はやみ、波はしずまりかえりました。晴れた空に星がまたたいています。それからイエス様は、弟子たちのほうに向き直り、静かに語られました。

40 節。

さて、弟子たちが向こう岸へこぎだしたときに、ついてきた他の舟はどうなったのでしょうか?ほかの舟に乗っていた人たちも、イエス様と弟子たちの舟と同じく、危険な

目にあいました。風がこれらの舟を近くによせ集めたので、多くの人イエス様の奇跡を目の当たりにしました。イエス様が、そこにいたすべての人をおぼれさせずに救って下さったことを、彼らは知りました。しばらくの間、彼らは互いにこうささやき合っていたこと

でしょう。「風も海もしたがわせるこのお方は、いったい何者なのだろう?」と。41 節。

彼らは今、嵐の起こる前にめざしていた岸に向かって、しずかに舟をこいでいます。

考えてみよう: その夜、イエス様はご自分の命を救うために、神としての力をお使いになったのですか? いいえ。イエス様はつねに、自分を守って下さる父なる天の神様に信頼しておられました。弟子たちは、自分たちの力で舟と命を救おうと試みました。彼らは、イエス様が神様に信頼して安全に守られたのと同じように、イエス様に信頼すべきでした。イエス様はわたしたちにも、信頼することを学んでほしいと願っておられますか?

すいようび 水曜日

あの夜、湖で起きたはげしい嵐よりも恐ろしいことを、想像することが出来ますか?なんと次の朝には、嵐よりも恐ろしいことが実際に起きたのです。朝早くに、舟は安全に湖の向こう岸に

たどり着きました。彼らが着いたところは墓場のすぐそばでしたので、そこは人気がない静かな場所のはずでした。ところが、岸に上がった弟子たちが目にしたのは、あの嵐よりも恐ろしいものでした。墓の間から、野獣のような目をした男がふたり、叫びながらこっちに走って向かってくるではありませんか。獲物をつかまえて、八つ裂きにしような勢いです。マタイ 8:28。

ふたりの狂人は、もともと鎖でつながれていたみたいで、手足には鎖の一部がぶらさがっていて、とがった石で自分を傷つけ、裂けた傷口からは血が流れ出ていました。彼らの長い髪の毛は、今までにいちども洗ったり、といたりしたことがないかのように見えます。目をギラギラと光らせ、口からは泡をふいていました。

弟子たちは、すっかりふるえあがってしまいました。いっせいに回れ右をして、全力で舟へと走りました。そのとき、イエス様がおられないことに気づきました。いったい、どこへ行かれたのだろうか？ふりかえると、イエス様は静かにそこに立っておられました。狂人たちは、イエス様に向かって突進していきます。

弟子たちは、イエス様が嵐をしずめた時になさったのと同じように、手を上げるのを見ました。狂人たちはぞっとするような声で叫んでいましたが、とつぜん彼らの足が止まりました。



彼らを狂った行動へとかりたてていたのは、サタンの悪天使たちだということを、イエス様は知っておられました。そして、力強いよくとおる声で、悪魔に出て行くよう命じられたのでした。

かんがえてみよう: この時もまた、イエス様は何を証明なさいましたか？ああ、わたしたちの愛するイエス様は、なんとたのもしく力強い兄弟、また助け主でしょう！

もくようび 木曜日

イエス様は悪霊どもに、無力でかいわいそうなふたりの男から出て行くよう、お命じになりました。

安息日にイエス様が会堂で助けてあげた、あの気の狂った男のように、このふたりの男たちもイエス様を見て、この人なら自分たちを助けることができるかもしれないと思いました。ああ、彼らはどんなに助けを必要としていたことでしょう！しかし、男たちがそのことを口に出そうとすると、悪霊どもが代わりに話してしまいます。た

だし、悪霊どもでさえ、イエス様の権威〔他の者を従わせる威力〕を認めざるをえませんでした。ふたりの狂人の口から出て来た言葉は何でしたか？マタイ 8:29。

ふたりにとりついていた悪霊どもは、イエス様が自分たちよりも強いことを知っていました。いつの日か、自分たちが滅ぼされる

ことも知っていました。それでも彼らは、
できるかぎり邪魔をしたかったのです。
最後に彼らは、何を願いましたか？ 31
節。

イエス様は、何とお答えになりましたか？
そして、そのあと何が起こりましたか？
32 節。

あのすさまじい光景を想像してみてください。
さい。豚飼いたちは、飼っているすべての
豚が狂ったように坂を下り、湖めがけて
突進し、おぼれるのを見てショックを受け、
すっかり恐れをなしてしまいました。また
豚飼いたちは、あのふたりの男に起こった
ことも見ていました。彼らはもう、狂人では
ありません。まったく変えられたのです。

おそらくイエス様は、このふたりの男に、
湖で体を洗うようにすすめたことでしょう。
また弟子たちは、男たちが着るための服
をわけてあげたかもしれません。今は、
彼らはすわってイエス様の話を聞き、サタ
ンの手から自分たちを救って下さった神様
をほめたたえていました。

考えてみよう：サタンとイエス様との間
の戦いは、現実には起こっていますね？あの
ふたりの狂人は、自分から
サタンのほうを選んだので、
自分の力でサタンから逃れ
ることはできませんでした。
彼らを助けることができた
のは、イエス様だけでした。
同じように、わたしたちをサ
タンから救うことができるの
も、イエス様だけです。



きんようび 金曜日

豚飼いたちが、近くの町へかけこん
でその出来事を話すと、すぐに町
のみんなは、イエス様がおられた場所へ
と急ぎました。すると本当に、みんなが
恐れていたあの男たちが、すっかりおとな
しくなっているではありませんか。まさしく
奇跡です。イエス様が昨夜の嵐をしず
められたことを弟子たちから聞いた町の
人々は、それも奇跡であったことを知りま
した。

しかし、イエス様は悲しかったにちがい
ありません。というのは、町からやってき
た人々が、よるこんで神様を賛美するど
ろか、失った豚のことはばかりを考えている
ようすだったからです。彼らは、他にも何
かを失うのではないかと恐れていました。

マタイ 8:33,34。

豚の飼い主たちは異教徒で、イエス
様は彼らに愛の神様について教えたいと
願っておられました。しかし彼らは、神様
のことを聞くよりも、豚を売ってお金もう

けをするほうが好きでした。
イエス様は、どういう人生
の選びをしているのかを、
彼ら自身が知るための機会
をお与えになりました。し
かし結局、彼らはイエス様
に、町から出て行くように
たのんだのでした。

イエス様は決して、だれ
かに無理やりご自分を選ば

せるようなことはなさいませんか？人々から出ていくように言われたイエス様と弟子たちは、舟にもどりました。イエス様に悪霊から自由にしてもらった男たちは、彼に去ってもらいたくなかったので、いっしょについて行かせてほしいとお願いしました。

マルコもこの物語を記録していますが、彼は、いやされた男たちのうちのひとりについてだけしるしています。いっしょについて行かせてほしいとお願いしたとき、イエス様が何とお答えになったかを読みましょう。マルコ 5:18-20。

まもなく人々は、かつて気が狂っていたこのふたりがどんなに変わったかを目にすることでしょう。それによって、さらに多くの人たちが、イエス様をもっと知りたいと思うようになることでしょう。

考えてみよう：わたしたちの行いによって、他の人たちにイエス様を知りたいと思わせることができますか？すなおに喜んで言うことを聞き、親切で役に立つ、わがままをしない子どもになったら、どんな影響があると思いますか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 8:23-34

★マルコ 4:35-41； 5:1-20；

★ルカ 8:22-39；

★各時代の希望 第35章



つめ しろ ぎんこう かね
冷たくて白い銀行のお金

エイミー・シェラード編

あ 冬のことです。雪が地面をお
おい、風に運ばれて、家々のまわ
りに深い吹きだまりを作りました。ニュー
ヨークのある町で、ジェームスとエレン・
ホワイトは、聖書
が教える第七
日安息日とイエス
様のご再臨につ
いて知りたいと
願っている人た
ちと共に、集会
をひらいていま
した。



Little Folk Visuals

さて同じ町に、
日曜日に礼拝する教会へ行っている男の
人が住んでいました。この人も集会をひら
いており、牧師ではなく町の収入役でした
が、救いについて説教をするのが好きで
した。

「わたしたちが信じるべきなのは、ジェー
ムスとエレン・ホワイトの話か、それとも
町の収入役の話だろうか？」人々は迷って
いました。

ハイラム・パッチと彼の婚約者も、どち
らが正しいのか決めかねていました。とう
とうふたりは、ジェームスとエレンに会っ
て、彼らと話をすることにしました。若い
ふたりは、イエス様がすでに、集会をひ
らいているあの男の人についてエレンに

示されたことを知りませんでした。エレン
は、「あと1か月待てば、わたしたちのう
ちどちらを信頼できるか、おわかりになる
はずですよ」とだけ言いました。

ハイラムと
婚約者は、彼ら
に感謝し、「それ
では待ちます」と
言いました。

どちらが真理
を語っているの
かは、1か月も
たたないうちに、
すべての人の目

に明らかになりました。ハイラムがホワイ
ト夫妻と話してから2週間後、収入役の
説教者は病気になり、仕事に行けなくなっ
たため、別の人が彼の仕事をしなくては
なりません。人々が払った1000ド
ルものお金がなくなっていることに気づい
た町の職員たちが、どれだけおどろいた
か想像できますか？「収入役がお金を盗
んだにちがいない。」職員たちはそう判断
しました。

保安官が収入役の家をおとずれると、
収入役の男は、まるで自分は悪いこと
をしていないかのように振るまいました。
「1000ドルのことなど、わたしは何も知
りませんよ。」彼はそう言いはります。「わ

たしは盗んでなんかいません。わたしが
正直な男だということは、あなたもご存
じでしょう。わたしはクリスチャンですよ。
盗むなんて、考えたことすらありません。」

話している間に、もうひとりの職員
は、収入役の妻がかばんを抱えて外へ
出て行くのを見ました。そこで職員は、
こっそり彼女のあとをつけました。職員
は、彼女が家の裏にある雪の吹きだま
りにかばんを隠すのを見ました。それか
ら、彼女は家へもどりました。それをだ
れかに見られたことには気づいていま
せん。彼女が家へもどると、職員はさっき
の雪の吹きだまりへ行き、かばんを見つ
けました。中には、あのなくなっていた
1000ドルが入っていました。職員はそれ
を持って家に入り、保安官に見せました。
収入役もその妻も、言い訳できるわけが
ありません。当然のことですが、彼らは捕
まってしまいました。じょうずに良い人の
ふりをしていましたが、実際はうそをつい
て、盗みをしていたのです。聖書に書か
れているように、その罪が身におよんだの
です。(民数記 32:23)。

人々がこのことを知るのに、それほど
時間はかかりませんでした。ハイラム・パッ
チと、彼と結婚した女性もそのことを知り
ました。彼らは、ジェームスとエレンと共
に聖書を勉強して、忠実な教会員となりま
した。また、エレン・ホワイトが神様から
の特別な使者なのかどうかを迷うことも、
決してありませんでした。彼らは、イエス
様がエレンにお示しになる幻や夢をいつ
でも信頼できることを知ったのです。

わたしたちも、彼女の夢と幻を信頼する
ことができますよね。

だい しょう 第 8 章

さま なみ のうりよく イエス様の並はずれた能力



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「しっかりしなさい・・・あなたの信仰があなたを救ったのです。」

マタイ 9:22

にちようび 日曜日

あなたは、1日中、病気で寝こんだことがありますか？1週間も寝こんだことはないですか？

病気になったとき、病院へ行きましたか？薬を飲まされましたか？注射をしないといけませんでしたか？病気になりたい人なんて、いるはずないですよ。それに、お医者さんにかかるのも、薬をもらうのも、たくさんのお金がかかります。

今週の最初のお話は、12年もの間、ずっと病気だった女の人の話です。何人もの医者にもてもらいましたが、治りませんでした。いろいろな薬もためしてみましたが、どれもききませんでした。とうとう彼女は、医者たちから、よくなるの望みはないと告げられて



しまいました。

何人の医者にかかって、どれだけたくさん薬をためしたのかわかりませんが、12年の終わりには、彼女はすっかり貧乏になっていました。自分の財産をすべて、医者と薬につぎこんだにもかかわらず、病気はまったくよくなっていませんでした。もしかしたら、ふたたび元気になるという希望を、とうに捨ててしまっていたかもしれません。

ところがそんな時、女は、イエス様とそのすばらしい奇跡のことを耳にしました。

イエス様のところへ行きさえすれば、きっとよくなるにちがいない、という確信がわいてきました。病気で弱っていましたが、会いに行く努力だけでもしなくては、と思いました。イエス様が、湖の対岸で気の狂った男たちをいやして、もどってこられたその日、こちら側の岸では

すでに大勢の群衆が待っていました。あの病気の女も、どうにかそこへたどり着いていました。しかし、どうにかしてイエス様に近づこうとしても、近づくことができません。弱っていたので、どうしても群衆の間をかきわけて行くことができませんでした。集まってきた人たちは皆、イエス様の近くに行きたがっていました。マルコ 5:24。

考えてみよう: あなたがこの女だったとしたら、どうしたいと思ったでしょう? もしあなたが群衆のひとりで、女がイエス様のところへ行こうとするのを見たとしたら、どうしていたと思いますか?

げつようび 月曜日

この病気の女は、群衆がひしめき合っている中、どうやってイエス様に会えばよいのでしょうか? レビ・マタイはちょうどその日、イエス様のために宴会をもうけ、自分の取税人仲間を招待して、イエス様に会わせようとしていました。その時間になったので、イエス様はレビ・マタイの家へ向かって歩き始め、群衆はイエス様について行きました。その中には、あの病気の女もいました。

イエス様がレビ・マタイの家で、彼の友人たちと食事をし、話をしている間、大勢の人が外で待っていたはずで、病気の女も、そこで待っていました。彼女は、とても疲れていたことでしょう。それでも、ぜひイエス様に会わなくては、と思っていました。

外で待っていると、会堂司のヤイロという人が、この家に駆け込んできました。会堂司はとても偉い人なので、人々は道をあけて彼をとおしてあげました。

この会堂司がこれほど急いでいたのは、なぜでしょう? 彼は、イエス様がレビ・マタイの宴会にいることを聞きつけ、たずねて来たのでした。彼は、イエス様に何と言いましたか? ルカ 8:41,42。

12歳になる娘が、今にも死にそうでした! イエス様がいそいで来てくだされば娘は助かると、ヤイロは信じていました。イエス様はすぐに宴会の場をあとにして、娘の父親といっしょに出かけました。群衆もあとからついてきました。そして群衆の中には、あの病気の女もいました。

イエス様が、病気の女のすぐ近くをとおっていかれます。でも、病気をいやしてもらえるほどの距離までは、とても近づけそうにありません。ヤイロの家へと向かっている途中でしたが、イエス様はときどき立ち止まって、近くに来た人たちをいやしておられました。ヤイロはそわそわしてきました。イエス様がもっと急いでくれないだろうかと、心の中で願っていました。到着が遅れたら、手遅れになるかもしれないからです。早く家に着かないと、彼の幼い娘は死んでしまうことでしょう。

一方、病気の女はこう考えていました。「イエス様にさわることさえできたら、きっとよくなるはずだわ!」

考えてみよう: その日、ふたりの人がそれぞれの信仰をあらわしていました。ひとりの信仰は、もうひとりの信仰とはちがっ

ていたと思いますか?では、どのように
違っていましたか?

かようび 火曜日

とつぜん、イエス様は病気の女の
いるほうに歩いてこられます。よ
し!こっちに向かってこられる!かなり近
づいてこられ、もう少しでさわられるほどの
距離になりました。しか
し、とどきません。女
はすばやく身をかがめ
て、人々のすき間から
できるかぎり手をのぼ
しました。そして、手
がイエス様の着物のふ
ちにふれたのを感じま
した。すると、たちま
ちすごいことが起こ
ったのです。一瞬にして、
力と健康が体にみな
ぎってくるのを感じま
した。病気が治ったので
す!ハレルヤ!

女はもう、群衆にまぎれている必要はあ
りません。イエス様が彼女をいやして下
さいました。どれほど感謝の念にみたされ
たことでしょうか!女がしずかにそこを去ろう
としたその時、イエス様の声が聞こえてき
ました。イエス様は何とおっしゃいました
か?ルカ 8:45。

ふり返って見ると、イエス様はまっすぐ
女を見つめておられました。

イエス様がそのような質問をするなん



て、弟子たちは理解ができませんでした。
大勢の人が、彼にふれたはずですから。
しかし、イエス様は女を見つめつづけて
いました。ふたたびイエス様は、確かに
だれかが自分をさわったと言いはりまし
た。46節。

女は、イエス様が自分のことを言ってお
られるのがわかりました。ふるえながら、
彼女はイエス様のところへ進みでました。

みんなが見ているとこ
ろで、女はイエス様の
足元にひざまずいて、
感謝の意をあらわしま
した。47節。

大勢の人々の前で、
女がすすんでイエス様
に感謝をささげたこと
をイエス様は喜んでお
られることが、彼の優
しい愛情ぶかいまなざ
しでわかりました。イ
エス様は彼女に何と
おっしゃいましたか?
48節。

考えてみよう: 他の人たちの前で、愛情
ぶかいイエス様のことを語るのを、わたし
たちは恥ずかしいと思うのでしょうか?時々、
牧師の先生が「イエス様を愛し、信頼
し、彼に従うことを選ぶ人たちは、手をあ
げて下さい」とか「立って下さい」また
は「礼拝堂の前のほうに進み出て下さい」
と呼びかけることがありますね。わたした
ちがイエス様を愛していることを他の人た
ちに知らせるとき、イエス様は喜んで下さ

います。

すいようび 水曜日

でも、もう手遅れです！ヤイロは、そのことに気づいていました。ヤイロの家に向かっていているイエス様の動きが遅すぎました。イエス様が、着物にさわった病気の女に話しかけておられるときに、何が起こりましたか？ルカ 8:49。

ヤイロは、どんなにつらかったことでしょうか。彼がどんなにがっかりしたか、だれにもわかりませんでした。イエス様も使いの者からの知らせを聞きましたが、すぐに、悲しみと不安の中にいる父親に、希望の言葉を語られました。50節。

当時は、だれかが亡くなると、家族はお金をはらって「泣き屋」と呼ばれる人々をやり、大声で泣き、悲しみの歌をうたったり演奏したりしてもらっていました。そのようにして、だれかが亡くなったことをみんなに知らせたのでした。

ヤイロの家に到着すると、すでに「泣き屋」がきていました。イエス様が家の中へつれて行った弟子は、だれとだれとだれでしたか？51節。

イエス様は、このやとわれた「泣き屋」たちに、少女は死んでいないのだから泣いているふりをやめるように言われました。少女はただ眠っているのだ、と。52節。

ヤイロの家に集まってきていた、悲しんでいるはずの人々は、イエス様のことをおかしな人だと思いました。少女は死

んだのですから。たしかに彼らは、自分の目を見たのですから。イエス様はいたいどういふつもりで、少女は眠っていると言ったのでしょうか？彼らは泣くふりをやめて、イエス様のことをあざ笑いました。53節。

それからイエス様は、泣き屋たちに外へ出るように言われました。彼らはしぶしぶ外へ出ました。家の中にいるのは、イエス様と3人の弟子と少女の両親だけです。彼らは、少女がベッドに横たえられている部屋に入りました。少女は冷たくなっていて、もちろん動きません。弟子たちと両親は、イエス様がベッドに歩いて行くのを見ていました。イエス様は、何をなさるのでしょう？

考えてみよう：イエス様は、これまでに死んだ人を生き返らせたことがありましたか？それがだれだったか、思い出せますか？

もくようび 木曜日

イエス様は、亡くなった少女のベッドのそばに立っておられます。騒々しい、あのやとわれた泣き屋たちは、家の外に出されていました。少女の両親と弟子たちは、真剣にイエス様を見つめています。

身をかがめ、冷たくなった少女の手をやさしくとって、イエス様は何とおっしゃいましたか？ルカ 8:54。

なんと、少女の体がぴくっと動きました。それから、まるで楽しい夢から目覚めた

かのように、ほほ笑んだのです。目をあけて、やさしい愛情ぶかいイエス様のお顔を見上げています。それからあたりを見回して、ベッドの上ですわりました。

生き返ったのです!もう病気でもありません。両親は、まったく信じられませんでした。彼らは少女を抱きしめ、うれしさのあまり泣きました。大事な娘が帰ってきたのです。しかも、すっかり元気になって、うれしそうにしています。

少女はおそらく、病気のときには食欲がなかったはずですが、今は食べ物が必要でした。娘が生き返ったことがうれしくて、両親は食事のことなど考えもしませんでした。けれどもイエス様は、生き返って元気になった少女をご覧になって、彼女に食事が必要なものをご存知でした。少女がベッドからとびおると、すぐにイエス様は、両親に何をするように言われましたか? **55節**。

この幸せな家族と別れる前に、イエス様は両親に何とおっしゃいましたか? **56節**。

ご自分のおこなった奇跡について、人々に話すほうがよい時と、そうでない時があるのをイエス様はご存じでした。その前の日、あきの狂人たちにむかって、イエス様ご自身のことと、サタンにまさる彼の能力について人々に伝えさせるために、彼



らをサタンから解放したのだと、イエス様は言われました。また、長い間病気をわずらっていたあの女に、ご自身のなさったことを大勢の人々の前で話させました。しかし、いろいろな理由から、今は、この少女を生き返らせたことを話さないほうがよいことを知っておられました。わたしたちは、イエス様がいつも最善をご存じであることを固く信じていることができます。

考えてみよう: イエス様は、死んでいる状態のことを「眠っている」と言われます。あなたはどのように思いますか?

きんようび 金曜日

今日は「よく考える日」です。今週のお話に出て来たのは、どんな人たちでしたか? イエス様が助けることができたのは、どんな信仰を持った人たちでしたか? 病気の女がさわったイエス様の着物には、何か魔法の仕かけがありましたか? いいえ。もしそれが本当に魔法

の仕かけだったとしたら、たくさんの方がイエス様のまわりに群がっていましたから、もっと大勢の人がいやされていたことでしょう。

イエス様は病気の女に、何が彼女の病気をなおしたと言われましたか? **ルカ 8:48**。

少女の父親であるヤイロに、イエス様は何

と言われましたか？ 50 節。

ヤイロに「信じなさい」と言ったのは、イエス様が彼の娘をいやすことができるという信仰を持ちなさいということでした。

イエス様は神様の子である、と信じるだけで十分でしょうか？「信じること」は、イエス様を愛し、信頼し、イエス様の助けによって十戒にしたがう選びをするのと同じことですか？あなたはどのように思いますか？

残酷なサタンと彼の悪天使たちは、イエス様を神様の子であると信じていましたか？そうです。悪霊どもは、イエス様に命じられて気の狂った男たちから出て行くときに、そのことを大声で叫びました。しかし信じたからといって、悪霊どもは、イエス様を憎んで殺そうとするのをやめましたか？

わたしたちが本物の信仰をもつとき、イエス様といっしょに天国に入るために、自分にできることは何もないことを知っているはずですよ。本物の信仰は、イエス様を愛し、いつもどんなことがあっても、イエス様に完全にたよることです。そしてわたしたちが最善をつくすならば、イエス様が助けて下さり、わたしたちはますます彼に似る者となるのです。

まな
もっと学ぼう！

★マルコ 5:21-43

★ルカ 8:40-56

★ 各時代の希望 36 章



きせきの のうじょう 奇跡の農場 その1

エイミー・シェラード編

お となの男の人は、めったに泣くこと
とはありませんね。でも、もしあなたが
ある夏の日に、テネシー州のマディ
ソンの近くにある、むき出しで石だらけの
土地にいたならば、照りつける太陽の下
で岩の上にこしかけて泣いているふたりの
男の人を見たことでしょう。

「こんなこと、私たちには無理だ」と、鼻をかみながら、ひとりが言いました。

「ああ、わかっている」と、もうひとりも涙をぬぐいながら言いました。「ここは無理に決まっている。この岩だらけの土地を見れば、何も育たないのは明らかだ。」

「それに、この土地を買うためのお金を、どこからもってくればいいんだ？」最初の男が頭をふりながら言いました。

「たしかにそうだ。彼女が私たちに望んでいることを実行するためのお金はどこにもないし」と、もうひとりも言いました。「でも、これから私たちはどうすればいいのだ？この場所にイエス様は学校を建てておられると、彼女は言っている。ここは、他の学校が真似したくなるような農場になるんだとか。しかも、彼女のメッセージがイエス様から来たものだと信じる信仰をもっていれば、それは必ず実現す

るはずだと私たちも知っている。」

「また、したがわないことを選んだら、いつでもかならず問題が起きるんだ」と、もうひとりの友人は言いました。「だけど、いくらなんでもこの土地は！」

ふたりの名は、エドワード・サザーランドとパーシー・マギヤーン。ひとりはミシガンにある大学の学長で、もうひとりは同じ大学の学部長でした。彼らの会話に出てきた「彼女」とはホワイト夫人のことで、そこからあまり遠くない船の上で忍耐強く待



Little Folk Visuals

ち、祈りつづけていました。彼女は、イエス様が言われた彼らのなすべきことを、彼らが信じられないでいるのを知っていました。

ふたりの青年は、日の照りつける野原にすわり、しばらく考えこんでいました。とうとう、ひとりが切り出しました。「たしかにこれは不可能に思われるけれど、やっぱり、したがうべきだと思う。君はどう思う？」

「そうだな、わたしもそれが正しいと思うよ」と言って、もうひとりはいきましました。「じゃあ、いっしょに祈ろう。」ふたりは、からからに渴いた土と、岩だらけの地面にひざまずき、自分たちにもっと信仰を下

さるようとイエス様さま ねがにお願いしました。
それから立ち上がり、この土地とちの所有者しよゆうしゃ
である老人ろうじんとその妻つまの家いえへ向かいました。
老夫婦ろうふうふは、この土地とちを 12,000ドルで売
ると話はなしていましたが、エドワードとパー
シーは、彼らかれが値段ねだんを下げさてくれることを
願ねがっていました。

しばらく話はなし合あった後あとで、地主じぬしの男性だんせいは、
もし今日きょう 100ドル払はらってくれたら、10
日後かごに 5,000ドル払はらうだけでよい、と言い
たのでした。

ふたりは顔かおを見合みわせました。「100ド
ル？」自分じぶんたちの財布さいふを引ひっぱりだして、
全部ぜんぶでいくらお金かねがあるかを確認たしかめまし
た。なんと、合あわせてちょうど 100ドルで
した。

彼らかれは 100ドルを老夫婦ろうふうふに支し払い、ホ
ワイト夫人ふじんが待つ船ふねへもどりました。何が
あつたかを報告ほうこくすると、ホワイト夫人ふじんは
にっこりしました。彼らかれがイエス様さまに信しん頼らい
する決心けっしんをしたことを、彼女かのじよはどれほど喜よろこ
んだことでしょうか!ところで、たった 10日
の間あいだに、残りのこの 5,000ドルをどうやって手
に入いれたらよいのでしょうか?彼らかれは、もうお
金かねはありませんでした。残りのこの 5,000ドル
が支し払はらわれるためには、奇跡きせきが起おこるし
かありません。しかし、彼らかれがイエス様さまに
したがったので、ホワイト夫人ふじんは何なにも心配しんぱい
しませんでした。

エドワード・サザーランドにはお金持かねも
ちのおばさんがいたので、彼かれはおばさん
と話はなしてみることにしました。もしかした
ら、彼女かのじよが援助えんじよしてくれるかもしれませ
ん。彼女かのじよの名なは、ネリー・ドウルイラードとい

いました。もし彼女かのじよに断ことわられたら、ほかに
あてはありませんでした。

(つづく)

だい しょう 第9章

さいしょ でんどうりょこう 最初の伝道旅行



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「^{あた}与えよ。そうすれば、^{じぶん}自分にも^{あた}与えられるであろう。^{ひとびと}人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに^{りょう}量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。」ルカ 6:38

にちようび 日曜日

イエス様から特別にえらばれた弟子たちは、楽しみでしかたがなかったことでしょう。というのは、イエス様が彼らを伝道旅行に送り出そうとしていたからです。12人が、ふたりずつ組になって行くことになりました。マタイは彼らのことを「使徒」と呼んでいます。まずは、彼らの名前をあげられるだけあげてみましょう。それから、**マタイ 10:2-4** を読んでください。



これら12人の男たちは、長い間イエス様といっしょに過ごしてきました。彼らは、イエス様の教えに耳をかたむけ、彼らが質問をすればするほど、イエス様は多くのことを教えてくださいました。彼らは、他

の人たちが教えているまちがいと、神様がみことばのうちに語っておられる真実〔真理〕とのちがいを学んでいました。また、多くの奇跡を目にし、多くの人々と話し、わたしたちの教会にいる案内係のように、大勢の人がイエス様のお話を聞けるためのお手伝いをしました。また、特別な助けが必要な人々をイエス様のもとへつれて行くこともありました。

イエス様は、ご自分が天にもどられた後に、多くの弟子たちが、世界中の人々にイエス様と彼の国について伝えるようになるのをご存知でした。しかしこ

の特別な12弟子は、イエス様の教会の最初の指導者、教師となるのでした。そこで彼ら呼び集めて、イエス様が彼らに望んでおられることを話されました。この最初の伝道旅行で、彼らが行くべきでないところはどこでしたか？また、行くべき

ところはどこでしたか？ 5,6節。

ほかのユダヤ人と同じように、弟子たちは、異邦人やサマリア人と関わるべきではないと考えていました。イエス様はだれでもわけへだてなく愛しておられました。が、弟子たちは、ユダヤ人でない人たちと話す準備ができていないこともご存知でした。この旅行で彼らが行くのは、ユダヤ人のところと、イエス様がすでに行かれたことのある場所のみでした。さて弟子たちは、これらの人々に何を語るのでしょうか？

考えてみよう：イエス様のなされた奇跡
で、弟子たちが目の当たりにした奇跡をあげてみてください。

げつようび 月曜日

ああなたは、お母さんやお父さん以外の人と旅行に行ったことがありますか？もしかしたら、おじいさんやおばあさん、おじさんやおばさんといっしょに行ったことがあるかもしれませんね。その旅行が楽しみでしたか？少しこわかったですか？弟子たちも、イエス様から伝道旅行のことを告げられたときは、同じような気持ちだったかもしれません。

旅行に行くときには、何を持っていきますか？イエス様は弟子たちに、神様に信頼してほしいと願っておられました。そこで、余分なお金や服、また食糧を持って行くことについて、彼らに何とおっしゃいましたか？**マタイ 10:9,10。**

きっと、弟子たちにいちばん必要だっ

たのは、どんなときにも神様に信頼し、安心していただける信仰だったことでしょう。旅行中の服装や行動についてイエス様が彼らに教えたことと、旅行をするときのほかの教師の服装や態度には、かなりの違いがありました。

最初の伝道旅行中に覚えているべきさまざまなことを、イエス様は弟子たちに伝えました。そしてこれらのことは、後の数々の伝道旅行においても、覚えておく必要のあることでした。これらのことは、わたしたちが伝道の働きをするときにも、覚えておく必要があります。

出発前にイエス様から与えられた、もっともすばらしい、すてきなもののひとつが、「力」でした。**1,8節。**

弟子たちを信頼して、イエス様が彼らに奇跡をおこなう力を与えられたときのようすを、想像してみてください。奇跡を目の当たりにする人たちは、その力が弟子たちからではなく、つねにイエス様から来ていることを知るでしょう。なぜなら、これらの奇跡は、かならずイエス様のみ名によって行われるからです。

伝道旅行にはふたりずつで出かけることになっていたのも、弟子たちは心強かったことでしょう。互いに励まし合うことができるからです。また彼らは、毎日いっしょに祈ることができました。

考えてみよう：いよいよ伝道旅行に出発
した弟子たちは、どのような気持ちだったと思いますか？彼らは自分自身にたよっていましたか？それとも神様にたよっていたと思いますか？

かようび 火曜日

でし だんどうりょこう
弟 子たちが伝道旅行
で
に出かけ、イエス
さま
様はひとりになりましたが、
あいかわらず、まいにちせつきょう
をしたり、教えたりするの
いそが
に忙しくしておられました。

また、いつでも弟子たちのこ
とを覚えておられ、彼らのために祈ってお
られました。

もどってきた弟子たちは、旅行中のさま
ざまな出来事を、一刻も早くイエス様に
知らせたくてたまりませんでした。しかし、
いつものように、イエス様のまわりは人だ
かりで、なかなか近づくこともできません
でした。弟子たちは疲れていて、イエス
様といっしょに静かなところへ行って、し
ばらく休みたいと思っていました。イエス
さま
様もそうしたいと考えておられ、弟子たち
になんと言われましたか？マルコ 6:31,32。

ふね の じぶん
舟に乗りこんで自分たちだけになると、
でし はな はじ
弟子たちはすぐに話し始めたことでしょう。
しかし、岸辺にいた人たちは、こころよく
かれ おく だ おも おおぜい ひと
彼らを送り出したと思いませんか？大勢の人
たちが舟の行き先を見ていて、彼らのあ
とを追っていったのでしょうか？ええ、中
はふね お ひと
は舟で追いかける人たちもいました。ほ
かの人たちは岸に沿って歩き出し、さらに、
それを見た人たちが群衆に加わりました。
けっきょく、イエス様と弟子たちがべつ きし
に着く前に、すでに何千人もの大群衆が
そこで待っていたのでした。33節。



けれどもイエス様は、少
あいだだけでも静かに過
せる場所で舟からおりました。
かれ しず やま ほう
た。彼らは静かに山の方
へあがって行き、ほんのし
ばらくのあいだでしたが、
すばらしい語らいのひと時
をすごしたのでした。

でし
弟子たちはイエス様に、
りょこうちゆう お
旅行中に起こったいいことも
わる
悪いことも、あらいざらい報告しました。
しっぱいだん
失敗談もありましたが、こわがらずに何で
ほうこく おお ひと たす
も報告しました。多くの人を助けたことは、
かれ よろこ
彼らにとって喜びとなり、励みになってい
ました。その話を聞いて、イエス様も喜
ばれました。イエス様は弟子たちに、次
りょこう
の旅行でやるべきことを話されました。ほ
んのみじか あいだ
の短い間でしたが、でし
弟子たちの質問に
こた じよげん あた
答え、さまざまな助言を与えられたのでし
た。

かんが
考えてみよう：あなたはイエス様とお話
するのが好きですか？あなただったら、イ
エス様に何を話しますか？

すいようび 水曜日

イエス様と弟子たちは、さんぶく しず
かな場所で語り合い、休んでい
ました。でも、大勢の人たちがイエス様
を待っています。イエス様は、休んでお
られた場所を出発して、彼を待っている
ぐんしゅう む ある だ
群衆のほうに向かって歩き出しました。
とちゆう ひとびと やま み
途中、人々を山から見おろしたイエス様
は、どうお感じになったのでしょうか？イライ

うなさいましたか？ 群衆ののところへ行きた
くなくと思ひましたか？ マルコ 6:34。

それは過越しの祭りの時期でしたので、
イエス様のことを聞きつけた人たちも、エル
サレムへ行く途中の人たちも群衆につ
いてきていました。このようにふくれ上が
った大群衆が、イエス様に会ってお話を聞
くのを、首を長くして待っていました。イ
エス様は、彼らをあわれに思ひました。
パリサイ人や律法学者たちの話に飽き飽
きした彼らが、エルサレムに行つてまた同
じ話を聞くことになるのを知つておられた
からです。彼らは、神様の愛と神様の国
についての真理を聞く必要がありました。

そういうわけで、イエス様は一日中話
しつづけ、人々は一日中聞きつづけまし
た。そこには、およそ5,000人の男たち
がいました。その数には女と子供は含ま
れていませんので、少なくとも10,000人
がそこにいたはずで、昔のことですので、
マイクはありませんでしたが、みんなが静
かに話を聞いたので、だれもがイエス様
の声を聞くことができました。

人々は、何時間もイエス様の話を聞き
つづけました。イエス様の話はとても興味
ぶかかったので、食事のこと
など考えもしませんでした。し
かし、いつの間にか夕方近く
になってしまいました。一日
中そこにいたので、イエス様
は、みんなが空腹であることを
ご存じでした。また弟子た
ちも、そのことに気づいてい
ました。弟子たちはイエス様



に、暗くなる前に何をすべきだと言いま
したか？ 35,36節。

弟子たちの提案は、実にもっともなもの
に思われました。ところがイエス様は、何
とおっしゃいましたか？ また、弟子たちは
何と答えましたか？ 37節。

かんが 考へてみよう：たとえ十分なお金を弟子
たちがもつていたとしても、これほどたく
さんの食糧を買つて、運んで、これだけ
大勢の人々に分けることができたと思ひま
すか？

もくようび 木曜日

も し、あなたが弟子たちといっしょ
にいて、イエス様が10,000人
以上のおなかをすかせた人々に食べさせ
なさいと弟子たちに言われるのを聞いたと
したら、どう思つたでしょうか？

しかしイエス様は、まったく心配してお
られません。ただ弟子たちに、その場で
食べ物を探さすようにと言われました。た
とえお店があつたとしても、みんなの分の
食べ物はおいていないでしょう。それでも
弟子たちは、とにかくイエス様にしが

ました。まもなく、ペテロの
兄弟であるアンデレが、イエ
ス様のところへもどつてきまし
た。彼は何と言ひましたか？

ヨハネ 6:8,9。

この5つのパンと2匹の魚
をもつていた少年のことがもつ
とわかつていたら、このお話
はもっとおもしろくなるかもし

れませんね。おそらく少年の母親が、イエス様のお話を聞きに行きたいと言った彼のために、簡単なお弁当を用意してくれたのでしょう。

一日中、少年はイエス様の語られるすばらしいみことばを聞きました。そしておそらく、話を聞くのに夢中になり、食べることを忘れてしまったのでしょう。そして夕方になるころには、どれだけおなかがすいていたか想像できますか？食べ物をさがしてアンデレが近づいてきたとき、おそらく少年は、自分のお弁当をイエス様に使ってもらいたいと思ったでしょう。彼は喜んで、小さなお弁当をアンデレにてわたし、それをイエス様のところへもっていくアンデレについていったかもしれせん。アンデレとイエス様の会話を聞いて、これから何が起るのだろうとおもったことでしょう。10節。

考えてみよう：次に何が起るのか、あなたも気になりませんか？弟子たちは、イエス様が神であられることと、神様には不可能なことがないことを忘れてしまっていたのでしょうか？

きんようび 金曜日

じきに全員が、何人かのグループにわかれて、草の上にすわりました。でも、まだ食べ物はありません。あるのは、イエス様が手にもっておられる少年のお弁当だけです。天を見上げて、そのお



弁当を祝福なさるイエス様のようすを、みんなが見守っていたことでしょう。マルコ 6:39-41。

すると、びっくりするようなことが起こりました。自分のお弁当をよるこんでささげた少年は、イエス様がパンと魚をちぎって、弟子たちにすばやく手わたされるのを見て、とても興奮したことでしょう。弟子たちは、手わたされた食べ物をそれぞれのグループに配り、グループ内の人たちでそれを分け合いました。配る食べ物がなくなった弟子たちがもどってくると、イエス様は、さらに両手いっぱいの食べ物を手わたされるのでした。

この特別な夕食をいただいた人たちが、どれほどびっくりして、感動したか想像できますか？それは、とびきり上等な夕食ではなく、ふだん人々が家庭で食べているような質素な食事でした。みんなが食べただけ食べ、もうおなかをすかせている人はひとりもいませんでした。42節。

もちろんイエス様と弟子たちも、あの少年も食べました。全員のおなかがみたされると、イエス様は弟子たちに何をお命じになりましたか？ヨハネ 6:12。

食べ物は、その日その場にいなかった人たちにも分けてあげら



れるほど、ありあまっていました。 **マタイ 14:20,21。**

自分のお弁当をささげた、心のやさしい少年も、あまった分をいくらか家にもち帰ったと思いますか？そして、その日に起こったすばらしい出来事を、人々に伝えたいと思いますか？

考えてみよう：弟子たちは、奇跡の食べ物をおなかのすいた人たちにあげました。このようにイエスは、わたしたちがイエスの愛を人々に分け与えて、もうすぐ彼がおいでになることを伝えてほしいと望んでおられます。もしわたしたちが、心をイエス様におささげするなら、イエス様は、ほかの人々を助ける働きのために私たちを用いることができますか？今日、だれかと幸せを分かち合うことができますか？どうすれば、それができますか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 10章； 14:13-21

★マルコ 6:7-13, 30-44

★ヨハネ 6:1-14

★各時代の希望 37, 39章



きせきの のうじょう 奇跡の農場 その2

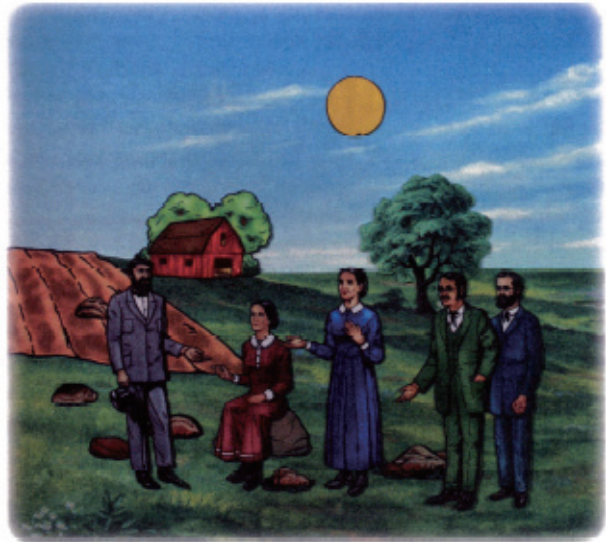
エイミー・シェラード編

エドワード・サザーランドとパーシー・マギヤーンは、10日のうちにどこで5,000ドルを手に入れることができるのでしょうか？エドワードは、お金持ちのお婆さんである、ネリー・ドウルイラードと話してみることにしました。

ネリーお婆さんは、甥の顔を見て頭を横にふりました。「いったい、あなたたちは何を考えているの？」と彼女はたずねました。「こんなばかばかしい計画に首をつっこむなんて、どうかしているわ。あなたたちはお金がない上に、その農場ときたら、どうにもならない土地だっていうじゃないの。」

エドワードはうなずきました。「ええ、わかっています、お婆様。実は、私たちもお婆様と同じように思ったんです。それで、このことにはもう関わらないでおこうと決めていたんです。でも、やはりイエス様が私たちにしてほしいとお望みになることをしようと決心したのです。それで、お婆様に助けていただけたらと思ってきました。」

エドワードのお婆さんは、その農場について彼から聞いたことを思いめぐらしていました。それから、こう返答しました。「いいえ。それがうまくいくなんで、とても信じられないわ。わたしのお金をそれにつき込むつもりはありませんよ。」



Little Folk Visuals

当然、エドワードはがっかりしてしまいました。「そうですか、それなら」彼はこうつづけました。「他のところをいくつかあたってみます。パーシーと私は、これからもイエス様にしがうつもりです。」エドワードが帰ろうとしたとき、ネリーお婆さんが彼を呼びとめて、「じゃあ、こうしましょう」と言いました。「わたしがその農場へ行って、この目で確かめてきましょう。」そして、彼女はそうのようにしました。

エドワード・サザーランドと彼のお婆さんがその農場に着くと、パーシーとホワイト夫人、ほかにも教会役員が何人か来ていました。「もうだめだよ」と、パーシーはエドワードに言いました。「地主の奥さんが、あと1,000ドルほしいって言うんだ。」

これを聞いて、エドワードのお婆さんは

ほっとしました。「この土地を買わずにす
んでよかったわ!」彼女は大きな声で言
いました。

ホワイト夫人の目がひかりました。「よ
かったですって? 1,000ドルのために、サ
タンに神様のご計画を台無しにさせはし
ませんよ。ネリーさん、お金を支払って下
さい。ここは、主からぜひとも買うように
言われている土地なのです。」

ネリーがお金をわたすと、ホワイト夫人
は彼女に、ある約束をしました。「ネリー
さん、あなたはもう年老いて、この先長く
生きられないので、そろそろ働くのをやめ
ようとなさっていますね。それに健康状態
も良いわけではありませんから。でも、も
しあなたがエドワードとパーシーの面倒
を見て、イエス様が彼らになしとげてほし
いことを援助して下さるなら、神様はあな
たに健康と力をお与えになって、これまで
以上のことをさせて下さいますよ。」

何というすばらしい約束でしょう。ネリー
はそれを信じることに決めました。

神様はご自分の約束をはたされたで
しょうか? もちろんです。この農場の土地
は、良い作物を実らせたでしょうか? ええ、
もちろんですとも。学校が建てられ、マ
ディソン大学と名づけられました。また、
療養所も建てられました。エドワードと
パーシーは、療養所を手伝うために、ふ
たりとも医者になりました。また大学では、
病人のお世話をする看護師を養成しまし
た。今や「マザー D」と呼ばれるようになっ
たネリーは、できるかぎりの援助をしたの
でした。彼女は長生きしたと思いますか?

もちろんですとも。彼女は、90歳代まで
長生きしました。

イエス様がホワイト夫人に示されたメッ
セージに信頼し、それにしたがったエド
ワードとパーシーの生涯は、十分に報わ
れたでしょうか? イエス様が、私たちのた
めに彼女に示されたメッセージに信頼し、
したがうことは、わたしたちにとっても
価値のあることでしょうか?

(おわり)

だい しょう 第 10 章

みず うえ ある 水の上を歩くペテロ



あんしょうせいく 暗唱聖句

「しっかりするのだ。わたしである。
おそ
恐れることはない。」 マタイ 14:27

にちようび 日曜日

その日は、すばらしい日でした。
大勢の、何千人もの人々がイエス様のお話を聞きました。彼は、少年のお弁当であった、わずか5つの大麦パンと2匹の魚を、あれだけの人々みんなに食べさせるといふ奇跡を行われました。そして人々は、イエス様こそが待ち望んで

いたメシヤであることを確信したのです。彼らは、「イエス様こそ自分たちの王となるべきお方ただ。何とかしてあの方を王様にしたい!」と考えました。

考えてみて下さい!
もしイエス様が彼らの王様だったとしたら、人々が必要とするだけの食べ物だって作りだ



すことができるのです。彼が王様になったら、貧しい人や病気の人はいなくなるでしょう。ユダヤ人である彼らを、ローマ人の支配から解放できますし、傷ついた兵士たちをいやすこともできるでしょう。イエス様は何でもおできになるのです。そして近い将来、全世界は彼らにつきしたがうことでしょう。

同じことを望んでいた弟子たちの心がおどったのも、むりはありません。すべての

ことがとつぜん、彼らがいともそうなってほし
いと思っていたとおりに
動き出したからです。メ
シヤについてこれまで
教えられてきたことによ
れば、まもなくイエス
様は、ご自分の王国を
設立なさるだろう、と考
えました。

もしかすると弟子たち
のほうから、イエス様

を王様にしようと人々にけしかけていたか
もしれません。なぜなら、イエス様があま
りにも謙遜で、自分から王様になるような
お方ではなかったからです。そこでじきに、
どうやってイエス様を王様にしようかとい
う計画を立て始めたのでした。

イエス様は、そのことを知っておられ
ましたか?もちろんです。そして、彼らの
計画をすぐにやめさせなくては、と思われ
ました。

かんが
考えてみよう: サタンは、神様がわたし
たちを救う計画をだめにしようとしていま
したか? どうすればイエス様は、人々の軽
はずみな計画をやめさせることができるで
しょうか? イエス様はひとり人間にすぎ
ず、彼を王様にしたいと思っている人々は
何千人もいます。

げつようび 月曜日

イエス様は、人々が彼を王様にしよ
うという計画を止めなくてはなら
ないのを知っておられました。そこで、す
ぐに弟子たちを集めました。ここでのイエ
ス様のお話は、弟子たちにとって喜ばしい
ものではありませんでした。彼らは、イエ
ス様がすべてを台無しにしようとしてい
ると思いました。ああ、弟子たちはどんなに
か、イエス様を王様にしたいと願ったこと
でしょう! それなのにイエス様は、ただち
にその計画をやめるようにとお命じになり
ました。

それでも最初は、イエス様の言いつけ
に反対しました。弟子たちは、イエス様

をひとりそこに残していくことはできない
と言いはりました。彼らは、自分たちが
イエス様といっしょに残れるように、必死
でイエス様を説得しようとしていました。けれ
ども、イエス様の表情と声の調子から、
決心の固いことがわかりました。こうなっ
たら、したがうしかありません。イエス様
はやさしく、しかしきびしい表情で彼らを見
つめながら、何とおっしゃいましたか?
マタイ 14:22。

これ以上さからうこともできずに、弟子
たちは舟へと引き返しました。しばらくは
岸部にとどまって、イエス様が来られるの
を期待しましたが、あたりは暗くなり始め、
イエス様が自分たちのところに来るつもり
はないことがわかりました。ひどくがっかり
した弟子たちは、ようやく舟に乗りこみ、
カペナウムに向かって出発しました。**ヨハ
ネ 6:16.17。**

ふたたび群衆に顔を向けられたイエス
様でしたが、こんどはあまり話すことはあ
りませんでした。この時も、彼の言葉の
調子と表情が、ただちに人々の計画をや
めさせたのでした。それぞれの家に帰る
ようお命じになったイエス様の声やまなざ
しや態度には、抵抗できない力が感じら
れたので、だれもがしたがうしかありませ
んでした。

かんが
考えてみよう: 弟子たちが求めていた
王国とは、どのようなものでしたか? すべ
ての人に必要だったのは、どのような王国
でしたか? わたしたちに必要なのは、どち
らでしょう? サタンが憎んでいるのは、どち
らの王国ですか? あなたは、どちらを選び

ますか？

かようび 火曜日

大勢の人たちに食べさせた後、イエス様のいない船に乗りこんだ弟子たちは、喜んでいましたか、それとも悲しんでいましたか？なぜでしょう？彼らは、何をしたかったのでしょうか？

一日中イエス様と過ごし、とくべつな夕食にまでありついた人々は、あの草原を去っていくとき、どんな気持ちだったでしょうか？うれしかったと思いますか？それとも悲しかったと思いますか？その理由がわかりますか？

弟子たちを舟で去らせ、人々を帰したあと、イエス様はどこへ行かれましたか？**マタイ 14:23**。

イエス様は、ご自分がこの世界にそれほど長くはないことをご存知でした。愛する弟子たちでさえ、神様の国について本当には理解していないこともご存知でした。彼らは今でも、ローマ人の支配から解放されて、ユダヤ人の王国をうちたてることを望んでいます。その王国で高い地位について、人々からあがめられることを願っていました。

本当の敵はローマ人ではなく、サタンであることを弟子たちが理解していなければ、神様が



人類を救う計画について、どうやって人々に教えることができるでしょうか？邪悪なサタンが、このすばらしい計画をだめにするために、あらゆる手をつくしていることを、弟子たちはまだ理解していません。サタンは、イエス様さえも滅ぼそうとしているのです。

イエス様が神様の子で、わたしたちを救うためにこの世界に来られた神様の小羊であられることを、サタンは人々に理解させないように、できるかぎりのことをしていました。イエス様が彼らのために死なれたならば、その時はじめて、人々は彼の王国を選ぶことができ、永遠の命をいただけるのです。

その夜イエス様は、ひとりきりで愛する弟子たちのために祈られました。イエス様が本当は何者であるかを彼らに理解させないようにと、サタンが必死に働いているのを知っておられました。サタンは、弟子たちがイエス様の有用な〔役に立つ〕働き人にならないように、できるだけじゃま

をしたかったのです。

**かんが
考えてみよう:** あなたは、イエス様の有用な働き人になることを選んでいますか？

すいようび 水曜日

サタンは、わたしたちを救う神様のご計画をうちこわし、イエス様ご自身

を滅ぼそうと、力をつくしていました。彼は、弟子たちも滅ぼそうと考えていましたか？もちろんです。イエス様もそのことをご存知でした。しかも、ちょうどそのころ、弟子たちは大いに悩んでいました。

言いつけどおりしつぶし舟に乗り、カペナウムへ向かった弟子たちの心は、おもしろくない気持ちでいっぱいでした。「わたしたちの先生は、王様になるおつもりはないのだろうか？」あの日は、王様の地位をねらう絶好の機会だったはずでした。ところがイエス様は、その機会をみすみす逃すような行動をとられたのです。弟子たちは、あのとき思い切ってイエス様に逆らい、彼を王座につかせようとする人々に協力すべきだったのではないかとさえ考えました。

彼らの頭には、イエス様にたいする疑問が次々とうかんできました。「先生はなぜ、バプテスマのヨハネを救い出さずに、みすみす死なせてしまったのだろうか？あの時はどうして…？あの時はなぜ…？」そして、「結局のところ、彼は本当にメシヤなのだろうか？」といった疑問までうかんできたのです。

想像してみてください。神様だけがおできになる数々のすばらしい奇跡を目の当たりにしたのに、また伝道旅行の間、弟子たちが奇跡を行えるようにイエス様が力をお与えになったのに、またイエス様の話を聞いて、それがすべて真理であることを知ったはずなのに、彼らはサタンに耳をかたむけ、サタンが吹きこむひどくまちがった思いで、自分たちの心をいっ

ぱいにしていたのです。

弟子たちの頭の中は、これらのまちがった思いでいっぱいになっていたために、嵐になりかけていたことに気がつきませんでした。とつぜん、風がビュービュー吹き始めました。ものすごい波が、どんどん舟に打ちつけます。

考えてみよう：弟子たちは、前に恐ろしい嵐にあったことがありましたか？その時いっしょにおられたのは、どなたでしたか？今、そのお方はどこにおられるのでしょうか？彼らは、そのお方がいっしょにいてくれたらと願っていましたか？

もくようび 木曜日

とつぜん始まった嵐に、弟子たちは何の心がまえもできていませんでした。嵐がますますひどくなり、先ほどまでいただいていた不平不満のことをすっかり忘れ、舟が沈まないように力をつくしました。しかし助かる見込みがないことは、すぐにわかりました。

弟子たちは、不平を言うのをやめて祈ったでしょうか？イエス様なしでは、自分たちが無力であることを悟ったでしょうか？きっと、自分たちの無力さを身にしみて感じ、けん命に祈ったことでしょう。ああ、彼らはどんなにイエス様を必要としたことでしょう！

イエス様は、弟子たちがどこにいるかを忘れてしまったのでしょうか？まさか、そんなはずはありません。実は、一部始終を見ておられました。舟がちがう方向へと

すす おおなみ う
進むのも、大波に打ちつ
けられて船の上が水びた
しになるのも、弟子たち
がこんども自分たちの力
をふりしぼって、助かるう
と必死になっているのも
見ておられました。そし
て、彼らがおぼれて死な
ないように、いつ助ける
べきかも知っておられま
した。マタイ 14:24。



きんようび
金曜日

こわ 怖 くなった弟子た
ちは、恐怖の
あまり叫んでいました。
なぜでしょう？彼らはど
こにいましたか？何が
起きていましたか？
彼らは、嵐の中で沈
みそうになっていただ
けでなく、幽霊まであ

らわれたとおっていました。幽霊とい
うのは、サタンに仕える悪天使のしわざ
です。彼らは、「もうだめだ！死んでしま
う！」とおもいました。ところが、どうなりましたか？

マタイ 14:27。

弟子たちは、どんなにほっとしたこと
でしょう！ペテロは、言葉を口から出すこと
と行動することが、だれよりもはやい人
でした。彼はイエス様に、何と呼びかけま
したか？イエス様はペテロに、何とお答えに
なりましたか？ 28,29 節。

ペテロはすぐに、舟のふちのほうへ寄
って行きました。たしかに、イエス様を見
ながらそこに向かって行くと、水の上を歩
くことができました。

その時ペテロは、自分は今、だれに
も自慢できることをしているとおも
っていました。ほかの弟子たちは、どう思っ
ているだろう？ペテロはちらりと、彼らのほう
を見ました。ところが、ふたたび前のほう
を向いたら、イエス様が見えません。高
い波が彼らの間をさえぎり、ペテロは沈

イエス様が神様として
の力を使うのは、他の人々を助ける時
だけでしたね。何時間か前、その力を
何千人もの人々に食べさせるために使わ
れました。こんどは、嵐でおぼれそうに
なっている弟子たちを助けるために、そ
の力を使おうとおられました。イエス
様は、どんなおどろくべきことをなさいま
したか？ 25 節。

もしあなたが、ひどい嵐の中で舟に乗っ
ていておぼれそうな時に、明るく光る幽霊
のような何かが、水の上を歩いて向かっ
てきたらどう思うでしょう？ 26 節。

かんが 考えてみよう：あなたは今までに、自分
がしたいとおもっていることを両親にとめら
れて、機嫌が悪くなったりしたことはありませんか？
そのために、お父さんとお母さん
のことが嫌いになったことはありませんか？
しかし、あなたがこらんでけがをしたとき、
だれにそばにいてほしいとおもいましたか？
その人たちは、あなたを助けてくれました
か？



られたように、イエス様は、わたしたちのことも気にかけて下さいますか？

もっと学ぼう！

★マタイ 14:22-33

★マルコ 6:45-52

かくじだい きぼう しょう
★各時代の希望 40章

みはじめました。彼はそれでも、誇らしい気持ちだったと思いますか？まさか、そんなことはありませんね。彼は今、おぼれかけていました。自分を救えるのは、イエス様だけだとわかりました。30節。

つぎの瞬間、イエス様はペテロのすぐそばに来て、彼の腕をつかんでおられました。31節。

イエス様に助けられたペテロは、誇らしい気持ちでしたか？いいえ。舟にもどっていくとき、彼はずっとだまっていました。自分は水の上を歩いたと自慢することは、二度とないでしょう。舟に引き上げられるまで、ペテロはイエス様の手を離しませんでした。それから、どうになりましたか？弟子たちは、どう思いましたか？32,33節。

考えてみよう：嵐を起こされたイエス様は、このときも弟子たちを愛しておられましたか？なぜイエス様は、嵐を起こされたのですか？この経験によって、弟子たちがもっとイエス様を信じて、たよるようになることを、イエス様はご存知でしたか？1分でも、弟子たちを見放すことはありませんか？いつも弟子たちのことを気にかけてお



ステイブンと手紙

エイミー・シェラード編

ステイブン・スミスと彼の妻、そして子供たちは皆、第7日目を安息日として守っていました。ふたたびイエス様がもどってこられ、自分たちを天国へつれていって下さると信じていました。ステイブンは、いろいろなところを旅しては、聖書の教えを人々に伝えていました。

ところがしばらくたったころ、イエス様が聖書の教えとはちがう方法で来られるとある人たちが話すのを耳にしたステイブンは、その話を信じるようになりました。そしてそのうち、真理ではないことを教えるようになったのです。さらに、イエス様がエレン・ホワイトに与える幻を信じる必要はないと言いはじめました。とうとうアドベンチストの信者たちは、これ以上ステイブンを教会員として認めることはできないと、彼に告げなくてはなりませんでした。

ステイブンを愛しておられたイエス様は、ホワイト夫人に幻を与えて、もし彼がまちがった教えや考えを持ちつづけるならば、彼の身に何が起るかをお示しになりました。ホワイト夫人は、イエス様から示されたことを注意ぶかく書きとめ、手紙

にしてステイブンに送りました。

ステイブンは手紙を受けると、送り主を確かめました。そこには、「ミシガン州バトルクリークのホワイト」と書かれていました。それを見たとき、ステイブンは怒りがこみあげてきました。「きっとこの手紙には、わたしがまちがっていると書

かれているに決まっている。読むのもお断りだ」とつぶやきながら、それを乱暴にポケットにつっこみました。家にもどると、旅行用トランクのふたをもち上

げ、手紙をトランクの奥にしまいこみました。ふたを閉めながら、ふたたびつぶやきました。「これでよしと。見えないところにおいたぞ。手紙のことは、考えたくもないからな。」それからステイブンは、手紙のことを考えることもなく過ごしました。それどころか、まちがったことを信じつづけ、ますます真理と闘うようになりました。

ステイブンが、イエス様のためのすばらしい働き人になれたことを思うと、ホワイト夫人は悲しくなりました。意地をはりさえしなければ、彼は幸福でいられたのに!このままでは、不幸になることは目に



Little Folk Visuals

み
見えていました。

あれから27年の月日が過ぎ、スティーブンも年をとりました。髪の毛は白くなり、背中は曲がっています。彼は不幸でした。それだけではなく、妻と子供たちも不幸にしまったのです。

ある日のこと、スティーブンは、客間のテーブルにおいてあった教会の読み物を手にとりました。記事のひとつはホワイト夫人が書いたもので、それを読むことにしました。その読み物を下におきながら、「これが真理だ」とつぶやいたのです。それからというもの、彼は、次々と教会の本や記事を読みあさりました。

そんなある日、あの手紙のことを思い出しました。手紙はまだ、27年前にしまいいこんだところにあるでしょうか？スティーブンは、カギを見つけました。ふるえる手で旅行用トランクにさして回すと、カチッと音がしました。手紙はまだ、そこにありました。

手紙を読むと、涙がほおを流れ落ちました。すべて、手紙の中でホワイト夫人が警告したとおりになっていたのです。「ああ、わたしが警告に耳をかたむけてさえいれば！高慢になって意地をはらなければよかった！」スティーブンは悲しそうにつぶやきました。

スティーブンは心から自分が悪かったと思っただので、イエス様は彼をおゆるしになりました。それでも彼は、自分がどれだけイエス様を傷つけたかを決して忘れませんでした。彼は、イエス様の有用な〔役に立つ〕働き人として、これまでの年月を

こうふく
幸福にすごせたはずでした。

わたしたちにも、ホワイト夫人の書き物とおして、イエス様からのメッセージがあるはずですよ。しかししばしば、これらの本はただ家の本棚におかれているだけで、読まれることはありません。それは、なんと悲しいことでしょう！

だいしょう 第11章



子供のための日々の
聖書研究ガイド

ひとたい あい すべての人に対するイエスの愛

あんしょうせいく 暗唱聖句

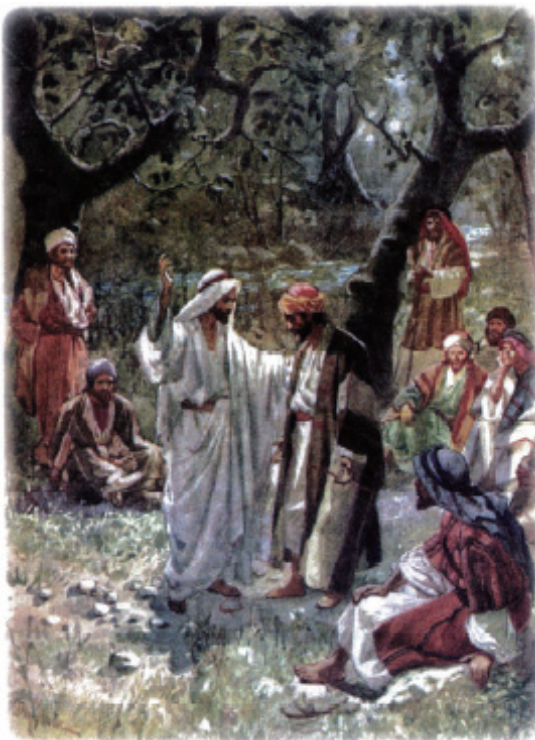
おんな しんこう み
「女よ、あなたの信仰は見あげたものである。
ねが
あなたの願いどおりになるように。」

マタイ 15:28

にちようび 日曜日

イエス様も弟子たちも、疲れていま
した。その前日、伝道旅行からも
どった彼らは、語り合い、休息するために
静かな場所へ行きました。しかし、何千人
もの人々がイエス様を待っていたので、そ
こには長くとどまるこ
とができませんでした。
そのため、イエス様
は休息場所を去って、
人々の所へ行かれたの
でした。

まる一日、説教とい
やしについやした後
で、ひとりの少年のお
弁当だけで何千人もの
人に食べさせるとい
う、おどろくべき奇跡を行
われました。またその
日の夜には、湖で弟子



たちの船が嵐にまきこまれ、イエス様は水
の上を歩いて、彼らを助けに行かれました。

その日イエス様の話を聞いた人たちの
多くは、過越しの祭りのためにエルサレム
へと向かう途中でした。しかしイエス様は、
こんどの過越しの祭りには行かないつもり
でした。そこにはスパイたちがいて、見張
られることが分かっていたからです。教会

の指導者たちは、なん
らかの騒ぎを引き起こ
してイエス様に罪を着
せ、死刑にしたいと望
んでいました。けれど
も、イエス様の働きは
まだ終わっていません
でした。彼が死ぬべき
ときは、まだ来ていませ
んでした。

教会の指導者たち
は、イエス様が律法
に違反していることを
立証できる機会をし

つようにうかがっていました。ですからイエス様は、だれもが真理であるを知っていることについても、しんちょうに答えなくてははいけませんでした。とうぜん、そのようなイエス様の態度は、彼らをさらに怒らせるだけでした。ひとつの例が、**マタイ 15:1-6**にあります。



教会の指導者たちは、十戒のひとつが「父と母を敬え」であることを知っていました。しかし彼らは、とてもいやしい、自分勝手な規則を作りあげたのでした。それは、だれでも「自分が死んだら財産は神殿にささげます」と約束したら、生きている間はそれを自由に使うことができる、というものでした。けれども、両親がお金を必要としていても、すべて神殿にささげると約束してしまったので、それを両親にあげることはできませんでした。だれが見ても、この規則は神様の律法のひとつをやぶっていました。そしてイエス様も、そのように言われたのでした。イエス様はいつでも、ご自分が神様の律法に違反していないことを証明することができました。

かんがえてみよう：神様の律法の中で、多くの人々がしたがっていない戒めはありますか？

げつようび 月曜日

まだイエス様と弟子たちは、ゆっくり話をし、休息する時間をもてな

いでいました。

そこでイエス様は、美しい丘のある場所へ行くことにしました。おそらくそこでは、しばらく静かに過ごすことができるはずでした。丘の頂上からは、海の向こうまでの景色がすべて見わたせます。いくらか離れたところの海岸には、ツロとシドンの町々が見えます。そして丘と海の間には、多くの異教徒が住んでいました。

イエス様が井戸のそばで女に話しかけられたことがきっかけで、サマリヤの多くの人たちは、ユダヤ人と同じ場所で礼拝することはできませんでした。神様を信じていました。ところが、イエス様が弟子たちをつれて行った場所の近くには、神様をまったく信じていない異教の人々が住んでいました。

イエス様と弟子たちは、しばしの休みを求めています。しかしどこへ行っても、人々はイエス様のすばらしいみことばや奇跡について聞いていました。**マルコ 7:24。**

たしかに休息が必要でしたが、イエス様はその地方へ行かれたのには、別の理由もありました。そこには、彼の助けを必要としている女がいることをご存知でした。彼女は異教徒でしたが、イエス様が近くに来ておられることを聞きつけ、急いでたずねてきたのでした。**25 節。**

異教徒たちは、同じ地方に住んでいる

ユダヤ人からも嫌われていましたが、少なくともこの女は、ユダヤ人であるイエス様が、彼女の娘をいやすことがおできになると信じていました。マタイ 15:22。

弟子たちもユダヤ人であったために、神様はユダヤ人と同じように異邦人も愛しておられるということを、まだ理解できていませんでした。そのような弟子たちは、異教の女に対する自分たちの感情をまもなくあらわすこととなります。最初、女の呼びかけにイエス様が応じられなかったのを見て、弟子たちは、イエス様の異邦人に対する気持ちも、自分たちと同じにちがいないと思ったのでした。23節。

考えてみよう: これまでに、イエス様がだれかを断ったことがありましたか? ところが最初、この女に対しては、答えようともなさいませんでした。なぜですか?

かようび 火曜日

弟子たちは気づいていませんでしたが、イエス様は彼らに、ある教訓を教えようとおられました。イエス様は、ご自身の異教徒に対する考えと、弟子たちの異教徒に対する考えとのちがいを示しておられました。彼は最初、異教の女が娘をいやしてくれるよう弟子たちに頼んでいたら、彼らがとったであろう態度で接したのでした。

かわいそうな母親が助けを求め始めると、イエス様はまるで聞こえないかのようにふるまったので、彼は自分たちと同じように、異教徒と話すのもいやにちがいは

ないと、弟子たちは思いました。マタイ 15:23。

ところがイエス様は、彼女を追いはらいませんでした。彼は、だれに対してもわけへだてなく奇跡をおこなわれることを彼女が聞いていたことを、知っておられたのです。彼女がどれほど助けを望んでいるか、またイエス様なら自分の娘をいやすことができると信じていることも、知っておられました。それでも彼は、しばらくのあいだ、弟子たちがとったであろう態度をとりつづけました。それからイエス様は、この異教の女に何と言われましたか? マルコ 7:27。

当時のユダヤ人は、自分たちが神様の「子供」であって、ほかの人たちは犬以下の存在だと考えていました。神様がご自分の愛を、ユダヤ人以外の人々に分け与えるはずはないと、かたく信じていたのです。それは、どれほどまちがった考えであったことでしょうか!

イエス様は、すべての人に対するご自分の愛を、隠しておくことはできませんでした。彼の顔を見上げた異教徒の女は、希望があると確信しました。ですから、「犬」呼ばわりされても、まったく気にしませんでした。おそらく、ほかのユダヤ人たちからも、すでにそう呼ばれていたのでしょう。彼女が見ると、イエス様のお顔には愛があふれていました。その愛に勇気づけられて、犬たちですら、子供たちの食卓からこぼれた食べ物をもらえることをうたえて、今でも彼に信頼していることを示したのでした。もちろんイエス様は、

彼女のための「パンくず」を持っておられました。28節。

考えてみよう: この女の信仰は、イエス様を喜ばせましたか? 神様は、すべての人、たとえ異教徒と呼ばれる人たちでさえも、心から愛しておられますか? これら異教徒の人たちでも、イエス様について学んで、正しい信仰を持つことができますか? わたしたちは、すべての人を愛するべきですか?

すいようび 水曜日

ひとりの異教の母親が、幼い娘にとりついて悪霊を追い出してほしいと、イエス様にお願いました。悪霊を追い出すには、その少女がいる家に行かなくてはなりませんでしたが? いいえ。彼はただ、悪霊が彼女の幼い娘から出て行ったことを母親に告げただけでした。マ

ルコ 7:29。
30節。

この母親がどんなに喜んでか、かんたんに想像できますね。ほかの人々も、イエス様がなさったことをすぐに知るようになると思いますか? もちろんです。この奇跡の知らせは、またたく間に広まったことでしょう。この知らせは、異教徒の耳にもユダヤ人の耳にも、すぐにとどきました。



イエス様が、これらの異教徒が住んでいる場所をおとずれた理由は、ふたつありました。ひとつは、この異教の母親を助けるため。もうひとつは、天国へもどられる前に、彼らに重要な教訓を教えるためでした。

それでもなお、弟子たちにとって、神様が異教徒たちを同じように愛しておられるというのは、信じがたいことでした。彼らはそのことを、そのあとなんども念をおされることになります。しかし彼らは、あの異教の女をあつかわれたイエス様のやりかたを、決して忘れないでしよう。イエス様がお示しになったのは、すべての人に対する神様の愛そのものでした。

異教徒とユダヤ人は、互いに嫌い合っていました。しかし、イエス様はすでに何と言っておられましたか? そのすばらしいみことばを讀んでみましょう。マタイ 5:43-45。

考えてみよう: 弟子たちは、イエス様の異教徒への接しかたと、自分たちの異教徒への接しかたのちがいを、学び始

めていましたか? 自分たちとちがう人たちを憎むようにさせるために、サタンと悪天使たちは、今でもわたしたちに働きかけていると思いますか? サタンと悪天使たちは、イエス様が異教徒も愛しておられるということを、わたしたちに知ってほしいと思っ

どのように接するべきですか？

もくようび 木曜日

異教の国で少女をいやされた後、イエス様はどこへ行かれましたか？**マタイ 15:29。**

イエス様が行かれた山は、ふたりの狂人から悪霊どもを追い出したのと同じ場所でした。悪霊どもがふたりの狂人から出ていってから群れの豚たちにとりつき、そのあと何が起こったか覚えていますか？

マタイ 8:28-32。

たくさんの豚がおぼれ死んだ後、人々はイエス様に何をしてほしいとお願いしましたか？**34節。**

イエス様に助けてもらった男たちは、何をしたいと思いましたが？彼らはそこにとどまりたかったですか？それともイエス様について行きたかったですか？**マルコ 5:18。**

しかし、イエス様は彼らに何と言われましたか？**19節。**

男たちは、イエス様の言いつけにしたがいました。彼らはあちらこちらへ出て行って、イエス様が自分たちをいやして下さったことを伝えました。そして話を聞けば聞くほど、人々は、イエス様にもどってきてほしいと願うようになりました。

いよいよイエス様もどって

こられると、こんどは何が起こりましたか？

マタイ 15:30,31。

前回イエス様が来られた時とは、何と違うでしょうか！人々はあの山で、イエス様と3日間も過ごしたのです。もってきた食糧も食べつくし、そろそろ家に帰らなくてはなりません。しかしイエス様は、彼らを空腹のまま帰らせたくありませんでした。**32節。**

ほんの数日前、弟子たちは、異教の女に対するイエス様の態度を目にしたにもかかわらず、そこに集まった異教の人たちと親しく交わろうという気にはなりません。弟子たちは、イエス様に何と答えましたか？**33節。**

イエス様は、どれくらいの食べ物が残っているかを調べるようにと、弟子たちに言われました。彼らは、異教の人たちに食べ物を分けたいと思ったのでしょうか？実は、その反対でした。しかしイエス様は、人々に何をしようとお命じになりましたか？**34,35節。**

考えてみよう：イエス様にも、憎んでいることがあるのを知っていましたか？

彼は弟子たちのことを心から愛しておられましたが、誇り〔いばること〕と利己心〔わがまま〕をひどく嫌っていました。彼らは、自分たちが異教徒のようでないことを誇りに思っていました。おそろく持っていた食べ物も、自分たちだけで食べようと思っていたのでしょ



あなたはこれまでに、わがままでいばった人になるような誘惑を受けたことがありますか？わたしたちにはもともと、そのようなみにくい性質があるのです。それでもイエス様は、わたしたちが変われるように助けることができになりますか？もちろんですとも。

きんようび 金曜日

イエス様と弟子たちと、4,000人以上の異教の人々は、3日間もともと山の上ですごしました。そろそろ帰る時間です。しかしイエス様は、人々がおなかをすかせていることをご存知でしたので、彼らを帰す前に夕食を食べさせたいと思われました。弟子たちは、自分たちのもっていた残りの食べ物を、すべてイエス様にわたしました。そしてイエス様は、これらの食べ物をどうなさいましたか？**マタイ 15:34-38。**

ユダヤ人と異教徒への、わけへだてのない愛をあらわしながら、イエス様はふたたび、ご自身の力をお示しになりました。何千人もの人々に食べさせたあの時と同じように、今回も、食べてもなお余るほどの食べ物がありました。多くの人たちが、



あまった食べ物を家にもち帰り、3日間のイエス様との交わりの話や、また最後におこなわれた奇跡の話をしてしながら、家族や友人に分け与えたのでしょうか。

一方、イエス様と弟子たちは、舟に乗ってガリラヤへもどりました。到着すると、ユダヤ人の一団が待ちかまえていました。こんどは、パリサイ人とサドカイ人もいっしょです。ふだんは、パリサイ人とサドカイ人は仲がよくありませんでした。しかし、どちらもイエス様のことをとても憎んでいたのです。彼を殺すために協力し合うことにしたのです。彼らは、イエス様に何をするように求めましたか？イエス様は、どのようにお答えになりましたか？**マタイ 16:1-4。**

かんがえてみよう：イエス様がここで言われた「ヨナのしるし」とは、何のことでしょうか？**マタイ 12:40**を読んで下さい。イエス様は、ご自分がもうすぐ来られるというしるしをお与えになりましたか。これらのしるしには、どんなものがありますか？ほとんどの人は、これらのしるしを信じて、注意をはらっていますか？

まな もっと学ぼう！

★マタイ 15:21-39

★マルコ 7:24-8:10

★かくじだい きぼう しやう
★各時代の希望 43章



ひかり ひかり
ひとつの光を！さらなる光を！
ひかり
もっとたくさんの光を！

エイミー・シェラード編

あなたは、インフルエンザにかかったことがありますか？たくさんの人がいちどにかかった場合、それは「伝染病」と呼ばれます。伝染病が広まると、深刻な事態になるかもしれないので、多くの方は、毎年インフルエンザの予防接種を受けます。おそらくあなたも受けたことがあるでしょう。

しかし、ホワイト夫人が生きていたころは、インフルエンザの予防注射のことなど、だれも知りませんでした。バトルクリークでのある冬、ホワイト夫人と家族のみんなは、インフルエンザにかかってしまいました。ホワイト夫人は、ある大切な集会で話をすることになっていましたが、まだ治っていませんでした。

「エレン、君がいないと、集会はうまくいかないと思うんだ」と、ジェームスが言いました。「この集会で、教会の指導者たちが話し合って解決すべき重要な問題があるんだが、その問題解決のために、イエス様が君に示されたメッセージがどうしても必要なんだよ。君がいやされることを

祈ってきたけれども、まだよくなりなから、ふたりの指導者を呼んで、君のために特別に祈ってもらおうとしよう。」

ジェームスとふたりの牧師が祈った後に、エレンも祈ろうとしました。彼女の声はかすれ、話すのも容易ではありません。ところがとつぜん、声が出るようになったのです。「神様に栄光があるように！」と、はっきりと大きな声で言いました。ジェームスと牧師たちは、エレンが幻を見ているのだとわかりました。彼女は目を上げて、ほかの人



Little Folk Visuals

には見えない何かを見ています。そして、とても心配そうな表情をしています。彼女は、かぶっていた毛布をすばやく投げました。それから起き上がって、部屋の中を行ったり来たりし始めました。

歩いている間、エレンは手を堅くにぎりしめて、なんども何度もうめきました。「暗い！暗い！どこも暗いわ！真っ暗なの！」それから数分の間、うめき声がとまりました。彼女の顔は、よろこびの表情に変わっていました。「ひとつの光を！小さな光を！もっと光を！たくさんの光を！」彼女はそう

い 言 っ て、い す に 腰 か け ま し た。

い つ も の と お り、幻 を 見 て い る と き の
エ レ ン は、息 を し て い ま せ ん で し た。ほ
ど な く し て、彼 女 は 長 く 深 く 息 を し ま し た。
そ れ か ら、自 分 が ど こ に い る の か、ま た
な ぜ 牧 師 た ち が そ こ に い る の か が わ か ら
な い か の よ う に、あ た り を 見 回 し ま し た。
ジ ョ ー ム ス は、彼 女 の そ ば に ひ ざ ま ず き ま
し た。「イ エ ス 様 が 君 に 幻 を お 与 え に な っ
た ん だ よ。」彼 が 静 か に 言 う と、エ レ ン は
う な ず き ま し た。「幻 の こ と を、今 話 せ る
か い？」と た ず ね る と、エ レ ン は 頭 を ふ り
「今 は 無 理 で す。」と 言 い ま し た。

さ て、大 事 な 集 会 の 日 が や っ て き て、
ジ ョ ー ム ス が エ レ ン に、働 き 人 た ち の た
め に 話 す こ と が で き る か ど う か を た ず ね る
と、「も う す っ か り 良 く な り ま し た」と エ レ
ン は 答 え ま し た。そ れ か ら 彼 女 は 着 が え
て、ジ ョ ー ム ス と い っ し ょ に 雪 の 中 を 歩 い
て、集 会 場 所 に 向 か い ま し た。

幻 に 出 て 来 た「光」は、世 界 中 の 人 々
が イ エ ス 様 の ご 再 臨 の こ と と、十 戒 に し た
が う 事 が ど ん な に 重 要 で あ る か を 知 る よ う
に な る と い う 意 味 で し た。

こ れ ら の 光 は、す で に ア メ リ カ の 多 く の
場 所 で 輝 き 始 め て い て、あ る 光 は、は る
か ヨ ー ロ ッ パ で も 輝 い て い ま し た。し か
し、世 界 の ほ と ん ど は ま だ 暗 く、エ レ ン は、
世 界 中 の い た る と こ ろ で 光 が 輝 き 始 め る
の を 見 た の で し た。

「そ の 光 が 輝 き 始 め た 場 所 の 名 前 を 覚 え
て い る か い？」ジ ョ ー ム ス は た ず ね ま し た。

エ レ ン は 一 生 けん 命 思 い 出 そ う と し ま し
た。「ひ と つ だ け は、思 い 出 せ ま す よ。」

か の じ ょ こ た 彼 女 は 答 え ま し た。「オ ー ス ト ラ リ ア で す。」

い つ の 日 か、そ の 遠 い 国 へ 行 き、光 を
輝 か せ る 手 伝 い を す る よ う に な る こ と を、
こ の 時 は 知 る よ し も あ り ま せ ん で し た。

だい しょう 第 12 章

てん ほうもんしゃ 天からの訪問者



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け。」

マタイ 17:5

にちようび 日曜日

イエス様は、弟子たちと共に、人々を教え、いやし、町から町、村から村へとまわっておられました。ある日、夕方になりかけたころ、彼らは山のふもとで足をとめました。みな疲れていた

ので、弟子たちはそこで一晩すごすのを喜びました。休息の時間です。ところが日が暮れる前に、ペテロとヤコブとヨハネは、イエス様に山の上までついてくるようにと言われました。ほかの弟子たちは、今いるところにとどまります。

イエス様と3人の弟子たちは、太陽が沈むころ、ごつごつしたけわしい道を登って行きました。みんながこ



れほど疲れている時に、なぜイエス様はそこに行きたいのか、弟子たちには理解できません。イエス様にも休息が必要なることを知っていましたから。マタイ 17:1。

まもなく、あたりは暗くなりました。登っている間、弟子たちの思いも暗くなっていきました。なぜイエス様は、ご自分の王国をたてようとなさらないのか？もしかして、イエス様がメシヤであるという考えがまちがっているのか？彼らがどうしても理解できないことは、まだまだありました。

ようやく、イエス様から、登るのはここまでと言われました。それから彼は、少し離れたところへ行かれました。彼らは、イエス様が石だらけの地面にひざまずき、祈っているのを見ました。

イエス様は天のお父様に、サタンとの戦

いのために、ご自身を
ちから くだ
力づけて下さるように、
また、弟子たちがもっと
しんこう も たす
信仰を持てるように助
けて下さいとお願いしま
した。彼らは、イエス
さまがわたしたちを救う
ために死ななくてはなら
ないことを、理解する
ひつよう
必要がありました。ほ
かに方法はありません。
イエスさまは、ご自分が
かみ たく
神であることを、特に
いま
今いっしょにいる3人の



でし し くだ
弟子たちが知ることができるようにして下
さいと、天のお父様をお願いしました。ま
もなく、イエスさまにしたがう選^{えら}びをしたこ
とがまちが^{おも}いだったかもしれないと思わせ
るほどの、はげしい誘惑にあうことを知っ
ておられたからです。

かんが
考えてみよう: イエスさまが死ななくては
ならなかった理由は何ですか? 神様はな
ぜ、イエスさまを死なせないまま、わたした
ちの罪^{つみ}をゆるして救^{すく}うことがおできになら
なかったのですか?

げつようび 月曜日

テロとヤコブ、ヨハネは、イエス
さま やま のぼ
様と山を登りましたが、イエス
さま いる あいだ ねむ
様が祈っておられる間に眠ってしまいま
した。はじめのうちは、彼らも祈って、目を
さ
覚ましていようとしました。しかし、あまり
つか
にも疲れていた^{つか}ので、イエスさまが天のお

とうさま はなし あいだ
父様と話をしている間
に、眠りこんでしまった
のでした。

すると、おどろくよう
なことが起こりました。
あなたが暗い部屋です
やすや眠っているとき
に、だれかが突然とて
も明るい光をつけて、
起こされたことはありま
すか? 始めのうちは、お
そらく目をパチパチさせ
たり、細めたりして、だ
んだん目をあけることが

できるようにしますよね。

それと同じようなことが、その夜、暗
い山の上で起こったのです。とつぜん、
ひかり
光がイエスさまのまわりを照らし、3人の
でし たち
弟子たちは目を覚ましました。いったい、
なに お
何が起こったのでしょうか?

はじめ、光があまりにもまぶしかったの
で、弟子たちはよく見えませんでした。し
ばらくすると、イエスさまが光の中に立っ
ておられるのが見えました。そのお姿は、
まるで別人のようです! 王様のように堂々
と立ち、お顔と着物は輝いていました。マ

タイ 17:2。

かれら め
彼らの目が、さらに明るさに慣れてくる
と、イエスさまのほかに、ふたりの人が見
ええました。彼らは何者でしたか? そこで何
をしていましたか? **3 節**。

すでに天国にいる人で、わたしたちが
なまえ し
名前を知っているのは3人だけです。だ
れだったか覚えていますか? 最初の人は

エノクで、洪水前の時代に生きていた人です。次はモーセで、いちどは死にしましたが、イエス様によってよみがえらされて、天国へつれて行かれました。3番目はエリヤです。彼は、火の馬車に乗って、死なずに天国へ行きました。

考えてみよう: イエス様と話させるために、神様がモーセとエリヤをお選びになったのは、なぜだと思いますか？そのことは、明日わかります。神様によって天にあげられる前に、モーセとエリヤが神様のためにしたことを覚えていますか？彼らは、どういう点で特別でしたか？

かようび 火曜日

イエス様は神様で、全能の〔どんなことでもできる〕おかたでした。彼は人間でもあられましたが、ほかの人間よりも何かを楽に行うために、神としての力を使うことは決してありませんでした。まもなく、わたしたちみんなをふくむ、これまでに生きていたすべての人のために、死のうとしておられました。それなのに、このすばらしい救いの計画を理解している人は、だれもいないようでした。

弟子たちでさえ、イエス様こそ、アダムとエバが罪を犯したときから約束されているメシヤなのかどうか、まだ確信がありませんでした。彼らはいまだに、サタンの王国と神様の王国について理解していませんでしたし、一人ひとりがどちらの王国の国民になるかを自分で選ばなくてはならないこともわかっていませんでした。

神殿では毎日、小羊が犠牲としてささげられていましたが、そのささげ物の意味を多くの人が忘れてしまっていました。彼らは、ただユダヤ人であることと、小羊を犠牲としてささげることが、自分たちをかみさまくにはいかんが神様の国へ入らせてくれるものだと考えていました。そして真の小羊がだれなのか、そのおかたが何をしなくてはならないかを忘れていたのです。イエス様にとって、真の小羊になることは、かんたんではありませんでした。ですから神様は、ふたりのとくべつほんもの人間を天国から送り、イエス様を力づけたかったのです。

イスラエルの民をみちびいて奴隷の身分から解放したモーセは、彼らにとって、心から神様を信頼する選びをするのが簡単ではないことを学びましたか？

またエリヤは、アハブとイゼベルによって殺されそうになったとき、神様のために勇敢に戦いつづけるとはどういうことを知っていましたか？

モーセとエリヤは、イエス様を励ますためにやって来ました。モーセは、「神様に信頼してしたがうことを選んで、イエス様のご再臨の前に死ぬ人々」を代表していました。その後、イエス様は彼らと共にいるために命をお与えになります。エリヤは、「忠実で、イエス様のご再臨の時まで生き残る人々」を代表していました。

弟子たちは、イエス様が王としてもどって来られるときの、小さな見本を見せられたのでした。再臨のときには、(モーセのように) 墓からよみがえらされる忠実な人たちと、(エリヤのように) その時まで生

の ちゆうじつ ひと き延びる忠実な人たちが、イエス様のまわりにあつめられるのです。

かんが 考えてみよう: モーセとエリヤは、すでに天国に何百年もいたことになります。彼らは、今でもそこにいるのでしょうか？そのとおりです。彼らがこの世界に住んでいたとき、いつでも完全でしたか？いいえ、そうではありませんでした。天から降りてきてイエス様と話したときでも、彼らは、イエス様が自分たちのために死んでくださることに信頼していましたか？そのとおりです。また彼らは、イエス様が死んでくださることによって、幾百万もの人々が天国に入れられることも伝えたのでした。

すいようび 水曜日

やま の上で光に包まれ、お顔と着物かがやが輝いたイエス様は、モーセとエリヤと話しておられました。そこには、ペテロとヤコブとヨハネの3人の弟子たちもいました。

弟子たちは眠っていました。目を覚ましたとき、何が起きているのかが理解できず、恐怖でおびえていました。しかしいつものように、黙っていることができずに、ペテロが何か言いました。思いつきで、そこに小屋を3つ建てるべきだと言ってしまいました。マルコ 9:5,6。



とつぜん、光輝く雲が右上のほうにあらわれ、声が聞こえてきました。その声はとも力強く、山をふるわせるほどでした。その声は何と言いましたか？ 7 節。

恐ろしくなった弟子たちは地面にひれふし、顔をおおいました。しかしすぐに、何かがやさしく触れるのを感じました。見上げると、それはイエス様でした。モーセとエリヤは、もういなくなっていました。

日がのぼり、けわしい山道をおりる時間になりました。ほかの弟子たちに会う前に、イエス様は3人に何とおっしゃいましたか？ 9 節。

山での出来事はだれにも話さないと約束した3人でしたが、頭の中はとても混乱していました。10 節。

かんが 考えてみよう: 天使ではなく、なぜモーセとエリヤがイエス様を助けることができたのか、話し合ってください。イエス様は、わたしたちの気持ちを、天使たちよりもよく分かっておられますか？それはなぜですか？あなたは、そのことをうれしく思いますか？

もくようび 木曜日

イエス様とペテロとヤコブとヨハネが、ほかの弟子たちのところへもどってみると、何が起こっていましたか？マルコ 9:14。

山から4人がもどったと

き、そこにいたみんなが
ふり返りました。山では、
夜の間に何か特別なこと
が起こったにちがいない
と、すぐにわかりました。
イエス様と3人の弟子
たちの顔は、特別な輝
きをはなっていましたか
ら。15節。

律法学者以外のみんな
が、急いでイエス様
を出迎えに来たときに、
律法学者たちが問題を
引き起こしていたことが
わかりました。イエス様
は出迎えた人たちをまっすぐ見つめて、あ
る質問をなさいました。16節。

はじめのうちは、だれひとり口を開きま
せんでした。律法学者たちが言い争いを
しかけてきて、弟子たちをからかい、イ
エス様はメシヤではないと言いはっていま
した。9人の弟子たちは、困って恥ずか
しそうにしています。そこへひとりの男が
群衆を押しつけて、イエス様の足元にひ
ざまずきました。17,18節。

おそらくイエス様は、悲しそうに首をふ
られたことでしょう。彼がメシヤであること
を人々が信じるようになるまでに、いった
いどれだけ時間がかかるのだろうと思わ
れました。それからイエス様は、父親に
息子をつれてくるようにと言われました。

19節。
少年がイエス様を見たときに、何が起
こりましたか？20-22節。



もちろんイエス様は、
このかわいそうな少年を
いやす力をもっておられ
ました。ただしこの父親
が、イエス様は本当に
いやすことがおできにな
ると、心から信じなくて
はなりません。彼が信じ
るように強制することは
できません。23節。

父親は、大声で泣きだ
しました。自分に信仰が
ないために、息子がい
やされないかもしれない
のです。24節。

人々は、ようすを見に集まってきまし
た。そこには、聖天使も悪天使もいました。
イエス様は何をなさいましたか？25-27
節。

考えてみよう：イエス様とサタンの戦い
の物語は、作り話ではありませんね？しか
しイエス様は、その戦いにすでに勝利し
ておられます。そしてわたしたちは毎日、
どちらの側につくのか、たくさんの選
びをしなくてはなりません。あなたは、よ
ろこんでイエス様を選んでいますか？

きんようび 金曜日

律法学者たちは、イエス様と弟子
たちをばかにしていました。弟子
たちが少年の悪霊を追い出すことができ
なかったのは、イエス様がメシヤでない
証拠だ、と律法学者たちは言いました。

ひとびと りっぼうがくしゃ
人々は、律法学者たちがまちがっていたことがわかりました。

けれども、律法学者たちと言い争っていた弟子たちは、恥じ入っていました。伝道旅行に出かける前に、イエス様は彼らに悪霊を追い出す力を与えて下さったはずでした。イエス様のみ名によって、彼らは人々から悪霊を追い出したのです。ではなぜこんどは、それができなかったのでしょうか？イエス様だけがいっしょにおられるとき、弟子たちは彼にたずねました。
マタイ 17:19-21。

イエス様がおっしゃったのは、どういう意味だったのでしょうか？からし種の粒は、ひじょうに小さいのですが、それが植物として成長するためには、土と水と日光を必要とします。たとえ小さなものであっても、もしイエス様を愛し、信頼し、イエス様にしたがうことを選ばなければ、わたしたちの信仰は成長するでしょう。しかし弟子たちはサタンに、自分たちの心にイエス様についての大きな疑いを植えつけるのをゆるしてしまいました。彼らはまだ、イエス様を心から信じていなかったのです。

かんが 考えてみよう：イエス様がおっしゃる「本当の信仰は、山々も動かすことができる」とは、どういう意味ですか？だれかが「仕事が山ほどある」というのを聞いたことがありますか？イエス様がお話なさったのは、「山ほどもある（多くの）問題」についてです。子供にも問題はありますか？わたしたちの大きな問題のひとつは、サタンが誘惑してくるときに、「ノー [だめ] !」と言うことを忘れていないことではないでしょ

うか？イエス様を信じることを選び、いつもわたしたちの心の中において下さるように祈ることは、食べることよりもずっと大事なのです。そうすれば、サタンはイエス様に對する信頼をとりさることはできませんし、意地悪でしつと深い考えを心に植えつけることもできません。

まな もっと学ぼう！

★マタイ 17:1-21

★マルコ 9:2-29

★ルカ 9:28-42

★各時代の希望 46, 47 章



エレンのむずかしい選えらび

エイミー・シェラード

エレン・ホワイトは、幼い頃から、心をつくしてイエス様を愛していました。しかし、イエス様が彼女に、特別な使者になってほしいと言われたとき、彼女はイエス様に、どうかほかの人をさがしてほしいとお願いしました。エレンは、あまりにも若く、病弱だったからです。それに加えて、人前で話すのが苦手でした。これで

はどうやって、彼女よりもずっと年上の人々にメッセージを伝えることができるでしょうか？また、彼らがまちがいを犯していることを、どうやって指摘できるでしょうか？また、彼らからどう思われるのでしょうか？

しかし、イエス様のお心は変わらず、彼女を助けることを約束して下さったので、エレンはイエス様に信頼して、最善をつくすことを選びました。しかしそれでも、これは大変な役目でした。

エレンはなんども、イエス様から与えられたメッセージを変えるようにとの誘惑を受けました。これらのメッセージによって、人々を怒らせ、不愉快にさせたくないという気持ちがあったからです。

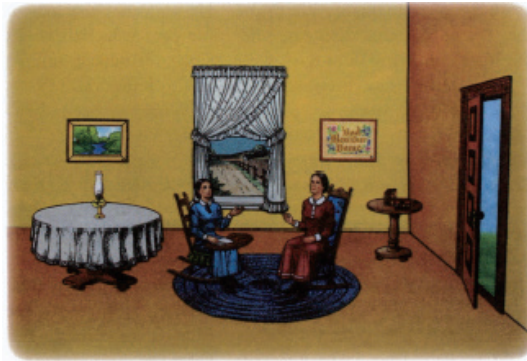
ある時、サタンの誘惑に負けてしまったから、幻でイエス様を見せられました。彼は、悲しみと失望の表情をうかべておられました。エレンをごらんになると、とても不愉快な顔を

なさいました。ああ、このことで、エレンはどんなに心を痛めたことでしょうか！彼女は泣きながら、イエス様からいわれたとおり、人々に知らせるべきことをかならず伝えると約束しました。

約束を守るのは、決してたやすいこと

ではありませんでした。イエス様からのメッセージが人々を悲しませたり、不愉快にしたり、時には怒らせたことをエレンが知ったときには、これらの人たちと話したり、手紙を書いたりしなくてはなりません。しかし、人々がイエス様にしたがわないことを選ぶならば、イエス様は彼らを祝福することができず、彼らがイエス様のためにしているという働きも祝福されないことを、エレンは知っていました。

ある時、バトル・クリークにある教会の出版社で働く人たちに対し、イエス様はひとつの警告を送られました。なぜでし



Little Folk Visuals

う？それは彼らが、私たちの教会の本や雑誌だけでなく、ほかの教会の本や雑誌も印刷していたからです。ほかの教会のために印刷していたものの中には有害なものがあり、イエス様は、彼らがその印刷をやめなくてはいけないことを知っておられたのです。

しかしなぜ、出版社の人たちは変わらなかったのでしょうか？それは、他教会の印刷の仕事のおかげで、出版社がもっともうかることが分かっていたからです。

さらにエレンは、バトル・クリークにある大きな療養所の経営者たちにも警告しました。彼らも、イエス様がエレンをとおして語られたご計画にしがいませんでした。ある幻の中で、燃える剣をもったひとりの天使が、バトル・クリークの上空でひとつの道を曲がり、別の道を行くようすを見せられました。そして、その通りのおことが起こりました。最初に大きな療養所が、次に病院が焼け落ちたのです。

セブンスデー・アドベンチスト教会の人々は、この恐ろしい火事のことを聞いて、ショックを受けましたが、エレンはおどろきませんでした。彼女はどんなに悲しかったことでしょうか！これらの経営者たちが、イエス様から彼女をとおして送られた警告にしがってさえいれば、災いが起きることはなかったのです。

エレンが書いた本の中で、イエス様がわたしたちに対して語っておられることに従うことがどれだけ大切か、あなたは知っていますか？

だいしょう 第13章

ひと ほうほう 人をゆるす方法



子供のための日々の
聖書研究ガイド

あんしょうせいく 暗唱聖句

「ゆるしてやれ。そうすれば、
自分もゆるされるであろう。」ルカ 6:37

にちようび
日曜日

弟子たちは、本当にたくさんのこと
を学ばなくてはなりません。わたしたちも同じです。今週は、イエス様が「ゆるし」について教えて下さったことを学びます。まずは、次の質問に答えて下さい。

いじわるなことを言ったりやったりして、自分を傷つける人をゆるすのは、かんたんなことですか？特に、いじわるをあやまりもしない人をゆるせますか？

だれかが、うっかりあなたのお気に入りのおもちゃをこわしてしまったとしたら、もちろん悲しいですよ。それでもあなたは、その人をゆるしてあげようと思いますか？

もしも、友だちとぬり

絵遊びをしていて、その友だちがあなたのぬり絵に落書きをしたらどうでしょう？あなたも、友だちの絵をめちゃくちゃにしたいと思いますか？

自分を傷つけた人を傷つけたいと思ってしまうのは、自然なことではないですか？

だれかから「ごめんなさい」と言われても、その人がまた同じことをしたら、ゆるす気になれない、ということはありますか？

「ごめんなさい」とあやまってくるのに、何度もなんども同じまちがいをくり返す人を、わたしたちは何回ゆるせばよいと思いますか？

あなたはこれまでに「いいよ、ゆるすよ」と言ったのに、心の中にはまだ怒りが残っていて、その人と話したくないと思った



ことはありますか？

かんが **考えてみよう**：**ひと** 人をゆるした
けいけん 経験はありますか？**ひと** 人からゆる
された**けいけん** 経験はありますか？ま
こんしゅう 今週の**あんしゅうせい** 暗唱聖句を覚える
こと**はじ** から始めて下さい。そして
しょうがい 生涯、この**せい** 聖句を覚えている
ことが、**じゅうよう** とても重要になってき
ます。



おも うと思ったのです。ところが、
さま イエス様は何とおっしゃいま
したか？**せつ** 22節。

さま イエス様は少しの**じかん** 時間もお
こた かずに、答えられました。彼
は、ペテロやほかの**でし** 弟子たち
が、ゆるしについて**たいへん** 大変まち
がった**かんが** 考えをいっているの
を**ぞん** ご存じでした。また、ラビ
たちも**おな** 同じでした。それにし

ても、7の70倍ですって？つまり、490
かい 回ということです。これだけ**おほ** 多くゆるしたと
しても、だれが**おぼ** 覚えていられるでしょう？

もちろんイエス様は、**ひと** 人をゆるすときは、
なんかい 何回ゆるしたなどと**かぞ** 数え上げるべきで
はないと**い** 言われました。神様の国に入る
ことを**えら** 選ぶ人たちは、「何回ゆるした」な
どと**かぞ** 数えることはしません。人から何をさ
れても**い** 言われても、いつでも**よろこ** 喜んでゆるす
のです。

イエス様はどうすれば、**でし** 弟子たちや話
を**き** 聞いている人たちに、**こころ** 心からゆるすこと
がなぜこれほど**じゅうよう** 重要なのかを**り** 理解させる
ことができるでしょう？

かんが **考えてみよう**：**とう** お父さんや**かあ** お母さんが、
なんど あなたの**こと** ことを**なんど** 何度ゆるしたか**かぞ** 数えられま
すか？

げつようび 月曜日

でし 弟子たちは、ゆるすことについて何
わ も分かっていませんでした。ラビ
〔**きょう** ユダヤ教の**きょうし** 教師〕たちは、**ひと** ひとりの人を
3回ゆるせばよいと**おし** 教えていました。でも、
ラビたちはまちがっていました。イエス様
もそれを**ぞん** ご存じでした。また「ゆるし」に
ついて**し** 知ることが、とても**たいせつ** 大切だといふこと
も**ぞん** ご存じでした。

ある日、ペテロがイエス様に「ゆるす
こと」について**たず** 尋ねました。おそらく他の
弟子たちも、イエス様が何とおっしゃるの
か、**ねっしん** 熱心に**みみ** 耳をかたむけて**き** 聞いていたで
しょう。それは、どんな**しつもん** 質問でしたか？**マ**
タイ 18:21。

かんぜんすう 完全数といわれている「7」は、「3」
を2倍した数よりも**おほ** 大きいですね。ペテ
ロは、ラビたちの**おし** 教えた**かぞ** 数の2倍**ばいじょう** 以上人
をゆるせば、イエス様は**よろこ** 喜んで**くだ** 下さるだろ
う**おも** と思っていました。イエス様はゆるしの
せいしん 精神にあふれた**かた** お方であることを**し** 知っていた
ので、7回もゆるせば、イエス様のゆる
しの**すいじゆん** レベル〔**じゅうぶんたつ** 水準〕に十分達するだろ

かようび 火曜日

い イエス様はいつものように、**かみさま** 神様の
くに 国とその**くに** 国にはいる**ひと** 人たちについ
て、**ひとびと** 人々が**り** 理解できるように**たす** 助けておられ
ました。この時は、ゆるすことについてひ

ものがたり はな
とつの物語をお話しなさいました。わたし
たちも、ゆるすことについて理解する必要
がありますか？もちろんです。ですから、
イエス様がお話なさったことは、わたした
ちのためでもあります。

むかし、あるところにひとりの王様が
いました。その王様の家来たちは、莫大
なお金を管理していました。このお金は
王様のものだったので、王様は家来たち
が正直であるかどうかを調べていました。

マタイ 18:23。

家来たちが王様の前へ集められたとき、
王様は注意深く、彼らがそれぞれ受けと
ったお金を、どのように管理したかについ
ての記録を調べました。すると、家来のうち
のひとりの記録に、きわめて深刻なことが
見つかりました。それは何でしたか？ 24
節。

10万タラントです。これがどれほどの
お金か、わかりますか？ 今日なら、何億円
という金額です。

「お前がわたしから借りたお金は、どこ
にあるのだ？」王様は、きびしく問いつめ
ます。

そのお金がもうないこ
とを認めざるをえないこ
の家来は、どんな気持ち
でいたと思いますか？ 彼
は、お金を使いはたして
していました。

王様は、ただちにこの
家来を罰するように命じ
ました。家来は、どうな
るのでしょうか？ 25 節。



おそらくこの家来は、すでにびくびくし
ていたはずですが、今ではすっかり恐怖
でふるえおののいていたことでしょう。お
金を全部かえさないと、奴隷として売られ
てしまうのです。さらに悪いことには、妻
も子供たちも奴隷として売られてしまいま
す。震えおののくのも無理はありません。
そこで家来は、どんな約束をしましたか？

26 節。

考えてみよう：それは、たいへんな約束
でした。家来は、約束をはたせるでしょうか？

すいようび 水曜日

王様に何億円もの負債〔借金〕を
おったこの家来は、大変なことに
なっていました。とうぜん、この莫大
な借金を払いきれなかったので、彼と妻、
子供たちは奴隷として売られることになり
ました。彼の持っているものもすべて、売
られてしまいます。そこで、ひっしで王様
に情けを願い求めました。

おそらく王様は、この家来が頭をたれ
てすすり泣き、もういちどチャンスを願い
求めるのを見たのでしょ
う。彼は、もし王様がも
ういちどチャンスを下さる
ならば、1円残らずすべ
て支払うことを約束しまし
た。

ところが、この男を見
た王様は、彼が約束を守
る手だてがまるでないこ
とがわかりました。男が

どんなに一生けん命働こうが、何年働こうが、借金をすべて返すことは絶対に無理なのです。

王様は、男のことが急にかわいそうになり、彼の持ち物を無理やりとることをやめました。王様は彼に、支払う義務から解放してあげようと言いました。つまり王様は、男が借りた何億円もの負債をすべてなしにしてくれたのです。27節。

さあ、この男は、今どんな気持ちだと思いますか？彼はおそらく、まだ頭をたれてすすり泣いていたでしょうが、こんどの涙はうれし泣きです。「ありがとうございます」とくり返し、くり返し、言ったでことでしょう。彼はゆるされたのです。もう、恐ろしい罰を受けなくてすむのです。自由になったのです。

考えてみよう：あなたはお父さんやお母さんに、罰を与えないでとお願いしたことはありませんか？もし両親が罰を与えなければ、いい子でいます、と約束したことはありませんか？両親の決めたことを変えさせたことはありませんか？もしかしたら、時には「成功」したかもしれませんね。おそらく時には「失敗」もしたでしょう。そんな出来事を覚えていますか？

もくようび 木曜日

これで安心です！王様に何億円もの負債〔借金〕をかかえていた男は、これで奴隷として売られずにすみました。妻も子供たちも売られずにすみました。しかも、持ち物もすべて失わずにす

むのです。負っていた負債が、まるで王様から何も借りなかったかのようにすべてゆるされ、帳消しになったからです。

でもその時、王様の別の家来のことを思い出しました。男は別の家来に2000円くらいのお金を貸しており、それがまだ返されていませんでした。今こそ、王様が自分にしてくださったように、別の家来にしてあげる絶好の機会です。ところが、男は今すぐにそのお金を返してもらおうことにしたのです。次に、信じられないようなことが起きます。マタイ 18:28,29。

2000円ぼっちのお金を借りたその家来は、何億円もの負債をおっていた男と、まるで同じことを言いませんでしたか？比べてみましょう。26,29節。

さて、2000円ぼっちのお金を借りた男は、どうなりましたか？30節。

そのことを聞いたほかの家来たちは、どんな気持ちになりましたか？31節。

この物語は、どのような結末をむかえますか？32-34節。

考えてみよう：何億円もの負債をかかえた男は、ゆるされるに値するようなことをしていましたか？それとも、王様が彼をあわれに思ったのでゆるされたのですか？この男が、2000円しか借りていない別の家来をゆるさなかったことを、あなたはどう思いますか？何億円もの莫大な借金をゆるしてあげた後で、王様が男に対する気持ちを変えたことは、正しいことですか？もし王様が、男のしたことを見逃してあげたとしたら、あなたは思うでしょう？

きんようび
金曜日

イエス様はこのように、
けちな家来、つまり、
自分^{じぶん}は王様^{おうさま}から何億^{なんおくえん}円もの
負債^{ふさい}をゆるしてもらったのに、
2000円^{えん}しか借り^かていない人^{ひと}
をゆるさなかった男^{おとこ}の物語^{ものがたり}
を終^おえました。それからイ
エス様^{さま}は、聞いていた人^{ひと}たちを真剣^{しんけん}に考
えさせるようなこと^いを言^いわれました。マタイ
18:35。

この物語^{ものがたり}を聞いたペテロ^きとほかの弟子^{でし}
たちは、この物語^{ものがたり}を聞いて、3回^{かい}ゆる
すだけで十分^{じゅうぶん}だというラビ〔ユダヤ教^{きょう}の
教師^{きょうし}〕たちがまちがっていること^しを知^しりま
した。また、7回^{かい}もゆるせば十分^{じゅうぶん}だろうと
かんが考えた^{かんが}ペテロもまちがっていました。それ
だけではありません。ほかにも覚^{おぼ}えておか
なくてはならないこと^{こと}があります。わたし
たちは、心^{こころ}からゆるさなくてははいけないと、
イエス様^{さま}は言^いわれました。それはどうい
う意味^{いみ}ですか？エペソ 4:32, コロサイ 3:13。

わたしたちはイエス様^{さま}に、罪^{つみ}をおゆるし
くださいと、なんども願^{ねが}いしますね？その
たびに、イエス様^{さま}は聞いてくだ
さいますか？
もちろんです。イエス様^{さま}は、わたしたち
が何^{なん}度もなんども、くり返し願^{ねが}いするの
で、うんざりしておられるでしょうか？いい
え、そうではありません。わたしたちがよく、
イエス様^{さま}の助け^{たすけ}がつかねに必要^{ひつよう}であること
をわすれて、まちがい^{おか}を犯^{おか}してしまうことを、
イエス様^{さま}はご存^{ぞん}知^じです。しかし、イエス



さま
様がわたしたちをゆるすこと
ができないようにさせるもの
が、何か^{なに}ありますか？マタイ
6:15, ルカ 6:37,38。

イエス様^{さま}は、わたしたちと
ずっと一緒^{いっしょ}にいたいと願^{ねが}って
おられます。しかし彼^{かれ}は、ほ
かの人^{ひと}に対して意地悪^{いじわる}な思
いをもった人^{ひと}たちを天国^{てんごく}にい
れることができるでしょうか？

わたしたちがイエス様^{さま}からされたように、
人々^{ひとびと}にもしてあげることを、イエス様^{さま}は望
んでおられます。そうすれば、わたしたち
は親切^{しんせつ}で愛^{あい}があり、またほかの人^{ひと}にどん
なことをされても、イエス様^{さま}のようにゆる
すことのできる人^{ひと}になります。それが、イ
エス様^{さま}に似た者^{もの}になるということです。

かんが 考えてみよう：あなたは、イエス様^{さま}に
毎日^{まいにち}ゆるしを求め^{もと}ますか？おそらく、そうし
ているでしょうね。わたしたちは、ゆるさ
れる必要^{ひつよう}がありますか？はい。それならば、
イエス様^{さま}がして下さ^{くだ}ったように、わたした
ちが他の人^{ほかひと}をいつでもゆるせるように、イ
エス様^{さま}に助け^{たす}けていただきましょ。そして、
ただわたしたちが他の人^{ほかひと}をゆるすときだ
け、イエス様^{さま}もわたしたちをゆるすことが
できることを、決^{けつ}して忘^{わす}れないでくだ
さい。このこと^{こと}をよくかんが^{かんが}えてくだ
さい。ゆるすとい
うのは、本^{ほん}当^{とう}に大^{たい}切^{せつ}な事^{こと}なのですから。

まな
もっと学^{まな}ぼう！

★マタイ 18:21-35

じつぶつきょうくん だい しょう
★キリストの実物^{じつぶつ}教訓^{きょうくん} 第19章



えら むずかしい選びとすてきなサプライズ

エイミー・シェラード

この物語は、エレンがオーストラリアで、イエス様の光を輝かせる働きを助けていたときのことです。彼女は、イエス様が学校をここに建ててほしいとお示しになった、大きな農場に住んでいました。彼女は、住んでいる家を「サニーサイド」と名づけました。

ある朝早く、エレンは家の近くにある庭のまわりを歩いていた。そこは、友人といっしょに種を植えた場所です。ひじょうに暑



Little Folk Visuals

い天気がつづいていたため、地面は渴いてひびが入り、彼らが植えた植物はほこりをかぶって、しおれていました。エレンは、植物に水が必要だと気づきました。

「ホワイト姉妹」農場主が彼女に言いました。「ここには風車が必要です。地下にはたくさんの水がありますからね。」

「よい風車は、どれくらいの値段で買えますか？」エレンは彼にたずねました。彼女は、何かの時のために、切り詰めて貯めてきたお金のことを考えていました。もしかすると、風車を買うべき時なのかもしれない。

農場主は、それがいくらかかるのかを急いで調べました。ところが彼がもどる前に、息子のウィリーが彼女に会いに来ていました。ウィリーと彼の家族は、道の反対側に住んでいました。自分のところへ歩いてくる息子が、不安そうな表情を浮かべているように見えました。「おはよう、ウィリー！」彼女は、あいさつしました。「雨が降り始めれば、すべては良くなるはずよ。」

ウィリーは、首をふりました。「お母さん、僕は天気のことを心配

なわけではありません。新しい療養所の働き人たちに給料を支払わなくてはいけないんだけど、そのお金がないんです」と彼は言いました。

これは一大事です。エレンは風車のことを考えました。しかし、働き人たちに給料を支払うことのほうが、もっと大事です。彼女は、こつこつ貯めてきたお金をとりに行き、ウィリーにわたしました。「これで、働き人たちにお給料を払ってあげなさい。」彼女は息子に言いました。ウィリーは、本当に感謝しました。母親が実際にどれだけの犠牲をはらったかを、知って

いたからです。

その夜、エレンは窓を開けてひざまずきました。彼女は、神様の数々の祝福と尊いお約束のすべてに感謝しました。オーストラリア全土で真理の光を燃やし始めるのを、神様が助けて下さっていることを彼女は知っていました。そして、どの家庭でもしているように、彼女は雨を求める祈りをささげました。

次の朝、エレンはもういちど、窓から外をのぞきました。稲光が黒い雲をつきぬけています。はるか遠くで雷が聞こえ、その音はだんだんと大きくなってきました。まもなく、渴いた植物の上に大粒の雨がザーザーと音をたてて降りかかり、ほどなくして植物たちは、ふたたびまっすぐに立ちました。

エレンは、イエス様に感謝をささげました。それから数日後、一通の手紙がエレンのもとへ届きました。それは、ある友人からの多額のお金のプレゼントでした。そのお金は、指導者たちを悩ませていた、いろいろな支払いを、全部すませられるほどの金額でした。

エレンは、もういちどひざまずいて、イエス様に感謝しました。それから外へ出て、庭を歩きました。土ぼこりはきれいに洗い流されていました。葉っぱの一枚一枚が、輝いていきいきしています。

そこへ、農場主が立ち寄りました。彼はにっこりしながら言いました。「おやまあ、ホワイト姉妹、神様は、わたしたちの問題をどうやって解決するのかをご存じなのですね。だって、そうでしょう？風車

の代わりに、天の窓を開いて下さったのですから。」